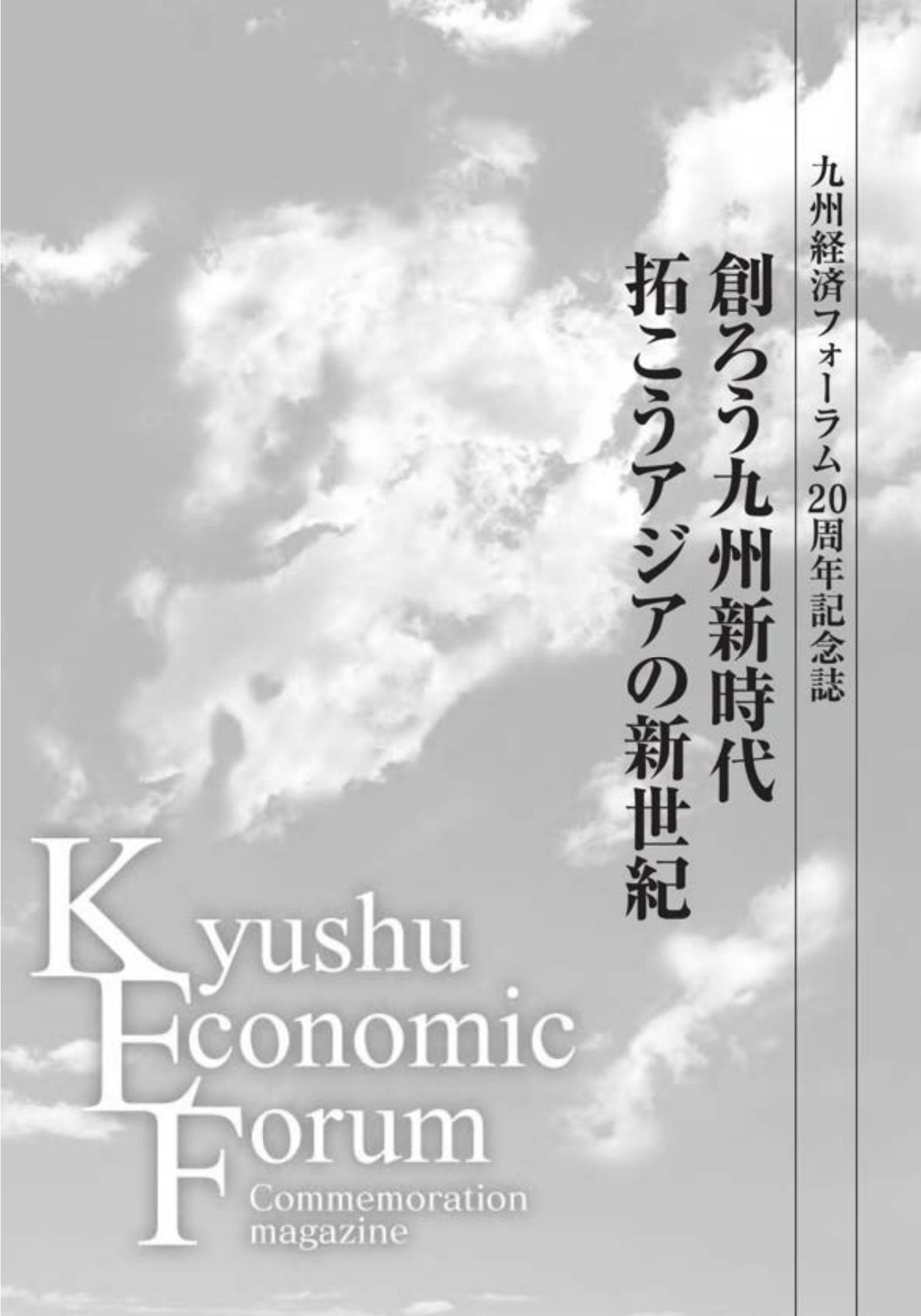


九州経済フォーラム20周年記念誌

創ろう九州新時代
拓こうアジアの新世紀

Kyushu
Economic
Forum
Commemoration
magazine



Kyushu
Economic
Forum
Commemoration
magazine

創ろう九州新時代
拓こうアジアの新世紀

九州経済フォーラム20周年記念誌

目次

創立20周年記念座談会	「九州経済フォーラムの昨日・今日・明日」	青柳泰秀氏、石原進氏、石村悟氏、井上良弘氏、入江正武氏、長谷川裕一氏、小早川明徳氏	福岡県知事 麻生渡氏
創立20周年記念事業	沖縄開催	次第	次第
プロローグ「琉球の古代基層文化」	下地隆司氏	福岡・沖縄交流懇談会	福岡・沖縄交流懇談会
歓迎挨拶「沖縄と九州・東アジアとの交流を共通課題として」	石原進氏	会長挨拶「沖縄で戦後六十年を総括し、新たな歩みを」石原進氏	会長挨拶「沖縄で戦後六十年を総括し、新たな歩みを」石原進氏
来賓挨拶「台湾には国際競争力ある新産業が発展」	陳唐山氏	来賓挨拶「台湾には国際競争力ある新産業が発展」	来賓挨拶「台湾には国際競争力ある新産業が発展」
乾杯	稲嶺恵一氏	乾杯	乾杯
閉会挨拶	橋田祐一氏	閉会挨拶	閉会挨拶
創立20周年記念朝食会	小堀啓介氏	功労者表彰	功労者表彰
開会挨拶	小早川明徳氏	功労者代表挨拶	功労者代表挨拶
記念スピーチ「沖縄経済・金融特区に関する振興活動について」	小西龍治氏	表彰者一覧・記念品・当日記念品	表彰者一覧・記念品・当日記念品
記念スピーチ「沖縄における情報通信産業」	久場川森男氏	閉会挨拶	閉会挨拶
謝辞	仲上健一氏	長谷川裕一氏	長谷川裕一氏
創立20周年記念シンポジウム	高江洲文雄氏	創立20周年記念式典	創立20周年記念式典
開会挨拶	陳唐山氏	開会挨拶	開会挨拶
来賓挨拶	小田村四郎氏	来賓挨拶	来賓挨拶
基調講演「我が国の歴史と今日的課題」	小田村四郎氏	小林貞雄氏	小林貞雄氏
パネルディスカッション「日本の国柄を考える」	久場川森男氏	田尻英幹氏	田尻英幹氏
コーディネーター 遠藤浩一氏	仲上健一氏	入江正武氏	入江正武氏
閉会挨拶	廣崎靖邦氏	博多手一本	博多手一本
創立20周年記念慰靈顕彰祭	高江洲文雄氏	九州の祭りフェスティバル	九州の祭りフェスティバル
慰靈祝詞	陳唐山氏	博多祝い歌	博多祝い歌
沖縄慰靈祭 祭主祭文	小田村四郎氏	閉会挨拶	閉会挨拶
沖縄記念事業に寄せることが	久場川森男氏	九州の祭りフェスティバル	九州の祭りフェスティバル
戦跡視察	山口秀範氏	博多手一本	博多手一本
伊藤陽夫氏	山口秀範氏	大内田勇成氏	大内田勇成氏
創立20周年記念式典	橋田祐一氏	橋田祐一氏	橋田祐一氏
開会挨拶	麻生渡氏	花束、記念品贈呈	花束、記念品贈呈
創立20周年記念講演会	長谷川裕一氏	謝辞	謝辞
福岡開催	長谷川裕一氏	福岡開催	福岡開催
あとがき	伊藤陽夫氏	九州経済フォーラム20年の想い出	九州経済フォーラム20年の想い出
九州経済フォーラム歴代会長	伊藤陽夫氏	九州経済フォーラム思い出のエピソード集	九州経済フォーラム思い出のエピソード集
平成18年度九州経済フォーラム役員	伊藤陽夫氏	(株)西日本シティ銀行頭取 久保田勇夫氏	(株)西日本シティ銀行頭取 久保田勇夫氏
九州経済フォーラム歴代役員一覧	伊藤陽夫氏	福岡工業大学非常勤講師 入江正武氏	福岡工業大学非常勤講師 入江正武氏
九州経済フォーラム例会、早朝会、車座談議、定期総会開催記録	伊藤陽夫氏	九州マップ	九州マップ
企業広告ページ	伊藤陽夫氏	九州マップ	九州マップ

九州経済フォーラムとは



ご挨拶

九州経済フォーラムは、お蔭様をもちまして創立20周年を迎えることができ、ここに記念誌を発刊することとなりました。

平成17年8月に故大迫忍前会長の後を引き継ぎ、3代目の会長に就任致しましたが、初代会長長谷川裕一氏と2代目大迫忍氏の後任として、非常に責任を感じましたことを懐かしく思い出します。就任後の事業にあたっては、常に「九州は一つ」ということを念頭に置き、事業を推進して参りました。各県との交流懇談会が良い事例ですが、これまで未開催であった宮崎、沖縄、長崎の各県全てと開催することができ、九州全県との交流懇談会実施という目標を達成致しました。

また何といましても一大事業であった創立20周年記念事業が思い出されます。沖縄と福岡両県にて開催致しましたが、開催までの苦労も多く、とりわけ感慨深いものであります。沖縄での開催趣旨は、九州・沖縄の地域連携の強化、ふれあいによる共同体意識の醸成を図る。九州、

沖縄の地域振興を図るためアジアを見据え、九州・沖縄の新たな可能性を模索する。我が国を取り巻く教育・外交・防衛・領土領域・憲法等の諸課題に対し、論議を深め日本国家の在り方を考える。人材の発掘・育成・交流の場つくりに努める。九州経済フォーラムの次なる展望を描き、新たな役割意識を共有する記念事業とする。ということです。さいましたが、なにぶん沖縄での当フォーラムの知名度不足から、ご協力ご賛同を得るのに大変苦労致しました。今回の開催趣旨を最終的には皆様にご理解頂き、200名を越える方々にお越し頂くことが出来たため、地域連携について有意義な交流ができたと考えます。

また、日本・韓国・中国それからパネリストを向かえ、日本の国柄を考えるシンポジウムの開催は、九州・沖縄との地域連携の強化や地域振興、今後のアジアを見据えた九州・沖縄の新たな可能性を模索し、また日本の国家のあり方を考えると共に人材交流・育成を含めた様々な場づくりを行うための絶好の機会となりました。

創立20周年記念事業の締めくくりと致しまして、福岡にて記念式典を開催致しました。記念式典では、当フォーラムの功労者9名に対する表彰や、麻生外務大臣をお迎えしての講演など、盛会のうちに記念事業を終了致しました。

これから当フォーラムは新たな第一歩を踏み出しますが、当初の活動目的である「九州に活動の拠点をもつ若手経済人の意思と情熱を結集し、国家的・国際的視点に立つ中央の行政、経済界の新鋭かつ優秀な人材との交流活動を推進し、会員の啓発、親睦を高め、九州各地域に豊かな見識と強固な指導力をもつた経済人を育成する」「行政関係出先機関のトップと九州各県の行政及び経済人等の交流促進を図り、九州の経済界の活性化を推進する」ことに立ち戻り、「創ろう九州新時代、拓こうアジアの新世紀」のスローガンのもと事業を推進して参ります。

九州フォーラム 会長
石原 進



ご祝辞

経済産業省 事務次官

北畠 隆生



九州経済フォーラムが二十周年を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。

仕掛け人の長谷川さん、石村さんにお誘われて二十年前に福岡でハネラ一をつとめました。香蘭社の故深川正社長が「従業員融和の基本は自宅でのカラオケバーで、今から一曲やります。」といって、マイクを握られたのには、度胆を抜かれました。ファインセラミックスに進出した有田焼の老舗、米国進出まで企てる仏壇屋さん、ホワイトデーにはマシュマロをという東大出の饅頭屋さんなど、ユニークな経営者が多いなと思いましたが、その活動を銀行、電力、地元自治体などがしっかりと支えていることにも感銘を受けました。そうした地元の協力関係が、九州経済フォーラムの結成に

つながったものと思います。
今、日本で最も元気な地域は、九州、福岡です。早くから、自動車、電子産業の育成に取り組み、地域独自の活動としてアジア各との交流を進め、計画的にインフラを整備してきた九州は、先見の明がありました。石原会長をはじめなぜか古くからの友人、知人が多い福岡で、三月に事務次官として、そういう趣旨の講演と記者会見ができたことを嬉しく思っております。

地域の発展をリードしてこられた九州経済フォーラムの益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

● 平成12年12月 第29回 定例会講師
通商産業省 大臣官房総務審議官(当時)

ご祝辞

福岡県知事

麻生 渡

九州経済フォーラムが創立20周年を迎えたことを心からお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、昭和61年の創立以来、九州各县と各界の交流の場として長きにわたり、九州経済界の活性化に大きく貢献してこられました。これもひとえに、石原進会長はじめ会員の皆さまのご努力とご熱意のたまものと深く敬意を表します。

世界は、経済、政治、文化などあらゆる分野で相互依存関係が深まっています。このグローバリゼーションの大潮流のもと、世界経済は着実な成長を続けています。経済活動が国境を越えて行われ、地域間競争が熾烈になる中、競争力を高め、より発展していくためには県の枠を越えた取り組みが必要です。このため、平成17年4月には九州7県と経済界が一体となつて九州観光戦略を実行する組織を立ち上げ、

九州に観光客を誘致する施策を推進するなど新たな取り組みも始まりました。また、自動車産業の二層の集積に向けて、昨年1月に九州自動車産業振興連携会議を設置し、九州7県が連携して、地場企業の参入促進支援を行っているところです。今後は「九州は一つ」のかけ声のもと、お互いの力をさらに結集していくことが大事です。こうした点からも、九州経済フォーラムにおける交流活動は大変意義深いものであり、九州経済界のさらなる活性化とアジアに向けた新しい時代をリードされることを大いに期待いたします。

最後に、九州経済フォーラムのますますのご発展と会員の皆さまのご健勝、ご活躍を祈念いたします。

● 昭和63年3月 第8回 定例会講師
通商産業省 大臣官房総務課長(当時)
● 平成10年8月 第8回 車座談義講師
福岡県知事

九州製油フオーラム相談役
初代会長／長谷川 裕三



九州経済フォーラム会長 石原 進
15周年記念事業実行委員長



九州経済フォーラム相談役 入江 正武
5.10.15周年記念事業実行委員会



九州経済フォーラム監事 石村 喬悟
5、10、15年記念事業実行委員会



【入江】昭和61年の発起人会のメンバーは63人でしたね。けれども、例会に出でる人はもっと少なかつた。

【井上】先ほどの本会の原点、コンセプト
という話ですが、この2つは分けて考え
ると九州経済フォーラムの歴史的な側面、
役割が分かるよう思います。ここで一
つ言えるのは周囲の環境がどんどん変わ
っていくわけですから、会全体も変わつて
いくのが当たり前であるということです。
第一、我々の年齢も大きく変わりました。
若いということは、組織・団体にとつては

良い」とて九州経済フォーラムが少しずつでも若くなっていくことで自由な雰囲気を持った会にしていくというのが、これから大事になってくると思います。問題は、コンセプトと原点をどのように維持していくかということなんですが、そうしたことを考える場合、自らの属性を考えると感覚的につながりやすいと思うんです。九州という属性の中で、自分たちは何者か、自分たちはどこにいるのか、九州のアイデンティティとは何か、世界との違いは、という風に考えることで原点にたどり着くのではないかと思います。組織が大きくなってきて原点が忘れられているという話がありましたが、組織

ルギーが変わつてきているのだと思います。時代の変化が目まぐるしい中、我々自身がどこに向かっているのか検証することで、将来に向けた考え方をまとめたいですね。

【長谷川】三菱経研の故牧野昇さんなどは、国のあるべき形や地方の自立、九州の立場などについて広い視野で語り合っていましたが、しかし時代の変化のスピードは思った以上に早い。当時から、私たちはアジアの時代が来ると言つていましたが、それがこんなに早く実現するとは思つてもいなかつた。

【青柳】 インターネットの分野の発展も著しい。10周年のときにインターネットについての話があつて、インターネットが情報革命をもたらすということが盛んに言われていましたが、全くその通りにインターネットが不可欠な情報社会になつた。携帯電話もそうですが、インターネットがビジネスの仕組みそのものを変えて、それなりにはビジネスが成立しないようになつていますものね。

【入江】 産学官の必要性を説いたのも本会は早かつたように思う。当時は、大学教授が企業に接近すると変な目で見られる風潮がありましたが、今では産学

うになつた。ただ、最近の産学官連携を見ていると、集まつてさえいれば何かが出来るかもしれないというどこか漠然とした感じが強くなつてきているようだ。思う。メンバーは各界を代表するようなうそそうたるメンバーがそろつて割合に、何かを創造していくソフトが欠如しているような気がしている。

【入江】企業から何かしら相談があつたときの大学側の対応に問題があるよう思う。多くの先生は、自分の専門分野を持つていて、相談内容が専門から外れるとそれでお終いになる。そうではなくて、自分の専門ではないにしても、少なくとも先生の方が学問的な情報を得やすい立場にいるわけですから、どこかの先生を紹介したり探し出してあげる努力はすべきでしょう。

【石原】それには、お互に信頼しあえる

経済フォーラムはそうした信頼関係構築の場になれると思う。いろんな事業やイベ
ントを通じて信頼関係を醸成していく。
ここで本題に戻りますけど、ここ)のところ
は出来てきていると思う。車座議論など
ももうとやつたほうが良いかもしれない。
それから、各県との交流会や懇談会をや
ってきて、これはこれでばらしいこととな
んだけれども、それによつて産官学のネット
ワークが出来てきているかというと、必
ずしもそうではない。もう一段階進めるた
めには新しい仕組みが必要で、例えば九州
ユービジネス協議会のように熊本、鹿児
島に支店を作るとか、そんなことを考えて
もいいんじゃないだろうかとも思う。

向に對して、東京何するものゾ、九州は九州でがんばろうというエネルギーみたいなものがあり、それをやりながら九州では福岡一極集中を招いてしまったという自己矛盾があつた。これは、大いに反省すべきであり、これを今後どう生かすかという部分を忘れていたようだ。

九州経済フォーラム 井上 良弘



元九州経済フォーラム 青柳 泰秀



九州経済フォーラム
事務局長 小早川 明徳



12

Kyusyu economic forum
the 20th anniversary in
establishment business

創立20周年記念事業

九州経済フォーラム

沖縄開催P17~P50

とき:平成18年4月28日(金)、29日(土)
ところ:ザ・ナハテラス
平和祈念公園

福岡開催P51~P73

とき:平成18年7月31日(月)
ところ:西鉄グランドホテル

主催／九州経済フォーラム

共催／福岡商工会議所、北九州商工会議所

後援／佐賀県商工会議所連合会、長崎商工会議所、
熊本商工会議所、大分商工会議所、別府商工会議所、
宮崎県商工会議所連合会、鹿児島商工会議所、
那覇商工会議所、沖縄県商工会連合会、
沖縄県中小企業団体中央会、沖縄経済同友会
福岡県、北九州市、佐賀県、長崎県、熊本県、
大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県（順不同）

【長谷川】 私は、何と言つてもインフラ整備が必要だと思う。九州の強みは、アジアとの結節点となることだから、インフラ整備は何より優先したほうがいい。九州は、地理的にはアジアに近いが、物事が前に進まないから、結局は東京より遠いことになってしまいます。アジアの玄関口としての実体を持つためには、やはり経済界と行政がしっかりと連携してインフラ整備を進めることが重要です。アクセスが良くないと、人は集まつこない。

【小早川】 九州の方向性と九州経済フォーラムの次の課題は見えてきたような気がします。本会が踏み出す第一歩は、かつて20年前に本会を創立した人たちと同様の年齢でエネルギーを持った人たちを取り込んで、その人たちに具体的な事業をリードしてもらう環境をこれから作っていく。その手始めに、合宿なども着手で主催してもらうところから始めるといいますね。

【入江】 若手の学者や、トト関連の技術者などにも参加してほしいと思うけれども、どちらも本当に忙しくてなかなかこうした会合に出る時間ががないのが残念で仕方がない。20年前は、それぞれの業種の人が、それぞれに主導してやっていたけれど、経営者

が否応なく忙しさに引き込まれてしまつているようにも見える。そういう中で、若い経営者がこうした会合に出でられるだけの情熱を持つことが出来るのか。

【石原】 九州にそうした有望な企業があるかどうかというのも問題。先端技術を有する企業は、やはり大都市に集まつていて、九州の場合はR&D機能も付いて来てはいるけれども、どちらといえば組み立て工場が多い。

【長谷川】 江戸時代には、九州には30近く国があつて、それぞれが個性をもつて地域に土着した文化を作り上げていた。これが今、崩壊の危機に瀕している。何とか継承する方法を考えるべき時期にさしかかっている。九州が、万華鏡のように輝くためには、おらが村の文化を競い合うようなことが必要で、それを壊してしまつては九州の魅力は本当になくなつてしまつ。地域の固有の文化を見直すことで地域の輝きを取り戻す必要があると思う。

【小早川】 ありがとうございました。もう時間が参りました。今日の座談会は、組織としての課題と今後の方向性、九州経済フォーラムが展開する事業展望などについての課題が浮き彫りになつたと思います。本日は、大変ありがとうございました。



琉球の古代基層文化

中華書局影印



「こんにちは、下地と申します。今日は『琉球の古代基層文化』という堅苦しいタイトルなんんですけど、私がどうしてこういう場でお話することになったのかといふことも含めてお話ししたいと思っています。中身の方は私が沖縄の古老、おじいさん、おばあさんですね、私の頭の中では古老のことは88歳以上のおじいさん、ばあさんなどということになりますが、その古老との交流の中から発見したいいろいろの話です。ところどころ沖縄の言葉を使いますが、多分分かるはずです。始めたいと思います。「ハイサイ ハイサイ ハイサイ グス

ちは。「ワシネー 下地ディルムンヤイビー
ン ユタサルグトウ ウニゲーサビラ」私、
下地と申します。よろしくお願ひいたします。
識者でもない学者でもない私が、こ
の席に上がるのも大変心苦しいところな
ですが、私、昭和41年、丙午なんです
が、沖縄県那覇市若狭に生まれました。
生まれた時は琉球政府の時代、俗に言う
アメリカユという時代です。子供のころ、
ドルで小遣いをもらつておりました。当時
360円という相場なので、子供の小遣い
ですから1セント、10セントでもらうの
ですが、1セントが3・6円の時代に生ま
れています。私が小学校入学の時が祖
国復帰で、幼年期をそういう時代で過ご
しております。これから写真を数枚お見
せしながら、出会ったこと、思ったことを
話していきますが、私は41年生まれの
人間なので、沖縄の場合世代間で微妙に
考え方が違っています。決定的に違うの
は、やはり先ほど言った88歳以上ですね。

がおられ、この方は30年以上も沖縄の方言キャスターを務めているのですが、私が30年以上ラジオで方言キャスターというのをやっているんですが、実はヤマトの言葉を考えて沖縄の言葉でしゃべっている」。あえてイディオ・ウチナンチュー、ウチナーグチで考えてウチナーグチでしゃべれる人は88歳、もしくは90歳以上ですね。このような古老の話と沖縄の祈りの話の中から、日本のような、中国のような、沖縄のような不可思議な空気を感じていただければ幸いです。那覇から中国大陆へ向かって100キロのところに久米島がありまして、そこで5月のマチイ、マチイというのは沖縄の旧暦で15日ですが、この日に毎月お祭りがあります。これは38年前の写真ですが、沖縄では地域、地域でお祈りをするカミンチュー(神人)がいます。本来、琉球王府の時代には「ヌール」と言われまして、祝人ですね。だれでもなれるわけでは

村落の政治以外の心の中心でした。現在は「ヌール」と言われる方は、もう4人しかおりません。」の方が久米島の「ヌール」です。私は、この方には会うことができませんでしたが、この写真を見ますと落ち着くんですね。何か美しいというか、シワの二つひとつに何かしびれるものを感じます。そんなことを酒飲みながら同級生に話しますと、ユタムニーと言われてしまいります。ユタムニーというのは、ちょっとカルト的なという意味でして、同じ世代で私は浮いている存在のようです。生まれ、地域とかは別にしまして、私は祈りを奉げているおじいさん、おばあさんには非常に魅力を感じます。これはヤマトの方にも通じることだと思います。」の「ヌール」というのは、女の神様で「ウナイ」神というきょうだい神が必ずいます。お祭りは、この2人を中心に行われるわけですが、この写真はお祭りが終わった後撮ったお2人ですね。」の方の子孫はいません。ただ、

九州経済フォーラム創立20周年記念事業(沖縄開催)

次 第 《平成18年4月28日(金)》

プロローグ	17:30	講演 テーマ/[琉球の古代基層文化] 講師/Team浮島代表 下地 隆司 氏
交流懇談会	18:00	開会 歓迎挨拶/沖縄県知事 稲嶺 恵一 氏 開会挨拶/九州経済フォーラム 会長 石原 進 (九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長) 来賓挨拶/中華民国総統府 秘書長 陳 唐山 氏
	18:40	歓待の舞 四つ竹
	18:45	琉球芸能 噴舞~い
	19:00	乾 杯/小堀啓介法律事務所 所長 小堀 啓介 氏
	20:00	閉会 閉会挨拶/九州経済フォーラム 副会長 橋田 総一 (九州電力(株) 常務取締役)

次第 《平成18年4月29日(土)》

記念朝食会	7:30	開会 開会挨拶／九州経済フォーラム 事務総長 小早川 明徳 ((社)福岡県中小企業経営者協会 会長)
	8:00	記念スピーチ／九州大学大学院経済学府 産業マネジメント専攻教授 小西 龍治 氏 テーマ／【沖縄経済・金融特区に関する振興活動について】 沖縄県情報通信関連産業団体連合会 会長 久場川 森男 氏 テーマ／【沖縄における情報通信産業】
	8:50	お礼の言葉／九州経済フォーラム 理事 仲上 健一 氏 (立命館アジア太平洋大学 副学長)

記念シンポジウム---- 9:30 開 催

	開会挨拶／九州経済フォーラム 副会長 高江洲 文雄 (西日本電信電話(株) 取締役福岡支店長)
	来賓挨拶／中華民国總統府 秘書長 陳唐山 氏
9:55	基調講演／講師 小田村 四郎 氏 テーマ／【我が国の歴史と今日的課題】
10:55	パネルディスカッション テーマ／【日本の国柄を考える】 コーディネーター 遠藤 浩一 氏 パネラー [日本] 小田村 四郎 氏 [韓国] 吳善花 氏 [台湾] 黄文雄 氏

閉会挨拶／九州国立博物館振興財团 事務理事 廣崎 錦郎 氏

泡麵·南方諸地城戰役者數實顯影無

13:10 ホテル出発
14:00 慰靈参拝
15:00 平和祈念公園出発

勾玉というのがあります。それを預かっている、あるお兄さんがいるんですね。今はいませんけども、何年か後に大阪の方からやつてくると予言されています。私はしましても最初は眉唾な話だつたんです。今は何かあるんだろう、何か祈りの力みたいなものを感じています。これから沖縄の歴史と地理のことを話しながら、このところを少し解説してみたいと思います。これは沖縄県を中心に同心円を書いたものですが、当然北に日本があり、北西の方に朝鮮があり、西に中国、南に東南アジア諸国がありますね。ところが、沖縄のおじいさん、おばあさんはそういう感覚ではありません。まず、我々琉球としては大陸の方に親国・唐がある、北の方にヤマトという国がある。朝鮮のことは兄弟国・朝鮮と言います。お分かりのように、ヤマトには兄弟も何もつけません。そして、フリーピンを含めた島々の国を「ナンバン」、あるいは「マナバン」と言います。西洋人のことは、アメリカ人であろうと、ギリス人であろうと、みんな「ウランダ」と言います。「ウランダ」はオランダのことですね。ですから、ドイツ人のことをウランダのドイツという感覚を今でも持っているんです。これは、明の時代、琉球が冊封体制というのに入り、一つの安全保障体

いますし、誇り高さを感じます。それも、この絵は沖縄の人人が描いたのではなく、戸時代に浮世絵を描いていた人の作品なんです。当然、朝鮮使も来ます、沖縄も来ておりますが、沖縄は派手ですよね。本当に誇りもないのだったら、こういうふうに描かれるわけはありません。近世文学者の中、最初のベストセラーと言われるのは、滝沢馬琴が書いた「椿説弓張月」というSFです。それを見ましてもヤマトの大衆には沖縄が刺激的で、いろいろ影響を与えたのだろうと思います。逆に沖縄もヤマトのものを取り入れていきました。組踊りというのは、その二例だと思っています。そのように、すべての文化を混ぜ合わせてつくり出す力というのは、世界に誇り得る最大の力だろうと思います。

こうした本当に誇り高い我々の先祖の姿を目の当たりにしますと、少しずつ落ち着いていきますね。では、沖縄が誇るべきものは何ですか。工芸、芸能いろいろと見てみますが、私が行き着いた先はソバ屋のあちやんでした。面白いんです。ちょうどしたエピソードをお話したいと思いますが、「タツノミヤビト」という話を聞かれたことはござりますでしょうか。龍宮という意味です。東海道を、当然薩摩が先で、その後を沖縄が爆竹を鳴らしたり、ビービー

と言わっています。ヤマトにはもう一つの言い方がありますね。「ウフヤマト」、大きなヤマトという意味です。1609年に薩摩が入ってきて、沖縄は時代の変換期を迎えます。実はヤマトというのは、以前は鹿児島のことでした。そして明治以降の日本人のことを総称して「ウフヤマト」とおばあさんたちは使い分けているんです。このへんが非常に面白いですね。歴史のことをさらっと流します。昨今歴史認識等を含め、いろいろと新聞等をにぎわせていましたが、私は単純に自分が思っていることを述べたいと思います。日本で初めて文字が出てきたのは古事記、聖徳太子の御世です。沖縄にも古い書物はあります。沖縄人による沖縄人を書いた書物は、1772年の「中山世鑑」が最初です。つまり、薩摩が入ってきた後に出ていているんですね。沖縄にも古い書物はありますが、それが入ってきた後に出ているんですね。では文字がなかつた沖縄は、文化レベルが低かったのかというと、決してそういうことはなく文字も言葉も必要としない、祈りを中心とした豊かな世界があったのだと思います。沖縄は明の洪武帝の時代に中国の冊封という体制に入りました。次に首里城を造った第3代目の王の尚氏王が、秀吉が行つたような刀狩りを行いました。その後、琉球は武器を一切放棄する時代になり、完全な中央集権になります。世代わりですね。まず1回

が出来たのは古事記、聖徳太子の御世です。沖縄にも古い書物はあります。沖縄人による沖縄人を書いた書物は、1772年の「中山世鑑」が最初です。つまり、薩摩が入ってきた後に出ていているんですね。沖縄にも古い書物はありますが、それが入ってきた後に出ているんですね。では文字がなかつた沖縄は、文化レベルが低かったのかというと、決してそういうことはなく文字も言葉も必要としない、祈りを中心とした豊かな世界があったのだと思います。沖縄は明の洪武帝の時代に中国の冊封という体制に入りました。次に首里城を造った第3代目の王の尚氏王が、秀吉が行つたような刀狩りを行いました。その後、琉球は武器を一切放棄する時代になりました。完全な中央集権になります。世代わりですね。まず1回

が出来たのは古事記、聖徳太子の御世です。沖縄にも古い書物はあります。沖縄人による沖縄人を書いた書物は、1772年の「中山世鑑」が最初です。つまり、薩摩が入ってきた後に出ていているんですね。沖縄にも古い書物はありますが、それが入ってきた後に出ているんですね。では文字がなかつた沖縄は、文化レベルが低かったのかというと、決してそういうことはなく文字も言葉も必要としない、祈りを中心とした豊かな世界があったのだと思います。沖縄は明の洪武帝の時代に中国の冊封という体制に入りました。次に首里城を造った第3代目の王の尚氏王が、秀吉が行つたような刀狩りを行いました。その後、琉球は武器を一切放棄する時代になりました。完全な中央集権になります。世代わりですね。まず1回

が出来たのは古事記、聖徳太子の御世です。沖縄にも古い書物はあります。沖縄人による沖縄人を書いた書物は、1772年の「中山世鑑」が最初です。つまり、薩摩が入ってきた後に出ていているんですね。では文字がなかつた沖縄は、文化レベルが低かったのかというと、決してそういうことはなく文字も言葉も必要としない、祈りを中心とした豊かな世界があったのだと思います。沖縄は明の洪武帝の時代に中国の冊封という体制に入りました。次に首里城を造った第3代目の王の尚氏王が、秀吉が行つたような刀狩りを行いました。その後、琉球は武器を一切放棄する時代になりました。完全な中央集権になります。世代わりですね。まず1回

が出来たのは古事記、聖徳太子の御世です。沖縄にも古い書物はあります。沖縄人による沖縄人を書いた書物は、1772年の「中山世鑑」が最初です。つまり、薩摩が入ってきた後に出ていているんですね。では文字がなかつた沖縄は、文化レベルが低かったのかというと、決してそういうことはなく文字も言葉も必要としない、祈りを中心とした豊かな世界があったのだと思います。沖縄は明の洪武帝の時代に中国の冊封という体制に入りました。次に首里城を造った第3代目の王の尚氏王が、秀吉が行つたような刀狩りを行いました。その後、琉球は武器を一切放棄する時代になりました。完全な中央集権になります。世代わりですね。まず1回

が出来たのは古事記、聖徳太子の御世です。沖縄にも古い書物はあります。沖縄人による沖縄人を書いた書物は、1772年の「中山世鑑」が最初です。つまり、薩摩が入ってきた後に出ていているんですね。では文字がなかつた沖縄は、文化レベルが低かったのかというと、決してそういうことはなく文字も言葉も必要としない、祈りを中心とした豊かな世界があったのだと思います。沖縄は明の洪武帝の時代に中国の冊封という体制に入りました。次に首里城を造った第3代目の王の尚氏王が、秀吉が行つたような刀狩りを行いました。その後、琉球は武器を一切放棄する時代になりました。完全な中央集権になります。世代わりですね。まず1回



会長挨拶

「沖縄で戦後60年を総括し、新たな歩みを」

九州経済フォーラム 会長 石原 進（九州旅客鉄道（株）代表取締役社長）

平成18年4月28日（金） 於 ザ・ナハテラス

福岡・沖縄交流懇談会

九州経済フォーラムは、丁度20年前、昭和61年3月5日に長谷川 裕氏（株）はせがわ代表取締役社長が中心となり、当時の九州の若手経済人が力を合わせて九州づくりを行う目的で作った会でございます。国内あるいは国際的に活躍している有識者の皆様方との交流や議論を中心に活動しております。また最近力を入れているのが、このような交流懇談会です。会員の相当数はやはり福岡でございますので、福岡の会員が中心となって九州各県と交流しております。県によって回数は違いますが、大分県で4回、熊本県で3回、鹿児島

宮崎・佐賀の各県で各1回行つております。と残るのは長崎県のみとなつております。

その長崎県でも9月に交流懇談会を行う予定です。

戦後61年経ち、振り返つてみますと沖縄は大東亜戦争で大変大きな犠牲を蒙り、多くの皆さんが亡くなられたことに対し、私どもは敬意と感謝の気持ちを表すわけでございます。同時に戦後61年経つても、安全保障・外交等で日本はまだ解決されていない多くの問題を抱えており、またその問題はますます大きくなっているのではないかという感じさえ致します。国民の問題意識も高まっております。県によって回数は違いますが、大分県で4回、熊本県で3回、鹿児島

さえいたします。

とりわけ、安全保障に関しましては、米軍の配置問題について、沖縄の皆様には大変な負担をかけているところであります。私どもはきちんととした立派な日本をつくり、それを子供たちに引き継いでいく責任があります。もう一度戦後60年を考え直す場所として、皆で沖縄の方からお話を聞き、現実の沖縄の歴史に触れてみようということで、ここ沖縄の地に参りました。

この九州経済フォーラムの交流懇談会が本当に有意義なものとなりますことを心から祈念致しまして、私の挨拶とさせて頂きます。

言葉がありました。若狭の言葉、辻の言葉、港町の言葉、泉崎の言葉、松山の言葉、泊の言葉、久米という華僑の言葉です。今は3つです。私が生まれ育ち、今も住んでいる若狭は職人の町ですが、3年前に金城さんというおじいさんが亡くなった時、残念ながら言葉が1つ減りました。私はそういうことが大切なんだけどなあと言うのですが、仲間内では浮いた存在ですね。芸能等々でもいろいろ頑張っておら

れる先生もいらっしゃいますが、肝心要の沖縄の人には響いていない気がします。そういうことを評価いただけるのは、むしろ県外の方が多いというのが沖縄の実情なんだと思います。だから、80、90歳沖縄は復興できるのかとなりますと、非常に危ないなあというのが率直なところですね。そういうことを沖縄護國神社宮司代務者の伊藤先生とか、伊藤先生からご紹介をいただいた小早川先生と話しました時、「ヤマトもそれどころではないんだよ」という話になりました。じや折りのある生活とか、そのおばあさんとかを沖縄の鏡とし、それで九州や日本を見れば、いろんなものが見つかるのではないかといふことで盛り上りました。話はその場で終わらはずだったんですが、後日、小早川先生から電話があり、「その」とを君が語れ」ということになり、こうやってこの場に立ち、支離滅裂な話をしているわけです。では、これをムーブメントするにはどうしたらいいか、いろいろ考えているんですが、考える前に動こうと思いまして、とりあえずおじいさん、おばあさんから話を聞き、面白いものを取つて、インターネットを使って県内に投げています。ただ、残念ながらこれは反応が薄いですね。今

200年の歴史を持つ伝統的な日本の妖怪はちょくちょく「自分の作品のモチーフは妖怪が必ずいるんだよ」とおっしゃるんですね。この地図は、少なくとも100年、崎駿先生のスタジオジブリとお話をさせただく機会があつたんですが、宮崎先生はちよくちよく「自分の作品のモチーフは妖怪が必ずいるんだよ」とおっしゃるんです。そこで盛り上りました。話はその場で終わらはずだったんですが、後日、小早川先生から電話があり、「その」とを君が語れ」ということになり、こうやってこの場に立ち、支離滅裂な話をしているわけです。では、これをムーブメントするにはどうしたらいいか、いろいろ考えているんですが、考える前に動こうと思いまして、とりあえずおじいさん、おばあさんから話を聞き、面白いものを取つて、インターネットを使って県内に投げています。ただ、残念ながらこれは反応が薄いですね。今

200年の歴史を持つ伝統的な日本の妖怪をしゃべっているはずなんです。それで九州にもいるはずで、二反木綿なんて鹿児島だとしますし、沖縄ではキジモチがいます。宮崎先生いわく「ウルトラマンも仮面ライダーも、それからトトロ、これらも現代の妖怪」なんですね。でもクリエイティブな作品を作るうえで、売るための1つの原則があります。そういうメルヘンを持つ妖怪というのは、標準語をしゃべっちゃいけないという原則です。言葉をしゃべった瞬間にメルヘンが崩れるわけですね。古くからいる伝統的な妖怪は言葉をしゃべれ

び上がってくると思いますし、その時に初回を契機に九州に投げてみたいと思いまので、皆さんもぜひおじいさん、おばあさんのお話を聞きながら妖怪復活計画と言います。世代間、地域間の交流をどう思います。世代間、地域間の交流をどういう具合に進めようかと考えました時、1つだけ夢というか、野望というか、企みがあります。これをご覧いただきたいと思います。これは日本の妖怪マップです。私の仕事のつながりで、アニメの巨匠、宮崎駿先生のスタジオジブリとお話をさせただく機会があつたんですが、宮崎先生はちよくちよく「自分の作品のモチーフは妖怪が必ずいるんだよ」とおっしゃるんですね。この地図は、少なくとも100年、崎駿先生のスタジオジブリとお話をさせただく機会があつたんですが、宮崎先生はちよくちよく「自分の作品のモチーフは妖怪が必ずいるんだよ」とおっしゃるんですね。この地図は、少なくとも100年、

回を契機に九州に投げてみたいと思いまので、皆さんもぜひおじいさん、おばあさんのお話を聞きながら妖怪復活計画と言います。世代間、地域間の交流をどう思います。世代間、地域間の交流をどう進めます。そのあたりで九州との交流が進めば非常にうれしく思います。支離滅裂な話になりましたが、お時間をいただきましてありがとうございました。



【歓迎挨拶】

「沖縄と九州—東アジアとの交流を共通課題として」

沖縄県知事 稲嶺恵一氏



今年は琉球が沖縄になつてから120年になります。その間27年間は米国の統治下にありましたから、私は今年が日本人として丁度100年目であると言つております。実はこの27年間は大変難しい時代であります。この27年の間に米軍基地がたくさん設けられ、在日米軍基地の75%が沖縄にできたという状況がございます。そのためこの基地問題が私の仕事の大半を占めているわけです。が、本来は外交、防衛というのは国全体、国民全体の問題です。今後色々な形で米軍再編の議論が深まり、それにより沖縄が抱えている問題も一歩ずつ解決の方向に向かうのではないかと、期待しているところでもあります。

沖縄の経済状況をお話しますと、飛び抜けで伸びているのが観光です。復帰した時の観光客は44万人でしたが、昨年は550万人、今年はおそらく565万人はいくだらうと思つております。実を申しますと大半は国内からで、今後は中国をはじめ海外の方も積極的に伸びていきたいと思っています。

また、ここにところ伸びてきたのが情報通信関連産業です。私が知事になってから情報通信関連産業の企業誘致は100社を超ました。東京、大阪に光ファイバーを敷設し、これを無料で貸しております。また特別自由貿易地域、あるいは金融特区など沖縄だけの特別の制度も展開していくたど思つております。ただ基地に依存する経済ということで、スタートが大変遅れたものですから、まだまだ自立にはほど遠いということになります。

沖縄で最も大きな期待は、世界的な新

【来賓挨拶】

「台湾には国際競争力ある新産業が発展」

中華民国総統府秘書長 陳唐山氏



九州経済フォーラムは、地域経済の発展を目的に1986年に発足して以来、国際交流、人材育成、環境保護など各分野に関する諸提言を行ってこれました。これらの提言は国や県など取り組む自立経済の構築や新事業の創造、企業誘致に深く関与すると共に、地域経済の発展に多大な貢献をされています。

1990年代、グローバル化は進み台湾政府はグローバル化と自主経済の時代に直面し、新時代の流れに対応できるよう生産管理の優位性、創造性に富んだサービス、新しい経営理念を取り入れながら、台湾独特のブランドを創り出し、高度化を目指してまいりました。結果、台湾製品は国際市場で競争力を有しており、例えばスポーツ用品、パソコン、通信機器、あるいは車の部品、家具など世界でも多くの貢献をされています。

界をリードしており、これからも発展が期待されています。

それから台湾は、1つのシリコン・アイランドを目指しています。25年前に新竹付近にサイエンスパークを造りこれを成功させています。私が1993年末に台南県知事に就任した際、新竹のサイエンスパークは投資者は多いが土地が少ないという問題があつたため、台南でもう一つのサイエンスパークを造りました。一方面でもチップ方面でもたくさん生産しています。台南のサイエンス・パークの総生産量は、おそらく4000億ドルから500億ドルになつていると想います。このFT-LCDに関しては、多くの日本の技術者も一緒に働いておりますので、サインス・パークの中に日本人学校をつくるという計画もあります。それから中部の台中にも、もう一つのサイエンス・パークができまして、これらが台湾経済の発展を支えております。

台湾が今日の様に発展できましたのは、国際競争力のある新産業が次々と創設されたからです。もちろん沖縄のたくさんの有識者は新産業の誘致や開発に努力されています。そのうえマルチメディア・アイランド構想があり、一千を21世紀の革新産業と位置付け、色々な誘致活動を行っています。沖縄は自立経済の構築や米軍再編など、様々な課題を抱えておりますが、産業、経済、社会面でも着実に変化を遂げつつあることを強く感じております。皆様におかれましては、豊富な経験やこれまで蓄積してきたノウハウを活用し、経済界のリーダーとして今後益々ご活躍されますことを、また一番近い国の台湾との連携を取りながら、地域経済の発展及び自立化に向けて自由経済の二翼を担うこと期待申し上げます。

大学院大学の開学計画です。すでにノーベル賞受賞者のシドニー・ブレナー先生をはじめ非常に優秀な先生たちが来られています。また恩納村で計画が着々と進んでいます。また世界公募による7つの研究事業がスタートしておりますし、これが本格的に動き始めますと沖縄は全く違った島になりました。

道州制になりますと、沖縄は沖縄だけの特別区という形にならうかと思いますが、沖縄と九州は、お隣であるし、これまでずっと色々な形で結びつきがあつたわけですから、これをさらに強めていきたいと思います。東アジアとの交流など共通で取り組んでいくべき課題もあります。

今回のフォーラムが、今後も九州の皆様がスタートしておりますし、これが本格的に動き始めますと沖縄は全く違った島になりました。

創立20周年記念朝食会

開会挨拶



A black and white portrait of Shigeru Nakayama, a middle-aged man with glasses and a mustache, wearing a dark suit and tie. He is smiling slightly and looking towards the camera.

の位置関係を如実に表すような」とを勉強させて頂きました。大変興味深い話を聞きしました。心から感謝申し上げたと思います。さて景気の回復の中で、今新たな問題として提起されておりますのが格差社会という言葉でございます。この格差社会という概念の善悪は別としまして、格差というものは実態の経済の回復を意味しているのではないか、如実に証明しているのではないかということを考えております。野菜の例一つ取りましても、種まきの時期を一緒にしましても、その種類によりまして芽が出る時が違います。花をつける時が違います。実を収穫する時期が違うわけでもございます。商売におきましては、川上の商売、川下の商売という言葉がござります。建築を例に取りましても、設計から始まって、それからいろんな関連会社が手順よく一つのビルを建てていくわけでございます。あるいは工事を進めるということとは不可能でございます。そういう意味では、私はこの

格差社会があるということ、「これは当然のこと」であろうと思うわけでございます。先に利益を得た者が次の業種を引っ張っていくという、その後割を担うというふうに理解したいなあと考えております。

それと経済のグローバル化の中で今、私どもが直面しております道州制の問題、とりわけ九州におきましては、アジアといいうものが視野の中に当然入ってまいります。その国際化の中において、私どもは沖縄に学ぶ部分がたくさんあるのではないかと思つています。今から17、18年前、新日鉄が航空機産業をあの八幡の地に誘致する横やりで契約されませんでした。昨年は中国のゼンリンが、中国の国家保安法の改正という名目の下に撤退を余儀なくされました。今まで中小企業においても海外進出、とりわけアジアへの進出がたくさん行われましたが、その8割とも9割ともいわれる企業が撤収しております。そのいずれを見

ましても、相手の国柄を理解するという」といふに目が行つてなかつたのではないか、あるいは思想性の認識が甘かつたんではないかと思ふております。

私は、このグローバル化が進む中において、経済界のリーダーはその相手の国柄を知る、あるいは思想性、価値観、そういうものをきちんと学ばなければ、その役割は果たせないと思っております。そういう意味で、今回の九州経済フォーラムの記念事業の意義を考えたいと思っております。九州経済フォーラムは、初代が長谷川仏壇店の長谷川社長、2代目が地図のゼンリンの大迫最高顧問、3代目をJR九州の石原社長によって運営されておりまして、この朝食会が事業の中心的役割を果たしているということから、本日の朝食会を開催したわけでございます。九州経済フォーラムの運営の中 心的事業であります、この記念朝食会におきまして、皆様と一緒に学びあえること を心からありがたく思つております。よろしくお願ひ申し上げます。

沖縄経済・金融特区に 関る振興活動について

記念スピーチ①

小西龍治氏

九州大学大学院経済学府教授。1945年東京都生まれ。
1967年東大法學部卒業。同年日本長期信用銀行入行、
1993年取締役市場取引部門・資金調達部門等歴任、
1996年常務取締役就任。
1998年退職後、コンサルティング &
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科講師他。
2000年グラクソソウエルカム(株)入社、
グラクソスミスクライン(株)(取)管理本部長、
同経営企画本部長等歴任。
2004年より現職。
現在、フューチャーシステムコンサルティング(株)顧問
中外製薬(株)顧問専務。

スピーチということで大変僭越に思つております。私と先ほどご紹介いただきましたクリアパートナーズの酒見君はビジネススクールの関係であります。酒見君は九州ビジネススクールの第1期生です。また我々の中心メンバーである田子君にもここに参加させていただいています。実は私どもフォーラムの会員であると同時に、九州大学は本学、あるいはビジネススクールにおきまして、フォーラムの代表的な役割を務めているらつしやる石原社長、あるいは九電の橋田常務、それから中経協の小早川会長に非常に重要な役を務めていただいており、いろんな意味でご支援いただいています。そしてまた、私がやっています、いろいろな活動に関連しましてもご理解、ご協力をいたしております。そういう点で、勝手に九州を代表してやっている面もござりますものですから、沖縄における活動を沖縄の方に向けてお話するということもございますが、フォーラムの方々にご案内申し上げて、この際改めてご理解いただきたいと思つております。実は我々、押しかけ団体でありますと、今日本ここに参加されおられます日銀那覇

基輔を始められました。この活動に関しては、金融というところからインートロダクションやつておりますので、金融界の主要なメンバーに幅広くご理解いただいておりますが、とりわけ日銀の福井さんが、こういう地域問題、あるいは沖縄問題にご理解が深いんです。皆さん方も福井さんのいろんな活動をご覧になれば分かると思いますが、従来の日銀のトップとは非常に異なる、大変に活動的でダイナミックなご活躍をなさっておられます。そのお考えの中に、日銀ないし日銀支店の活動というのが真ん中に収まっています、「情勢分析だけしているんじゃないよ」と言われ、アクティブな日銀の活動ということを地域の中で重要視しております。そんな意味でも、この沖縄における活動を大変ご支援いただいている、こういう関係にあります。そこで3年前に始まりました金融専門家会議というのを契機にいたしまして、官界、学界、あるいは実業界からボランティアを募りまして、沖縄の経済の振興ということに幅広く取り組もうという活動でございます。沖縄には皆さんご存知のようだ、いろいろな振興策がありまして。中でも特区というのは沖縄特措法

す。九州経済フォーラムの九州側の代表スピーチということで大変僭越に思つております。私と先ほどご紹介いただきましたクリアパートナーズの酒見君はビジネススクールの関係であります。酒見君は九州ビジネススクールの第1期生です。また我々の中心メンバーである田子君にもここに参加させていただいきます。実は私どもフォーラムの会員であると同時に、九州大学は本学、あるいはビジネススクールにおきまして、フォーラムの代表的な役割を務めているつしやる石原社長、あるいは九電の橋田常務、それから中經協の小早川会長に非常に重要な役を務めていたいたしております。いろいろな意味でご支援いただいています。そしてまた、私がやつています、いろいろな活動に関連しましてもご理解、ご協力をいただいております。そういう点で、勝手に九州を代表してやつておる活動を沖縄の方に向けてお話をすると、ござりますものですから、沖縄におけることをいざいますが、フォーラムの方々にご案内申し上げて、この際改めてご理解いただきたいと思つております。実は我々、押しかけ団体でありまして、今日

基盤を始められました。この活動に関しましては、金融というところからインポートダクションやっておりますので、金融界の主要なメンバーに幅広くご理解いただいておりますが、とりわけ日銀の福井さんが、こういう地域問題、あるいは沖縄問題にご理解が深いんです。皆さん方も福井さんのいろんな活動をご覽になれば分かると思いますが、従来の日銀のトップとは非常に異なる、大変に活動的でダイナミックなご活躍をなさっておられます。そのお考えの中に、日銀なし日銀支店の活動というのが真ん中に収まつていて、「情勢分析だけしているんじゃないよ」と言われ、アクティブな日銀の活動ということを地域の中でも重要視しております。そんな意味でも、この沖縄における活動を大変ご支援いただいている、こういう関係にあります。そこで3年前に始まりました金融専門家会議というのを契機にいたしまして、官界、学界、あるいは実業界からボランティアを募りまして、沖縄の経済の振興ということに幅広く取り組もうという活動でございます。沖縄には皆さんご存知のようないろいろな振興策がありま

格差社会があるということ、「これは当然のこと」であろうと思うわけですが、利益を得た者が次の業種を引っ張っていくという、その役割を担うというふうに理解したいなあと考えております。

それと経済のグローバル化の中で、私が直面しております道州制の問題、とりわけ九州におきましては、アジアというものが視野の中に当然入ってまいります。その国際化の中において、私どもは沖縄に学ぶ部分がたくさんあるんではないかと思つています。今から17、18年前、新日鐵が航空機産業をあの八幡の地に誘致するということで、アメリカと交渉いたしましたが、調印直前になりまして国防総省の横やりで契約されませんでした。昨年は地図のゼンリンが、中国の国家保安法の改正という名目の下に撤退を余儀なくされました。今まで中小企業においても海外進出、とりわけアジアへの進出がたくさん行わされました。が、その8割とも9割ともいわれる企業が撤収しております。そのいずれを見

ましても、相手の国柄を理解するという」といふが、相手の国柄を理解するといふことに目が行つてなかつたのではないか、あるいは思想性の認識が甘かつたんではないかと思ひます。

私は、このグローバル化が進む中において、経済界のリーダーはその相手の国柄を知る、あるいは思想性、価値観、そういうものをきちんと学ばなければ、その役割は果たせないと思つております。そういう意味で、今回の九州経済フォーラムの記念事業の意義を考えたいと思つております。九州経済フォーラムは、初代が長谷川仏壇店の長谷川社長、2代目が地図のゼンリンの大迫最高顧問、3代目をJR九州の石原社長によって運営されておりまして、この朝食会が事業の中心的役割を果たしているということから、本日この朝食会を開催したわけでございます。九州経済フォーラムの運営の中 心的事業であります、この記念朝食会におきまして、皆様と一緒に学びあえることを心からありがとうございます。よろしくお願ひ申し上げます。

平成18年4月29日(土)

於ザ・ナハテラス

地元の独自の活動、あるいは本邦から
の独自のエントリーということを促し
ている、こんなことになつてゐるわけ
です。先ほどご紹介しました隣の2人
は、この事務局の主要なメンバーを兼
ねておられるということです。アド
バイザーリボードには金融関係では
学識経験者として池尾さん、翁さん、そ
れから日銀那覇支店長の大澤さん、地
元からは著名な学識経験者であり、歴
史、文化にお詳しい琉球大学の高良先
生に入つていただいています。そのほ
か、いくつかのプロジェクトに座長を

縄には文化の源流があります。この中に個々には非常に素晴らしいものがあるんですが、これが文化の遺産といふ形で凝縮しているんです。汎用性がなく、産業に転化させるという形になつていいません。そこで文化保護・保全に関わるだけでなく、ナショナル・トラスト的なものを作り、それを助成し産業の育成になるような形にしたいということを考えているわけです。このため、我々が具体的に資本を持ち込みまして会社をつくろうと思つています。これは営利会社ではなく、具体的な活動を沖縄の

でやっています。この活動の枠組みとして、内閣府、県、名護市との協調で、全てを統括するアドバイザーリボードというのを作っています。委員長にはかつて沖縄開発事務次官を務められました若林さんになつて頂き、主要なメンバーが入つております。その下にいろいろな研究会を組成しております。地元関係者、あるいは金融機関などに入つもらつています。研究テーマを決定し、アイデアを1年間、あるいは半年間練つて翌年に具現化するというや

設け、民間の事業会社の方にも入っていただいております。ちなみに沖縄への富裕層の風という意味では、沖縄への富裕層の集客、あるいは滞在、移住ということをやっていますが、その中で新しい動きが起きています。プライベートビジネスからファミリービジネスへという考え方の新しい動きなのですが、これは地域経済の中で、従来の中小企業というと捉え方ではなく、そういう事業を興されている方は富裕層であると同時に、事業家であり地域経済を支えて

よりまして、亡くなられた山中貞則さんが相当なお力を發揮され設けられた制度の1つなわけです。3つの特区がありまして、情報通信関連特区、金融特区、それから特別自由貿易地域です。この3つを特別の経済区として沖縄経済振興のテコにしようという考え方でござります。我々は、この中の金融特区をテコにいろいろやろう、こういう活動をしているわけです。この活動につきまして、これからお話をさせていただきますが、今日出席されている沖縄県観光商工部の喜納統括監が、つい先立つての第3回の金融専門家会議で発表された資料を一部引用させていただきます。

のニーズに対応し下支えしていくという活動を行つてゐるところです。その流れの一環として、沖縄県、名護市、アカツブが連携して活動する母体ができておりますが、ではどんなことをやつてゐるかを私の方からご紹介申し上げたいと思います。先ほど申しましたように、3年前の金融専門家会議から始まつて今年で3回目になります。我々の押しかけ型のボランティアと、地中から湧いてくる力がようやく結節点を持つて広がりつつある、こういう状況にあります。

方に理解していただきたくためのものです。最終的には、こういう会社を通じていろんな多角的事業を行おうと考えています。重要なことは「ゼロより大にする」ということです。もう一つ付け加えますと、いわゆる自立ということです。何事も自立がなければいけませんが、私は「自立」というのは、立つということではないと考えています。沖縄について言いますと、経済的には豊かですし、すでに立っていると言えます。それから日本経済というのは、世界に冠たる経済ですから、自分で立っています。でも何が欠けているかというと、自分で律することです。自らの枠組みは自分でつくっていくといふとであつて、沖縄においても日本においても自らを律することが足りないのではないかと考えております。実は沖縄には基地問題があるということですね。私がなぜ、このように関わっているかというと、大変失礼ながら沖縄は大変に苦難な歴史を経てきた。それに対する、例えば同情とか、そういうことはありません。それは当たり前のことです。それよりも前に、沖縄が立つということは、日本が立つということ、自分を律するということになります。要す

方に理解していただきたくためのものです。最終的には、こういう会社を通じていろんな多角的事業を行おうと考えています。重要なことは「ゼロより大にする」ということです。もう一つ付け加えますと、いわゆる自立ということです。何事も自立がなければいけませんが、私は「自立」というのは、立つということではないと考えています。沖縄について言いますと、経済的には豊かですしそうに立っていると言えます。それから日本経済というのは、世界に冠たる

「ばば才長けて、6分の侠気、4分の熱」と言つたわけです。この経済フォーラムの活動をされている方はご理解いただけると思いますが、物事を始め、つづっていく場合、まさに小早川さんもおっしゃっているように志が大切です。志がしつかりしないと、しつかりしたものができません。しかし同時に、大変難しいのは市場経済というのは、志だけで成り立つものではなく、そこに利益動機の人々がたくさん集まつて来ないといけません。「邪」という言葉は適切ではないかもしれません、その人たちがちができるだけ集まるようにする、こういう運動なんだということを心に秘めていなければなりません。ただ、始める人は邪が先に立つてはいけない、それが大切ですよ、ということは言うまでありません。そういうことで、バロディで「6分の侠気、4分の邪」と言つてゐるわけです。こういうメンバーがたくさん集まつているということあります。この沖縄金融特区というのは、大変難しいんです。金融特区というのは、何か物ができるわけではありません。それから日本の金融システムに関しましては、99・9%が自由化されています。制度、法律としては自由になつていて

るに、この国的情形というものをつくるために、沖縄に関わり、沖縄と一緒にやつていこうと考えているわけです。そのキャラバシティにおいては、例えば九州大学の一員として、あるいは九州経済フォーラムの一員として関与していきたいと考えております。また、これを支援する同志の皆さんを増やしていくたいと思います。大変駆け足でございましたが、この機会をいただき、皆さん方にご紹介させていただくことができました。大変ありがとうございました。

るに、この国の形というものをつくるために、沖縄に関わり、沖縄と一緒にやつていうことを考えているわけです。そのキヤバシティにおいては、例えば九州大学の一員として、あるいは九州経済フォーラムの一員として関与していきたいと考えております。また、これを支援する同志の皆さんを増やしていくたいと思います。大変駆け足でございましたが、この機会をいただき、皆さん方にご紹介させていただくことができました。大変ありがとうございました。

ますから、何か特別のものというのは、なかなか出にくいわけです。逆に金融化によりましてバリューチェーンが分離しております。金融というのは、簡単な話ですけど紙幣と硬貨に価値が体現化されて、情報として世の中を回っているわけです。だから、これを貨幣として貯の形にしないで、ピットという単位にしてやるということであれば、誰でも金融ができる。これが今の状況なんですね。そういうことで、金融業に関わる問題は、すべて一元化されるということで、金融業と一元化というのは完全に一体になっています。したがって、そうした形での事業展開、あるいはビジネスモデル展開というのが非常に力がつてくる、というのが一つです。それから、もう一つ沖縄の立場から考えますと、この金融特区という錦の御旗、水戸黄門の葵の紋は未來永劫、他の地域に出ることもないし、同時に沖縄という立場に対して設けられた制度でありますので、おそらく廃止されるということもないと思っています。ですから、この錦の御旗というものを、ある意味では広くテコにして活動していくたい、こんなふうに考え、意味を認識し

記念スピーチ②

沖縄における 情報通信産業

沖縄県情報通信関連産業団体連合会 会長



久場川 森男氏

沖縄県情報通信開発産業団体連合会会長。
昭和38年琉球大学理工学部電機工学科卒業後、
琉球電力公社(現沖縄電力(株))入社。
同社企画部調査課長、工務部給電指令所長、
民営化準備室室長、研究開発部長、営業部長を経て、
平成8年沖縄通信ネットワーク(株)常務取締役に就任。
沖縄電力(株)理事を経て、
平成9年沖縄通信ネットワーク(株)代表取締役社長就任
平成17年代表取締役会長に就任し、現在に至る。

客が増えてきていると思っています。これは情報通信関連についても同様で、沖縄が自立すると言い、自分でやつたからといつても全てうまくいくわけではありません。もちろん私たち自身が努力しなければなりませんが、九州の方のご支援、ご協力の賜物であるということは忘れてはいけないのでないかと思います。

ならない青年が遊んでいるというのは、大変に悲しい状態です。また昨日発表の有効求人倍率を見ますと、全国平均が0・98、沖縄はだいたい0・45から0・46といったところです。これも半分くらい。仕事がほしいけどないという状態です。これは何とかしないといけません。いずれにしても沖縄にとりましては振興計画は窓口みたいなも

ある2011年の数値目標があります。うまい具合にいきそうだなというのもあります。確実に増えそうなのが人口ですね。これは誰かが努力しているわけでもないでしょうが、人口だけは増えていくという感じがします。逆に心配なのが失業率ですね。振興計画では2000年度の完全失業率7・9%を4・8%まで改善しようという目標です。昨日の新聞に3月の失業率が出ておりましたが、本土が4・1%なのに対し、沖縄は8・2%となっています。特に問題なのは15歳から24歳までの若者の失業率の高さです。本土が9・8%なのに対し、沖縄は19・7%なんですね。いずれにしましても本土の倍

次に4ページですが、振興計画の中
に情報通信産業振興計画というものが
あります。6分野があり、それぞれ3カ
年計画となつておりまして、昨年から
第2次計画に入りました。ここでも数
値目標が設定されています。それを見
ますと2007年度の情報通信産業関
連の雇用者数は1万7800人として
います。第1次の目標は1万2000
人でしたが、実績は1万4000人ほ
どといつていましたから、目標を上回つ
て伸びているということですね。それ
から生産額も大変順調でして、200
7年度の目標を2700億円に設定し

九州経済フォーラム創立20周年の節目に沖縄においていただき、本当に感謝しております。昨日、稲嶺知事が今年の観光客数は565万人になりそうだとおっしゃっていましたが、九州から皆さん方が50人、スタッフ入れて60人がお見えになつていますから、この56万人にカウントされていることと重なっています。ありがとうございます。早速ですが、簡単に沖縄の情報通信関連産業の取り組みについてご報告したいと思います。実は、この早朝会にこれほど多くの方が出席されるとは思つておりませんでしたので、準備していた資料が足りなくなり、お手元に届いていない方もいらっしゃるかと思います。沖縄の方はすぐに手に入ると思いますので、九州の方を優先していただきたいと思います。

お手元に配っております資料の2ページ目をご覧ください。先ほど小西先生からも話がありましたように、平成14年4月10日に沖縄振興特別措置法が制定されました。今回が第3次で、ちなみに第1次は昭和47年です。この特措法に基づいて10年間の沖縄振興計画があります。目標について、たくさん書いてありますが、それを私がまとめております。この中で「技術的発展の条件を

整備し、豊かな地域社会を形成するとともに」とあり、実はこの次を私は大変気に入っています。それで「我が国はもちろん、アジア太平洋地域の社会、文化の発展に寄与する」となっています。これまで沖縄は、もうのが得意じゃないかと言われたのですが、「必ずしもそうではありませんよ。沖縄も一生懸命努力すれば、日本全体のため、あるいは台湾や韓国といった近くの国の発展にも寄与できますよ」ということですから、そううなれば大変素晴らしいことで、これは一生懸命やらなければならないなど思つてゐるわけです。振興計画は重点産業として、観光リゾートや情報通信産業などを上げておりますが、特に観光関係は知事の話にもありましたように予想以上に増えております。沖縄自身が努力したということもありますが、私はむしろ本土の方の支援の賜物だと思つております。日航さん、全日空さん、それに関連のいろいろな会社に力を入れていただき、例えば東京からの2泊3日の旅行が3万9000円、あるいは2万9000円などといった商品をつくつていただいているます。またレンタカーも需要に十分対応できる体制を整えていただいている。そういう本土の方のいろいろの

ストの低減化支援を受けて新規に事業を展開した企業数の目標を累計で36社としています。そのほかIT人材育成数が3250人、コールセンター業務に係る技術の取得数目標が8100人になっています。

我々が経済活動に力を入れるにしましても、どうしても切り離すことがでにくい問題となっています。私たち、政治的な問題は得意ではありませんので、団体会議の中で勉強もし、対処していきたいと考えています。

それから[沖縄のコールセンター産業]という青い冊子を皆さんにお配りしています。最後のページに沖縄のコールセンターの現状を集計した数字があります。事業所数は、中南部を中心に9市町村で40になっています。会社数自体は30数社ですから、同じ会社が事業所を複数展開しているということです。4月21日に、この会場の近くにトランス・コスモスという会社が新たにコールセンターを設けました。トランス・コスモスは1999年に220席、2004年に860席のコールセンターを開設しておりますが、今回が3カ所目になりますが、今回の席数は1340席でして、今年から来年にかけて2000人くらい採用する計画のようです。また幹部候補生も毎年20、30人採用されるとお聞きしており、私ども大変期待しているところです。このよ

ただいまご紹介いただきました立命館アジア太平洋大学副学長の仲上と申します。ご講演いただきました小西先生、久場川様、どうもありがとうございました。沖縄と言えば、歴史、文化、そして今は観光が注目されていますが、今日のこの講演で金融、情報通信の最先端の地であるということが、よく理解できました。特に小西先生からは分厚い、貴重な資料をご提供いただき、そして単に沖縄の問題というだけでなく、新しいモデルをつくる



謝辭

九州経済アカデミー理事
仲上 健一（立命館アジア太平洋大学副学長）

ただいまご紹介いただきました立命館アジア太平洋大学副学長の伸上と申します。ご講演いただきました小西先生、久場川様、どうもありがとうございました。沖縄と言えば、歴史、文化、そして今は観光が注目されていますが、今日のこの講演で金融、情報通信の最先端の地であるということが、よく理解できました。特に小西先生からは分厚い、貴重な資料をご提供いただき、そして単に沖縄の問題というだけでなく、新しいモデルをつくる

うな人材育成が重要な意味を持つてゐる
ということが理解できました。と言いま
しても現実はかなり厳しく、久場川様か
らご紹介がありました失業率のような
問題もあるわけでございます。それを解
決するためには、沖縄だけの力ではなく、
九州と一体となり、かつ全国を視野に入れ
モデルをつくつて実践していくことが大事
であろうと思います。

テープになると感じております。そういう意味で、今日の朝食会が単なる名刺交換といった交流ではなく、新しい知識はもちろん、より深い理論を学ぶという大変に意義あるものだったと思います。そこに産業界の方も、行政の方も、そして大学からも参加しております。こういう中で勉強しなければ、未来は開けないというような貴重な講演をいただいたと思います。

改めて小西先生、久場川先生にお礼申し上げたいと思いました。ありがとうございました。

が沖縄で行われたという」とも大きなス

すと、そのうち沖縄の人は3人か4人程度でして、あとは本土から来てもらっているという状況です。これを地元の人がら、7人とならないものかと思っています。沖縄にも大学の先生はたくさんいますし、経済学者もいるはずなんですが、どうしても間に合いません。近くの九州、あるいは東京の先生方に引っ張つてもらい、知恵をお借りしているというのが現実です。そういう意味でも人材教育が非常に大事ということになります。それから情報通信開

IT教育をしたり、給与・ヘルをもう少し上げられないか業界で検討したりしています。また、コールセンターがどんどん出ていただいていますが、一方で3K職場になりはしないかとの心配も出てきていますので、コールセンター協会を中心に魅力ある職場づくりに努力していただいている。

もう1つ加えますと、情報通信関連産業もやはりリーダーとなる人材が不足していることです。例えば、コールセンターでリーダーが10人いるとしま

から10数万人という若者が働きず、うろうろしているということを考えますと、大変に悲しいことであります。我々も年間に2600人～4000の人に、「放課後セイ」とり、合計ノベルをう

そして戦前から大変お世話になつてき
た福岡をはじめ九州の皆さん方に、何
らかの形でお返してきるよう一生懸命
頑張つていきたいと思います。取り留
めのない話でしたが、どうもありがと
うございました。

注できるよ、地元の企業が力をつければなりませんが、仮に地元企業に1億円発注いただけば、それに伴つて10人くらい採用できるのではないかと思います。それがまた失業率を改善できることにもつながるわけです。何だか受注活動しているみたいですが、本土の皆さん方にはそのあたりもご理解いただければと思つております。別に我々は、本土から離れて勝手に生きていこうとは思つていません。一緒になつてやつていきたいと思つています。

連産業の生産額が2500億円だ、2600億円だと言いましても地元の企業がどれほど受注できてるかという問題もあります。もちろん、受注できらうとも手をもつて受けな

4月28日は特別の日であります。昭和28年4月28日にサンフランシスコ平和条約が発効致しました。第二条には、「日本と各連合国との間の戦争状態は条約が発効する日に終了する」ということと記されています。そして「連合国は、日本国及びその領土に対する日本国民の

昭和二十七年、日本は主権を回復



「我が国の歴史と今日的課題」

(前 拓殖大学総長)

定されました。つまり、それまで連合国が占領下にあった我が国が完全に主権を回復したということです。国連憲章は第二条で「主権平等の原則」を掲げていますから、これで各国と完全に対等な主権を回復したことになります。また同じ平和条約におきまして、日本国は「個別の又は集団的自衛権の固有の権利を完全に保有する」ことを連合国は承認するという規定もございます。ですから主権と同時に自衛権も完全に回復したわけござります。

を押し付け

について条約等はすべて国会の審議にかける。官制大権についても各省の設置法等も法律にする。また軍制大権のうち編制大権、これもやはり法律に據る。そして統帥権の独立は認めない。あるいは貴族院は廃止して参議院とする。そのほか臣民の権利については、自由、権利を制限す

クローバル化は進み、競争は一層激しくなり、中国、インドなどの発展途上国は磁石のように大量の資金を吸収し、台湾もかつての優位性を失いつつあります。台湾政府は、グローバル化と自主経済の時代に直面し、新しい時代の流れに対応できるよう、生産管理の優位性、創造性に富んだセールスサービス、新しい経営理念を取り入れながら、台湾独特のブランドを創り出し、高度化を目指してまいりました。その結果、台湾製品は国際市場で競争力を有しており、例えばスポーツ用品、パソコン、通信機器、あるいは車の部品、家具など世界をリードしておりますし、これらも発展が期待されています。私は、1964年初めて米国へ留学しました。当時の台湾は、大学卒業者のほとんどが失業という状況でしたから、大学を卒業しようと日本へ行ったり、欧州へ行ったり、米国へ行ったりしていたわけです。私はその1人なわけで、それほど台湾経済は悪かつたのですが、1993年に台湾に戻ってきた時は見違えるほど発展しておりました。それから台湾は、1つのシリコン・アイランドを目指しています。ご承知のように米国のサンフランシスコではシリコン・バレーと呼んでいますが、台湾では25年前に新竹付近にサイエンスパークを造り、これを

成功させています。私が台南県知事になりました時、1993年末でしたが、新竹のサイエンスパークは投資者は多いのに土地が少くなり問題となっていました。だから私は知事になった時、台南でもう1つのサイエンスパークを造りました。Tの方面でもチップの方面でもたくさん生産していますが、最近はTF-TLCDを生産しています。私の記憶では、台南のサイエンスパークの総生産量は、おそらく3000億ドルから4000億ドルになっていると思います。このTF-TLCDに關しましては、たくさんの日本の技術者も一緒に働いておりますので、サイエンスパークの中に日本人学校をつくるという計画もありますね。それから3年前に中部の台中にも、もう1つのサイエンスパークができまして、これらが台湾経済の発展を支えています。それから、もう1つ問題になっているのは、台湾から中國大陸に投資する人が多いということです。残念ながら、これは10年、20年前から続いている。それがアメリカにいる時、マサチューセツ工科大学に有名な経済学者がいました。彼は何度も台湾にやってきました。彼によりますと、台湾から中国大陆への投資は「早すぎるし、投資金額が多すぎる」という話でした。それは確かだろうと思

陳水扁總統は、積極的に管理する
強いマネージメントするという政策を
打ち出しています。また、「卵を全部1つの
スケットに入れたらダメ」ですから、西
行く政策よりも南の方、ベトナムとかイ
ンドネシアとか、あるいはオーストラリア
投資するような政策も考えなければ
ならないと思つております。

日本はこういう機会をちょうどいいし
して、台湾人としてはありがたく、心か
感謝しております。どうもありがとうございます。

について条約等はすべて国会の審議にかける。官制大権についても各省の設置法等も法律にする。また軍制大権のうち編制大権、これもやはり法律に據る。そして統帥権の独立は認めない。あるいは貴族院は廃止して参議院とする。そのほか臣民の権利については、自由、権利を制限す

これを呑むかどうかという選択しかなかつたわけです。この時単独講和論と全面講和論が対立しました。しかし多少の不満があつても、少なくとも自分の国のこと自分で決定できる、これを早く回復しなければ、いつまでも経つても占領軍の意のままにコントロールされる。だから一刻も早く独立し、自主決定権を回復しようということで、この講和条約を受諾したわけです。色々と不満はございましたけど、一刻も早く占領状態から脱するためには、この条約を承諾したいということで、条約が発効したわけでございます。

ところが、司令部はこれを一顧だにせず、自ら、それも1週間足らずの内につくつた憲法草案なるものを日本側に突きつけ、これを一步も動かしてはならん、と言ったわけです。今はまたたく間に無視され続けておりますが、これは現在の日本国憲法とそう大きく変わりません。議院内閣制を中心と致しまして、例えば外交大権

る場合は必ず法律に掲らなければならぬという一項を設ける等々、きわめて現行法に近いものになっています。

しかし彼らは、自分たちの案を押し付けてきた。それで何が問題かと言いますと、結局、現実の政治運営とは直接関係のない占領軍のイデオロギーを押し付けられたということです。憲法と称するものは十七条憲法以来日本語にあります

が、明治以降の憲法というのは「constitution」

という英語の訳語であります。「constitute」というのは、構成するというのですから、物事の本質のことを「constitution」といひ、憲法はその本質といふことから派生したもので、政治的に言いますと、「國の國柄」ですね。國柄を示すのが、その「constitution」ということになるわけです。

國民主権であります。これが明記させることによって、日本古来の皇室の方、皇室の「存在の意義」というものを抹消しようというところに、この狙いがあるわけです。しかし、日本側もそのあたりはよく心得ております。憲法改正委員会、あるいは衆議院、貴族院の本会議等におきまして政府は「國民主権の「國民」」というのを天皇を含む國民共同体をいう。そのような統一組織体が國家意思の源泉となるということが國民主権である」と説

明しております。ところが、これが学説になりますと、正反対になりまして、フランス革命以来のいわゆる契約国家説に基づき「人民が君主と対立して自分で意思を決定する」というのが國民主権だ」という現在の多数派の解釈になっています。そういう解釈を導き出すために司令部は、この国民主権論を強制したわけです。

歴史的な共同体の観念を抹消

それから基本的人権というのがござります。基本的人権は十一条では「侵すことのできない永久の権利」として与えられるとしています。ところが九十七条には「信託される」と書いてあります。「与えられる」のか「信託される」のか、よく分かりませんけど、何故に永久不可侵の権利なのかということが問題なんです。これも米国のイデオロギーであります。米国の独立宣言からきております。独立宣言では「我々は自明の真理として、全ての人は平等に造られ、造物主によつて一定の奪いがたい天賦の権利を付与され、そのなかに生命、自由及び幸福追求の含まれることを信じる」と書かれています。つまり、キリスト教の教義によって、神によつて創造された人間であり、それは天賦の権利

自衛権は国際法上の概念で主権の侵害時に発動できる

平和主義について一言申し上げます。平和主義は要するに日本を永久に武装解除しておくことが目的であったと、ケーディスが言つております。しかし、それでは国家は存続できません。日本は平和憲法

だ、こういう天賦人権論であります。そういう人権観念というのは、我が国にはございません。

ですから国家というのは人民の契約によって成立するもので、人民の意思に反するならばいつでも革命できるし、人民の自由を圧迫するものであれば、これに抵抗できるといった、そういう革命権、抵抗権が派生していく契約国家論となります。公共の福祉にしても、要するに自由権相互の調整の原理であるということになってしまふわけで、そこには歴史的な共同体という「公」の観念はまったくありません。そもそも人間は、共同体の一員として生まれ、その共同体の中で育ち、そして共同体と一緒に行動していくという思想がありません。だから、共同体、つまり国家のために、国家を守るために一命を捧げると、その観念はここから生まれてくるはずがないわけです。

いずれにしても、この三つ、國民主権、基本的人権の尊重、平和主義、私はこの三つのイデオロギーこそ放擲、破棄しなければいけない原理だろうと思つてます。観念論ではなく、国民生活と歴史、伝統に密着した憲法というものを作つてもらいたい、このように思います。

だと言いますが、平和憲法が日本を守ってくれるわけではありません。何で日本

「日本の国柄を考える」

パネルディスカッション

日本人とは、日本の国柄とは何か

【遠藤氏】 日本の国柄というのは、いったいどういうものか。

そもそも私たちは、日本人であるといふことについて、どこまで突き詰めて考えただろうか。日本という国家はいかなるものであるのか、そのことについて、自己に問い合わせていかなければならない、まさに日本の国柄とは何かということではないでしょうか。

【黄氏】 台湾と沖縄、そして九州というのは、実はものすごく深い関係がござります。古代史、超古代史を見ますと、台湾と沖縄、九州は同じ文化圏だったことが、最近の考古学の研究で分かっています。近代史、つまり豊臣秀吉の時代から鎖国時代に至るまでの時期においても台湾と沖縄、九州が一番関係が深く、当時日本から台湾に来た日本人は、九州の方が最も多かつたことが分かっています。特に有馬



藩、薩摩藩との関係が深く、台湾にも日本人街がありました。

明治維新以降も台湾で一番多かった日本人は、九州の方々です。今の台湾では、年配者はほとんど日本語が話せます。私は終戦時小学校二年生で、いちばん最後の日本語になりますが、共通語はほとんど日本語でした。その日本語を聞きますと、九州なまりが多いですね。当時台湾の小学校の先生は、熊本や鹿児島出身が多かったです。台湾と沖縄、九州は、このように言語、更には食生活まで影響し合ってきたわけです。

言うまでもなく、人には一人ひとりの生き様があるように、国にも国家としてのあり方がそれぞれにあります。台湾の場合、中国大陆から約800基のミサイルに睨まれており、しかも毎年およそ100基ずつ増えています。そうした環境の下で、台湾はこれからどうすれば生きていけるのか。我々は、選ぶべき道、国としての生き方を真剣に考えています。



経済成長は絶対に不可能ですからね。それから明治維新から今日まで、熟成した知識と知恵の豊かさがあります。私の分析では、明治維新から今日にかけて、アジアはどういうふうにつくられたかと言いますと、日本の文明開化と殖産興業、この波が台湾に、朝鮮に、あるいは満州国とか中国大陸にも及び、それがアジアの近代化を促し、さらに戦後は、日本の技術と資本の移転によって今日のアジアがつくられたと思っています。

なぜ「強い日本」でなければならないのか。強い日本があつてこそ、日本はアジア、世界に貢献する、その責任を果たすことになるからです。それほどの経済力、文化力を持つている日本です。それなのに「普通の国」に甘んじますなどと言ったら、逆に責任逃れと言われ、責任を果たさない



記念朝食会の様子

とで困っているんです。私も「日本人とは何か」ということをずっと探してきました。そして、やつと「ああ、これが日本人だ」と分かりました。その時はうれしくて仕方ありませんでしたね。それを当てはめますと、日本人が全部見えてくるような感覚がします。

日本は、元寇以外に侵略を受けたことがあります。日本だけで二つの文化圏を形成してきました。それに日本は、中国や朝鮮半島か

でも反日は消えないと思います。また竹島問題がなくとも、必ずほかの問題が出てくるはずです。それはなぜかと言いますと、私も含め韓国人が日本という国を見ると、日本という国は分かるようですが、分からぬからです。私も随分悩みました。(つまり日本は捉えにくい)とからくる反日感情なんですね。「日帝36年」に原因があるように思われていますが、それは結果であって原因ではないと思います。韓国人は日本人が分からぬといふこと

止ても反日は消えない

思議な世界がもう一つあるわけです。それは自然と一緒にになり、つまり神々と一緒にとなつて生きてきた時代の感覚、感性です。私はこれをアジア以前の世界、「前アジア世界」と表現させていただいていますが、この自然観のあり方は、普通近代化と共に薄れ、追い出されていくのですが、日本の場合には近代化とともに磨かれながら共に発展を遂げてきたことが特徴になっています。この三つの世界が対等に混在していますから、近代化された国

てきたものを全部吸収していくわけですね。これが日本の特徴なんですね。

日本の未来性を感じる

西洋から近代文化文明が入りてきた時も、古いものが消えませんでした。つまり朝鮮半島のように地政学的に接している国がないため、常に圧倒されることなく、入ってきたものを全部吸収していくわけです。これが日本の特徴なんです。

日本人の自然観に 日本の未来性を感じる

一言で言いますと、今の日本という国は大きく分けると二つの世界があるようになります。一つは欧米化された日本、もう一つが中国、朝鮮半島とも似た農耕アジア的な日本。この二つの世界は他の国人が見ても分かります。しかし、日本には不思議な世界がもう一つあるわけです。それは自然と一緒に、つまり神々と一緒に生きてきた時代の感覚、感性です。私はこれをアジア以前の世界、「前アジア世界」と表現させていただいていますが、この自然観のあり方は、普通近代化と共に発展を遂げてきたことが特徴になっています。この二つの世界が対等に混在していますから、近代化された国

清国神社への参拜を

を続けてきましたが、その3か国を合わせても日本に勝てません。現在、中国のGDPは日本の約三分の一しかありませんね。三ヵ国合わせても日本のGDPに匹敵することができません。もちろん経済面に限らず文化的に見ましても、戦後日本がつくったポピュラーカルチャー、例えばカラオケは強い支配力を持っています。台湾で

あります。大蔵省の戦前の大日本帝国の周辺地域における遺産についての調査報告書があります。それを見れば日本は、戦争賠償する必要もない、むしろおつりをいくらもらつても足りないくらいなんですね。そういうような具体的な数字の資料があります。例えば満州国遺産はどのくらいあつたかというと、当時の国家予算是20億円程度でしたが、満州国には3年間にわたつて110億円から130億円の投資をしました。終戦当时、中国のGDPの90%がこの満州国の遺産でした。中国はその遺産を30年間にわたつて、食い漬しながら、食い漬した後は結局、改革開放によってまた外国資本を導入することをやつてきました。

それほど日本は強かつたわけです。今も経済力を見ただけでも「強い日本」でしょう。中国、インド、ロシアは毎年10%前後、あるいは5~7%前後の経済成長



いちばん大きな建物はホテルではなく、カラオケ屋です。これは私の推測ですが、アジアにおいて多分カラオケ文化が、儒教文化圏を乗り越えているのではないかと思います。漫画、アニメにつきましても同様です。今や世界市場の半分以上を日本の漫画、アニメが支配しています。

ようにも見えるし、武士の国のようにも見えるし、古い自然信仰の国にも見えます。ですから、「日本という国はあいまいで、わかれが分からぬ」と言われるわけです。

私は、なんと言いましてもこの二つの目

世界に日本の未来性を強く感じております。山あり、谷あり、川あり、海ありーー一人の人間がすべての自然の恵みをいただけ、それらの神々に感謝しながら生きてきた。この自然観が基礎にあって、他のものが入ってきても、それと対立することなく、全部融合していきました。外国人は「日本人はあいまいだ。おかしい。だからそれを直さなければならない」と言いますが、私は世界にないものが日本には全部あると思います。日本はまさに文化の宝庫です。宝の島です。しかも、たとえ保存しておく倉庫ではなく、これをうまく花咲かせている国です。ですから、ここに大きな未来性を感じるわけですが、それは日本の未来性だけでなく、世界の未来性もここにあるということを自信を持って言うことができます。

私は日本がやるべき」とは、世界に向けて「日本がおかしいではなく、これが日本なんです。日本には世界にないものがあるんです」ということを体系的に、分かりやすく説明していくことが肝心だと思つていて

ます。そうしない限り、世界の国々の日本に対する反発は絶えることがありません。

陸下が汽車の中、あるいは校庭にお泊りになるなど、いろいろな「不自由を忍ばなければならぬ」と思つております。

日本の国柄を表すものが憲法

【遠藤氏】与党、野党とも憲法論議を進めておりますが、どうも改正論の中身

というものが現行憲法の持つ負の側面をむしろ強化する方向に見えるんですね。依

然として日本を弱体化する、あるいはすべて諸悪の根源は日本であつて日本の両手両足を縛つておけば世界は平和なんだ

という、ある種の幻想の上で改正論が議論されている。要するに日本を罪悪視す

る現行憲法の精神を今後とも維持しま

しょうという、そんな論議が与野党で行

われている。政治の世界で行われている憲法改正論議に対し、小田村先生はどのよ

うに見ておられるでしょうか。

【小田村】皇室のこ存在というのもも

決して忘れてはならない問題です。先ほ

ど黄先生が日本は死刑を400年廃止

していたとか、あるいは数百年も戦乱のな

い時代が続いたというのは世界に例がな

いことだとかいう話をされました。それ

はやはり皇室のこ存在があるからこそ、

黄先生が日本は死刑を400年廃止

していました。黄さんからは「強い日本になれ」と、ある意味で皮肉な話をしつかり

聞かされました。吳さんは、自然観を持

ては日本はもつと世界に誇れるんだとい

う自信を、若者を含め我々に与えてくれ

ました。パネラーの遠藤さんは、柔軟な複

眼を持つと大変示唆に富んだ話をされ

ました。本当にありがとうございました。

ところで、私がここに立たされ閉会の言葉を述べておりますのは、おそらく九州

国立博物館振興財團の専務理事を務め

ています。このことが、あるのだと思います。

ご存知の通り九州国立博物館は、ここにおられる九州・沖縄の財界の皆さん方の意を受けて運営しております。ここにおられます九州電力の橋田さんと私とで、とにかく日本」の博物館にするんだということで取り組んでおりますが、当初我々2人で立てた年間100万人という目標はゆうに超え、半年間で140万人のお

は申すまでもありませんが、國民も皇室を尊崇することで一貫しております。たとえば、全国においてになり國民を激励されたり、そして國民を挙げて奉還感謝申し上げたということが、日本の國柄だと思いつく。そういう國体を表すものが憲法でなければならぬと思つております。

私は、今の与野党の憲法改正案というのはまったく意味がないと思つています。

むしろ当面の焦点は九条ですから九条だけの改正に止めればいい。あとは例の「諸國の公正と信義に信頼して」の前文を削除することです。それから改正規定をもつと緩やかにする、まあそのくらいに絞つたらこうかと思うんです。

それよりも先に、自衛権の解釈を直し

むすと改正する前に、自衛権の解釈を是正してもらいたい。これが私の希望です。

【遠藤氏】沖縄、琉球と日本の根というの

の何かということを私自身ずっと考えてきたわけですが、吳先生の話の中に出てきた、自然の恵みを享受し神々に感謝

してもらいたいです。今の解釈が正しいんだといふことで憲法改正されてしまいま

すと、おかしな解釈が残つてしまますので、まず条文改正する前に、自衛権の解

釈を是正してもらいたい。これが私の希望です。



記念交流懇談会の様子

するという自然観、謙虚な人生観、世界観というものがそれなんですね。沖縄は九州、そして日本のたくましさ、豊かさなど、日本なんだということを、今日実感させていただきました。

大変充実したフォーラムを開催していただきました。

ただきありがとうございました。沖縄と

九州、そして日本のたくましさ、豊かさなど、日本なんだということを、今日実感させ

らうと思います。



沖縄・南方諸地域戦没者慰靈顕彰祭

平成18年4月29日(土) 於 平和祈念公園納骨堂前

慰靈参拝

九州経済フォーラム主催沖縄南方諸地域戦没者慰靈祝詞

主催(祭主)/九州経済フォーラム
奉仕/沖縄県護国神社

- 一、開式の辞
- 一、修祓の儀
- 一、降神の儀
- 一、献饌の儀
- 一、斎主祝詞奏上
- 一、祭主祭文奏上
- 一、玉串奉奠
- 一、敬饌の儀
- 一、斎主挨拶
- 一、閉式の辞

一、修祓の儀

一、斎主祝詞奏上

一、祭主祭文奏上

一、玉串奉奠

一、敬饌の儀

一、斎主挨拶

一、閉式の辞

九州経済フォーラム沖縄開催記念事業に寄せてことば

(社)国民文化研究会常務理事・福岡事務所所長 山口 秀範氏



参加させて頂いた沖縄開催の記念事業では様々なことを学び、私の沖縄観を修正するに到りました。特に若い世代の下地隆司氏から、大陸文化の影響を受ける以前の琉球人たちは「すべての事象に神々があり、それをもつたないと崇める精神」を持ち、ヤマト（日本内地）とまったく同じだと伺ったのは嬉しい発見でした。この云わば「同胞意識」あつたればこそ、沖縄県民は、先の大戦時に「本土決戦の防波堤」たるを厭わず、帝国軍人たちと一緒にになって多くの命を捧げたのだ、としみじみ納得させられました。

翌日の「記念シンポジウム」における吳善花さんとの指摘——「自然（神々）と二

体になつて生きてきた日本人の感性——「前アジア世界」（現代日本が保持する三つの世界・本文 ページ参照）——は、まさに琉球の人々が日本人であることを再確認する天啓と聴きました。

その穏やかな平和の民が、近代西洋文明の冷徹さを戦中戦後とも一身に背負い続いている現実が、慰霊祭に臨む私にも重くのしかかって来ました。太田 実海軍少将の最期の電報「沖縄県民斯く戦へり。県民二対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ」は今も生きていると実感したのです。本事業が、経済だけに止まらない広汎な連携・交流の契機となることを切に祈ります。



■戦跡視察



沖縄県平和祈念資料館友の会 会長
大城 藤六氏による視察解説

ご挨拶

沖縄県護国神社 宮司 伊藤 陽夫 氏

貴会発足当時、沖縄では美ら島海洋博覧会が催されていました。開会式セレモニーに御臨席の皇太子・同妃両殿下（現天皇・皇后両陛下）お召しの特別機は、小さな伊江島の滑走路に着きました。あの大戦の終末に猛爆撃後、米軍が攻撃機を飛ばす基地に使うため、県民戦災者の残骸を埋めるように野原を滑走路にした跡地でした。お召し機が着陸まさわ「滑走路の下には遺骨が埋まっています」との説明をうけられた両殿下は、タラップを降りられたのち、滑走路に向かってお辞儀をされてしまふお動きにならなかつたと伝えられています。

いまや今上天皇・皇后両陛下、昨年はサイパンをも訪れられ、慰靈の真心をお近くし下さいました。あの万歳クリフに向かつての、祈りのお辞儀の姿が報道され、私どもの目に焼きついています。病に伏された昭和天皇が晩年、

思はざる病となりぬ沖縄にたづねて果たさむつとめありしを

と歌われたその大御心の遺志を継がれて、英靈の御靈慰めを趣旨に取り入れた二十

周年記念大会を催されましたことは大



とどろき塚 パックナー中将戦死の地 幸地腹門中 白銀堂

変意義深いことであったと存じます。折たされています。

ご即位後三回に及んで行啓・行幸啓を果たされています。

精魂を込め戰ひし人未だ地下に眠りて島は悲しき

と、これは硫黄島を慰靈に行幸啓されたとき（平成6年の御製です。平成7年美智子皇后さまはお誕生日の記者会見において、「慰靈の旅では、戦争の最も被害を受けた人々、遺族として長い悲しみを鎮魂を祈りました。戦争により、非命に倒れた人々、遺族として長い悲しみを訪問に重ね、戦争で」「くなつたすべての人々の上を思い、平和への思いを新たにいたしました」と語られています。

その思いを平成8年の終戦記念日によせて、海陸のいづへを知らず姿なきあまたの御靈國護るらむ

と詠われました。



とどろき塚



パックナー中将戦死の地



幸地腹門中



白銀堂

開会挨拶

九州経済フォーラム副会長 橋田 紘一（九州電力（株）常務取締役）

皆さん、「んにちは。こんな格好で申し訳ございませんが、九州電力は省エネに生産命がんばっておりますのですから、クールビズということでネクタイをしておりません。ご容赦ください。

本日は、九州経済フォーラム20周年と

いうことで、記念講演、それから記念式典といろいろ行事をご用意しておりますが、まず第二弾として麻生太郎外務大臣の講演をお聞きしようということになりました。もうずいぶん前から、麻生大臣にお話を伺いたいと幹事団は考えておりまして、ずいぶん前に大臣官邸に行きました。その時は、総理裁選をはじめいろいろなことがあります、大変な時期だとも思いましたが、国際情勢がこんなに厳しくなるとは思つておりませんで、是非とお願いしましたところ、快くお受けいただきました。

先生には以前から九州経済フォーラムに関心を持っていただいていたようで、過

ぎます、が、先生としては九州に対する思い入れ、あるいは九州経済フォーラムに対する温かいご支援のお気持ちもあります。本当に多忙な中、お時間を割いていただきました。今日、20周年事業に

みなにたくさんの方をお迎えして、麻生大臣のいま現在最も旬でかつ重要な中身のあるお話、直接体験に基づくお話を伺うことは、私たちにとっても時勢に合ったこととして大変うれしく思っております。

先生のお話を40分～50分お聞きし

て、その後にシンポジウム、意見交換という形になつております。皆様方からご質問をされることもあるかと思いますので、積極的に討議に参加していただければと思います。

今日はお忙しい中、たくさんの方にお出でいただきまして、本当にありがとうございました。

去にもお話しをしていただいたこともありました。本日は海外からすぐとんぼ返りという状況でご講演をしていただ



九州経済フォーラム創立20周年記念事業(福岡開催)

次第 《平成18年7月31日(月)》

記念講演	17:00 開会 開会挨拶／九州経済フォーラム副会長 橋田 紘一 (九州電力(株) 常務取締役)
	17:05 講演 テーマ／～外交が生み出す将来の日本～ 講師／外務大臣 麻生 太郎 氏
	17:40 シンポジウム 外務大臣 麻生 太郎 氏 九州経済フォーラム理事 矢田 俊文 (北九州市立大学 学長) 九州経済フォーラム監事 石村 健悟 (株)石村萬盛堂 代表取締役社長)
	18:20 花束贈呈 九州経済フォーラム会員 今井 千恵 (レインア(株) 代表取締役社長)
	18:25 謝辞 九州経済フォーラム相談役 長谷川 裕一 (株)はせがわ 代表取締役社長)
	18:30 終了
記念式典	18:30 開会 開会挨拶／九州経済フォーラム会長 石原 進 (九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長)
	18:40 来賓挨拶／福岡県知事 麻生 渡 氏 来賓挨拶／九州経済産業局長 川口 修 氏
	18:50 功労者表彰式
	19:10 閉会 閉会挨拶／九州経済フォーラム理事 遠藤 敏介 (西部ガスエネルギー(株) 代表取締役社長)
記念交流会	19:15 開会 開会挨拶／九州経済フォーラム副会長 小椋 敏勝 (西日本電信電話(株) 九州事業本部福岡支店長兼務)
	19:20 来賓挨拶／宮崎商工会議所 会頭 小林 貞雄 氏
	19:25 乾杯 福岡商工会議所 会頭 田尻 英幹 氏
	19:45 九州の祭りフェスティバル 【宮崎県】高千穂の夜神楽 【大分県】豊後高田市の草地おどり 【沖縄県】琉球祭り太鼓 【熊本県】山鹿灯籠祭り 【福岡県】福岡・九州オリンピック招致応援チアリーディングチーム
	20:20 開会 閉会挨拶／九州経済フォーラム相談役 入江 正武 (福岡工業大学 講師)
	20:25 祝いめでた 九州経済フォーラム理事 水嶋 修三 (株)JTB九州 代表取締役社長) 九州経済フォーラム理事 橋村 俊久 (松尾建設(株) 顧問) 九州経済フォーラム理事 右田 喜章 (株)ホークスタウン 取締役副社長)
	20:30 博多手一本 九州経済フォーラム理事 大内田 勇成 (株)シティアスコム 代表取締役社長)

記念講演

「外交が生み出す将来の日本」

外務大臣 麻生太郎氏



九州経済フォーラムが出来て20周年ということで、九電の橋田常務がお見えになりました。講師は是非地元で、錢のかからない奴がいいということで、ついては麻生が一番安く上がるのではないかという、経営者としては誠に正しい感覚でやつて来られたようですが、九電の株は買いたんだ、そう思つたんですが、その時ご案内いただいて、今日の日程が決まりました。「国際会議をやっておりますので、あまり日程はアテになりませんが」と申し上げたのですが、幸いにして日曜までにASEAN等の国際会議も終わって帰れましたので、今日は無事、参加させていただきましたが、そこから話題が「外交が生み出す将来の日本」となんですが、

外交が生み出すということになると、話がいろいろ混み入つて限られてくるような気がしますが、是非言つておきたいのは外交というものを考えるにあたって、まして日本というものを考えるにあたつては、ある程度自分のことを知つておかなければならぬということです。商売をするにしても、何をするにしても、まず日本のことを知つておかなければならぬ。日本というブランドを売るんですから。世界192カ国の中で、日本という国のイメージ、ブランド、日本という商品を、日本という存在を示して売つている。簡単にいえばそういうことです。したがつて、自分が持つてゐるもの、その良さ、商品の値打ちが分かつてない相手にどうでも意味がない。逆に向こうは、この値打ちが

日本人は、海外からどんな風に見られているのかという話が好きで、外国人がどう言つてゐるのかというのも気になるわけです。国会議員というのは、選挙区の人の話は気にならないが、票を持つてない人の話は気にならない。世界60億人の人がどう言つてゐるのかなんというのも、あまり気にならない。ところが、みなさんは「ういうお話を好んでお話し下さいで、特に日本が孤立しているといふお話を好きです。自虐的主義をどこに極

欲しいと思つて買うわけだけども、その価値がなければ買つても意味がない、といふことになるのだと思います。したがつて、「日本って何ですか」と聞かれた時に、皆さんはあらためて日本というものを考へておいでいただかないと、これから話はできないのだと思います。

日本人は、海外からどんな風に見られてゐるのかという話が好きで、外国人がどう言つてゐるのかというのも気になる。国会議員というのは、選挙区の人の話は気にならない。世界60億人の人がどう言つてゐるのかなんというのも、あまり気にならない。ところが、みなさんは「ういうお話を好んでお話し下さいで、特に日本が孤立しているといふお話を好きです。自虐的主義をどこに極めます。そこで、この地下鉄は、日本ではないわ

響を与えている国はどこですか」という世論調査を行いましたが、その質問に対する答えで第1位は日本ですよ。これはNHKが調査したわけではないし、日本の政府がやつたわけでもない。イギリス国営放送が勝手にやつた調査で、日本が1位になつた。これが海外における日本の評価で、最も公平な評価です。是非この事実を頭に置いていただきないと、自虐史観で始まるようだと間違つてくる。

「」で、日本という国はどういうところが評価されているのかを端的に示す2つの例を引きます。一つは、今年1月にインドのニューデリーに行ったときの話です。そこには、日本のODAで地下鉄が出来ていて、乗つてみると入り口のところに「この地下鉄は、日本のODAで出来たものです」と、駅の入り口に大きく書いてある。どこの国のように、どこの国がやつたのかも分からぬ、隅の方にちょこちょこと書いてあるということではない。堂々と、日本のおかげで出来ましたと書いてある。エスカレーターを降りて改札の前に行くと、そこには大きな円グラフがあつて、約70%が緑色で塗つてありJAPANと英語で書いてある。その横には、ピニズー語でジャパンと書いてあるらしい。日本の国旗が書いてある。誰が見ても「の地下鉄は、日本の援助で出

来てると分かるように書いてある。地下鉄に乗つて、総裁に、日本のODAがこんな形で生かされているとはつきり目に見える形で示していただけることは、ODAをやっている我々にとって大変有り難い、と言つたところ、「ミニスター」と言つてはじめた話が面白い。「私は、この地下鉄プロジェクトの技術責任者で、最初の現場責任者として地下鉄工事の現場説明会を開催した。その時の集合は朝8時だった。自分は朝8時3分前に入っていたと思う。日本人の作業員は、全員ヘルメット、制服着用でビシツと並んでいた。その後、インドの技術者が全員集まると、12～13分かかった。責任者として、私が全員揃いましたと言つたところ、日本人は「8時は集まる時間ではなく、作業を始める時間だ」と言った。反論できなかつたので、次の日、7時45分に行つたところは、日本人は集まっていた。悔しいのでさらに翌日7時30分に行つたら、作業服に着替えていた途端だった。それから

だ。これに勝る文化輸入は2つとなつた。だから、この地下鉄のことをインドでは、「ベスト・アンバサダーリー最高の大使」と呼んで書いて、事あるごとに「納期、納期」と書いて時間の観念を徹底的にたたきこんだそうです。「おかげで」のプロジェクトは、予定より2カ月半早く完工した。インドにおけるプロジェクトで、予定よりも早く完工することは1回もなかつた。しかも驚いたことに、工事が終わつてすぐに別のチームが入つてきたが、全員首にストップウォッチをかけている。ストップウォッチを片手に、秒単位の正確さで電車を発車させる。とにかく「六発車、七発車」とやる。これは次に見えた日本語だそうです。オンラインと言わなかつたかと聞くと、「いや、七発車」と言つたんだけれども、とにかくこの訓練を終つたんだから、とにかくこの訓練を徹底してやらされた。今日、インドの公共交通機関で、5分以内の誤差で走つているのは地下鉄だけだ。我々はこのプロジェクトによって、日本から働くということを教えてもらつた。日本が行つたODAという巨額の資金の投下には、日本人の働くという価値観、労働への美德、倫理観もついてきた。インドのニューデリーで最高の教育を受けた自分たちだが、日本人から時間通りに商品を納めるということを徹底して学ん

なわけですが、建設会社の人たちは、英語で説明するのは面倒なものだから、納期とだけ書いて、事あるごとに「納期、納期」と書いて時間の観念を徹底的にたたきこんだそうです。「おかげで」のプロジェクトは、予定より2カ月半早く完工した。インドにおけるプロジェクトで、予定よりも早く完工することは1回もなかつた。しかも驚いたことは、工事が終わつてすぐに別のチームが入つてきたが、全員首にストップウォッチをかけている。ストップウォッチを片手に、秒単位で発車させなければならないのか」と

言つたんだけれども、とにかくこの訓練を終つたんだから、とにかくこの訓練を徹底してやらされた。今日、インドの公共交通機関で、5分以内の誤差で走つているのは地下鉄だけだ。我々はこのプロジェクトによって、日本から働くということを教えてもらつた。日本が行つたODAという巨額の資金の投下には、日本人の働くという価値観、労働への美德、倫理観もついてきた。インドのニューデリーで最高の教育を受けた自分たちだが、日本人から時間通りに商品を納めるということを徹底して学ん

だ。これに勝る文化輸入は2つとなつた。だから、この地下鉄のことをインドでは、「ベスト・アンバサダーリー最高の大使」と呼んで書いて、事あるごとに「納期、納期」と書いて時間の観念を徹底的にたたきこんだそうです。「おかげで」のプロジェクトは、予定より2カ月半早く完工した。インドにおけるプロジェクトで、予定よりも早く完工することは1回もなかつた。しかも驚いたことは、工事が終わつてすぐに別のチームが入つてきたが、全員首にストップウォッチをかけている。ストップウォッチを片手に、秒単位で発車させなければならないのか」と

言つたんだけれども、とにかくこの訓練を終つたんだから、とにかくこの訓練を徹底してやらされた。今日、インドの公共交通機関で、5分以内の誤差で走つているのは地下鉄だけだ。我々はこのプロジェクトによって、日本から働くということを教えてもらつた。日本が行つたODAという巨額の資金の投下には、日本人の働くという価値観、労働への美德、倫理観もついてきた。インドのニューデリーで最高の教育を受けた自分たちだが、日本人から時間通りに商品を納めるということを徹底して学ん

だ

たと思っている人が多いがそれは誤りである。アジアに行つてみると、「そこ」は日本のサブカルチャーに席巻されつつあるというのです。ドナルドダック、ミヅキーマウスに代わって、ボケットモンスターやドラえもんがアジアに出てくるんですが、J-POPがタイ語になりました、ハングルになっている。驚くなれ、ファッショントンにおいては、タイ・チュラロンコ大学、タイで一番古い大学ですが、そこの女子大生に「あなたがもし生まれ変わるなら何人に生まれ変わりたいですか」と聞いたところ、最も多くの人が日本人の女性と答えている。ちなみにアメリカ人女性が2番ですが、もうダメントツ1番。理由は、1番いい洋服を着ているから、1番金払いがいいから、そしてバンコクの街を颶爽と歩いているからだそうです。ちなみに日本人男性は0です。これが、アジアにおける日本のイメージなんですね。今、コンビニではたくさんの週刊誌が売られていますが、そのほとんどは赤字のはずですが、それでも雑誌社が食べていいける理由は、ファッショントン雑誌です。日本だけで売っているわけではありません。ほとんどが東南アジアでも売っている。そこでわりしておきますが、J-POPもJ-ファッショノもアニメも、英語はあませんからね。これ全部日本語

のまま出ている。思い出して下さい。我々の世代は、エルビス・プレスリー。最近別の意味で話題になりましたけれども、このエルビス・プレスリーの世代は、やっぱり歌は英語で歌わないと格好が悪かったわけです。マイケル・ Jackson も、日本語じゃないと具合が悪い。だから全部日本語なんです。国内の景気が悪くなるので、日本語を習う人が少なくなつたなんということを書いた新聞がありましたけれども、これは間違っています。今、日本語を勉強したいと思っている人は、ここ10年間でちょうど倍になつた。国際交流基金の資料によると、最初は、学校で習うわけではなくと出ている。一番最初は、学校で習うわけではない。テレビゲームの攻略本で覚えるんです。これを読まないと勝てないから、二無「日本語の攻略本を読むわけです。日本語を読めないと、子供たちの中で英雄になれないんですよ。J-POPもやっぱり日本語で歌う。サッカーのアジアカップで、中国重慶で極めてアンフェアな応援が行われたときにはスタンディングオベーションで日本語で歌つた。それくらい日本語が浸透しているんです。ファンションもそうです。奥さん方

は博多の街を歩くときウォーキングなどして、雑誌を脇に抱えて歩いてたでしよう。ヴォーグ。「あんた、フランス語で顔かよ」と思つてましたが、フランス語は読めなくとも、ヴォーグを持っていないとカフコ悪かった。今、見てみなさい。ほとんど日本の本を持つていてから。韓国でもどこでも、「この前は釜山だたけれども街ゆく人、本屋に入つても日本の雑誌を売つている。もちろんコミックも売っている。米国・ウシントンの大きな本屋に行ってみて下さい。日本のコミックだけのコーナーがありますよ。」の間、ボーランドの外相がお土産にくれたのは、ボーランド語で書かれた「大夜叉」という漫画でした。大夜叉といつても全然通じないと思いますけれど、少年サンデーで連載している漫画です。このボーランド語版をお土産にくれたんです。我々の知らない間に、日本のサブカルチャーがそれぐらい広まっているという事実これは全部、日本のブランドというものにながつてくる力なんです。

だから日本の外交を考えるとき、外交といえは外務省だととか、何となく横文字とかナイフとかフォークとか考えがちかもしれないが、そういうことは全く関係ない。国と国が付き合うと言つたって、もとは人間と人間の話ですから。その人間同士の人間關係、人脈、コミュニケーション、リレーション、そ

ういたものが全てです。したがってその上に立つて、日本という国は何をしていくのか、ということが、今までに問われているんだと、私はそう思っています。

自民党をぶっ壊すといって登場した小泉内閣は6年目ですが、自民党の旧来の派閥というものはほぼ壊滅しました。クランクシャンになつた。これは事実だと思います。派閥は、かつてあつたものとは全く中身の違うものになつた。これは、小泉政権5年間の功績としては大きかつたと思いますよ。いろんな意味での既得権益というもののが壊された。既存のいろいろなものが、かなり壊されていったのは確かです。そのおかげで風通しがよくなつてきた。また、海外から見ても、先ほどのサマワの話じやありませんけれども、日本が本来持つてゐる力が外に見えるようになつてきてる。有事法制という法律も通つた。国民保護法といふ法律も通つた。またこれまであつた制度、補助金、特殊法人がものすごい勢いで変わつた。大蔵省が死んでも離さなかつた地方自治体に対する補助金も、3兆円ばっさり切つた。地方分権では、3兆円の自主財源が来たんだから、後は自分たちでちゃんと經營してよということになつた。今まで赤字になつても国に言つたらなんとかしてくれたが、これからはそれは出来ない。

野球で言えば、ノーヒットノーランくらいです」といふことですよ。では、日本の陸上自衛隊がどうしてこんなにうまくいくのかというと、フランス軍が発行しています「今日の軍隊」いう機関誌の中で、「どうして日本人は成功しているのか?」という記事があります。その理由は、彼らは唯一、軍服を着ながらにして、イラク人道復興支援のために来ている部隊であると信用させたからであるというのです。そのために何をしたかといえば、彼らは着くやいなや、まず地方の行政区の長、部族の長を全部回つた。そして、「何が希望ですか、何をやってほしいですか」と聞いて回つた。そうすると道路の補修だとか給水だとか、電気だとか、そういうたぐいがいろいろ出てくる。けれども、同じ地域では二つのことをやるので、優先順位を決めてくれと言つて、道路、電気と順番を決める。そして、その通りにきちつとやる。道路を作るときには、ブルドーザーを使つてやるわけですが、特殊免許を持っていない人でもかまいませんから、現地雇用の従業員で、特殊車両の運転に興味をもつてゐる人に日当を払いながら運転を教える。こうすると、その人は間違いなく、日本が現地を去つた後には、特殊車両を運転できる技術者になつてゐる。そして、時間を守つてきつ



卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

3つ言いました。BBC、インドの話、白衛隊。多分、ここにおられる方にとって新しい話かもしけんが、世界における日本の評価として最も分かりやすいのが、今挙げた3つの例だと思います。ところが、外交というとしばしば分かつたような分からぬようなことをアレコレ並べて書かれるわけですが、現実問題として、日本という国が持っているイメージというのは、これまで申し上げたとおりであり、日本のイメージがブランドになり、ブランドが向上するということは、すなわち日本の国力が上がるということにつながるんです。国力が上がれば結果的にはそれが国益になるわけですから。私は、そのところを皆さんに是非理解していただきたいと思っています。

何となく新聞を読んでいますと、モノづくりという話になるでしょう。モノづくりも大切ですが、モノしか作れないわけではないんですよ。今言つたようにソフト。ハードではなくソフトが出てる。我々はここ本国に住んでいますが、どうしてもアジアに顔が向くんですが、アジアは世界の中でも経済発展が著しいところで、世界の金額も65億人のうち約6割がいる。中国、インドという巨大な市場があり、またインドネシア2億2000万人とものすごい資源

や頭脳、金融を持つている国があり、大きく変化している地域である。そういう中に我々は生きているわけですが、最初に述べたように自虐主義じゃないですが、いつも何となく日本だけが孤立しているんじやないだろうかとか、今度の北朝鮮のミサイル問題にしても、日本はアメリカにはめられているんじやないだろうかとか、こういう話が好きなんですね。それでどうしてそうなるかと聞くと、反論はしないんですね。ただそんな感じがする。それをまた新聞が書くから、そして更にそれを簡単に信じる人が多いから、困ってしまうんですよ。今の日本の評価というのは、多分第三者が言つた方が分かりやすいと思います。

これもよく例に使うんですが、アメリカのタイムという雑誌の表紙に、椎名林檎が載りました。椎名林檎を知っている人はいますか。知らない人は、今の時代にほとんどいてない人だと思いますが、椎名林檎は歌手です。宇多田ヒカルを知っている人。こちらの方が有名みたいです。両者とも歌手なんですが、どちらも最もアジアで名の通つた人達です。タイムの表紙になるなんて人は、そうはないわけなんですが、3年ほど前タイムが特集を組んだ。その内容は、大方次のようなものでした。日本をハードの国

その分はもう先払いしちゃったんだから、もうないよということになる。それでもどうにもならなかつたら、それはそういう経営感覚のない首長を選んだ市民が悪いということになる。規制改革、ビルグランとかいろいろな表現をしましたが、我々はこれを1980年代からやつてきている。地方分権括法を通して、今度は3兆円の税源移譲をやり、確実にやつて来た。それを今になって大変だ大変だつて言う。しかし、大変になるのは前から分かつてたじやありませんか。私は「それでいいんですね」と何回も念を押したじやありませんか。その時は、私達のことを守旧派と呼んだじゃないですか。いざそうなつたら昔の方が良かつたなんてそれはないでしょうといふことになる。しかし、そういう中でも経営能力のある首長を選んで上手くやってきているところもある。それが事実なんです。したがつて、私どもとしましては、これはしばらくやつていかなければならない、地方分権を進めなければならないと、そう思っています。ただし、個人によつて人間には差がある。能力に差があり、努力にも差がある。運にも差がある。能力の有る無し、努力するしない、運の有る無し、いろいろある。しかし、地域間の格差といふのは、人口の少ないところにサービス産

業は育たないわけで、そういう意味では差がつく。そういうところはある程度、スタート時点で格差が少ないようになつた公平ではないですよ。結果の平等ではなく機会の平等なんだから、最低限のところはますは一律にしよう。今の時代は、地方に人がいない分だけ割をくつていて、しかし、そこはよく考えて下さい。別の部分で優れているんだけれども、その優れている部分を利用できない。その理由はなんだとしたら、高速道路のインターチェンジまで1時間かかるとか、港に荷物を揚げても、インター・チエンジまで30分以上かかりますとか。それじやあそういうところは、一応きちんと整備しましようやと。光ファイバーもきちんと敷設しましようやと。そういう意味では、きちんとしたルールを作つて、公共工事で地域間の格差をある程度是正するようなことをしておかないといけない。地デジと称する地上デジタル放送も2011年には完全にスタートする。そういういたインフラも整備していく一方、都市部においては、開かずの踏み切りがいくつあるんですか。東京だけでも100カ所以上あるんでしょう。電信柱だつて地下に埋設したら道路も広くなりますよ。NTT、九州電力がいい思いをするんじゃないかなつていうんだけれども、

技術会議で調べ上げて、いくつかに絞つて、ITとか、バイオとかを伸そつと、この予算のつかない時代に、そこだけは大幅に予算が付いていますよ。そういうものを確実にしていく限りにおいて、この国の将来は決して暗いものではない。高齢者が溢れる話ばかりですが、私と同じ年金対象者の方々でも、会社では迷惑がられる高齢者とは、正確には65歳以上の人なんですが、実に、そのうちの85%は元気。15%の人が要介護です。しかも70歳以上の人の持つているカネは、個人資産1400兆円のうち700兆円です。すさまじいカネですよ。今、国家予算が80兆円ですよ。その8倍以上も持つておられる。今から団塊世代が定年になりますが、そいつもありますよ。コミニティもいづらあります。シルバーボランティアとして、岐阜県の日本昭和村はじめいっぱいあります。そういうものを是非、参考にしていただきたい。

福岡は、何と言つても九州で一番伸びる

業は育たないわけで、そういう意味では差がつく。そういうところはある程度、スタート時点で格差が少ないようになつた公平ではないですよ。結果の平等ではなく機会の平等なんだから、最低限のところはますは一律にしよう。今の時代は、地方に人がいない分だけ割をくつていて、しかし、そこはよく考えて下さい。別の部分で優れているんだけれども、その優れている部分を利用できない。その理由はなんだといたら、高速道路のインターチェンジまで1時間かかるとか、港に荷物を揚げても、インター・チエンジまで30分以上かかりますとか。それじやあそういうところは、一応きちんと整備しましようやと。光ファイバーもきちんと敷設しましようやと。そういう意味では、きちんとしたルールを作つて、公共工事で地域間の格差をある程度是正するようなことをしておかないといけない。地デジと称する地上デジタル放送も2011年には完全にスタートする。そういういたインフラも整備していく一方、都市部においては、開かずの踏み切りがいくつあるんですか。東京だけでも100カ所以上あるんでしょう。電信柱だつて地下に埋設したら道路も広くなりますよ。NTT、九州電力がいい思いをするんじゃないかなつていうんだけれども、

ところなんですから。アジアにはいちばん近いし、アジアに開かれた24時間の飛行場も出来たし、いろんな形で博多には人が集まるし、私どもは明らかに有利な条件を持っている。これを生き残る手はないんだと、私はそう見える。後は、こういったアイデアを皆さん方で考えられることが集まると、私はたまたまこういふんだと思いません。そういうことを生かして行くために、外交というものを難しく考えないで、我々の持つている力をよく理解したうえで、どこで勝負するか考えていく。外国人は、アジアの人達は、何を日本に期待しているのか、という点をよく理解しないと、相手にとっては、「小さな親切、大きな迷惑」なのかもしれない。だから、是非向こうの言い分というのも聞いて、それで話してやる。そのことをやりさえすれば、この国の将来は極めて明るいと、私は基本的にそう思っています。

お約束の時間だと思いますので、これで話を終わらせていただきたいと思いますが、前列から総裁選挙の話もちゃんと二言やつておけという話もうかがいました。そのためだけに東京から新聞記者がついてきているのかなと思わないでもありますけれども。最後になりますけれども、

広田弘毅以来福岡県から総理大臣がでたことはございません。戦後、九州からは、

細川護熙と村山富市という方が、いずれも自民党以外から出られましたけれども、自民党からは出たことがあります。そういう意味では、私はたまたまこういうチャンスをいただきましたので、この9月20日、自由民主党の総裁選挙には立候補しようと思つております。何となくこういったことを言うと、出馬表明なんてことになつちやうんでしょうかけれども、出馬を表明するためには20人の名簿を揃えて、自分の政策をちゃんと提示しなければなりません。告示は、9月8日ですが、まあ、投票日のひと月ぐらい前にやればいいんじやないかということで、8月20日前後の適当なときという話をしています。私は、日本という国は皆さんが思つてゐるよりいい国だと思っております。そして世界からの評価の方が、よっぽど日本という国を正しく評価していると私にはそう見える。たまたま今、外務大臣をやつてますので、いろいろな国と交渉しますけれども、我々はもつと自分の考へていてそれを、きちっと正しくコミュニケーションを取つてお伝え、これが一番大事なところなんですが、抜けちゃうんです。基本的に下手なんだと思う。これを言つたら場の雰囲気を壊すんじゃないだろうかとか関係ない。まずは、開き直つてズバッと言う。そ

多すぎると言つてますか。日本の約3分の2の国土でイギリスは6000万人位だが、日本はその倍だから大変だ。では、この日本という国土、38万平方キロメートルにとつて、何万人が適正だといふのか。それを全然語らないでおいて、世界が減っているから、大変だというのは、日本の人口も、カネの流れもよくなる。情報も、モノも、カネの流れが変わっている。そういうものに公共工事が使われれば、ストックとしてそこにきちんととした景観が残る。また、車の流れもよくなる。情報も、モノも、カネの流れも、全ての流れがよくなる。となると、間違なくその地域は潤います。そういうことは、カネが使われてもおかしくないんじゃないですか。私は、「公共工事」悪」という発想は全くありません。カネは、使われるべきところで使わなければならぬと思つています。

高齢化の問題や年金問題、自然との共生など、いろいろ数多く課題が残つています。しかしその多くは、行政とか政治とかで解決できる問題です。きちんとやります。しかし、その多くは、行政とか政治とされすれば、どうにもならないという話ではないんですから。そういうものは、きちんとやつていかなければならない。とはいふて、人口減という話はやはり一番難しい。少子高齢化ですよ。これを最後に述べたいと思います。少子高齢化になると、子供を産まないから大変だという話が先行するんじゃないかなつていうんだけれども、

道路が広くなるんですから。道路が広くなれば、交通は便利になりますよ。そして、電信柱が地下に埋設されたらどうですか。景観は全く変わりますよ。博多の街を見て下さい。昔と今では全く景観が変わっている。そういうものに公共工事が使われれば、ストックとしてそこにきちんととした景観が残る。また、車の流れもよくなる。情報も、モノも、カネの流れも減っているから、大変だといふのはおかしくない。私は、基本的にそう思つています。モノが売れないという話がある。しかし、世界の人口は増えているんですよ。日本の人口も減っているから、大変だといふのは、日本でしかモノは売れないという人の発想です。世界中でモノを買いたい人はいっぱいいるんだから。日本製は特に買いたいんだから。その人達に売ることを考えたら、生産性も、全ての流れがよくなる。となると、間違なくその地域は潤います。そういうことは、カネが使われてもおかしくないんじゃないですか。私は、「公共工事」悪」という発想は全くありません。カネは、使われるべきところで使わなければならぬと思つています。

道路が広くなるんですから。道路が広くなれば、交通は便利になりますよ。そして、電信柱が地下に埋設されたらどうですか。景観は全く変わりますよ。博多の街を見て下さい。昔と今では全く景観が変わっている。そういうものに公共工事が使われれば、ストックとしてそこにきちんととした景観が残る。また、車の流れもよくなる。情報も、モノも、カネの流れも減っているから、大変だといふのはおかしくない。私は、基本的にそう思つています。モノが売れないという話がある。しかし、世界の人口は増えているんですよ。日本の人口も減っているから、大変だといふのは、日本でしかモノは売れないという人の発想です。世界中でモノを買いたい人はいっぱいいるんだから。日本製は特に買いたいんだから。その人達に売ることを考えたら、生産性も、全ての流れがよくなる。となると、間違なくその地域は潤います。そういうことは、カネが使われてもおかしくないんじゃないですか。私は、「公共工事」悪」という発想は全くありません。カネは、使われるべきところで使わなければならぬと思つています。

道路が広くなるんですから。道路が広くなれば、交通は便利になりますよ。そして、電信柱が地下に埋設されたらどうですか。景観は全く変わりますよ。博多の街を見て下さい。昔と今では全く景観が変わっている。そういうものに公共工事が使われれば、ストックとしてそこにきちんととした景観が残る。また、車の流れもよくなる。情報も、モノも、カネの流れも減っているから、大変だといふのはおかしくない。私は、基本的にそう思つています。モノが売れないという話がある。しかし、世界の人口は増えているんですよ。日本の人口も減っているから、大変だといふのは、日本でしかモノは売れないという人の発想です。世界中でモノを買いたい人はいっぱいいるんだから。日本製は特に買いたいんだから。その人達に売ることを考えたら、生産性も、全ての流れがよくなる。となると、間違なくその地域は潤います。そういうことは、カネが使われてもおかしくないんじゃないですか。私は、「公共工事」悪」という発想は全くありません。カネは、使われるべきところで使わなければならぬと思つています。



九州経済フォーラム創立20周年記念式典

「新たな生き出しが出来る日本」

創立20周年記念 シンポジウム

外務大臣

麻生 太郎 氏



九州経済フォーラム 理事

矢田 俊文

北九州市立大学 学長



九州経済フォーラム 監事

石村 健悟

(株)石村萬盛堂 代表取締役社長



律がなくとも国旗国歌だったものが、法律で決めてはじめて国旗国歌になったことなど、戦後60年の間に日本が重んだことは確かなことで、そういう意味では、それこそ今後60年位かけるつもりで、腰を据えて変えていくという気持ちが必要なのだと思います。ただ、戦後から選舉を過ぎて、日本も少し変わってきたのかなと選挙を通して感じています。

[石村] 私は麻生外務大臣の外交姿勢を見ています。これは私の言葉なのかも知れませんが、どうも少し前までの日本の外交というのは、友好がイデオロギー化していたんじゃないかな。先程、大臣が最後の

方で言われたように、場の雰囲気を壊すから言うのを止めておこうというのが外交の場だけではなく、日本全体を覆っている一つの風潮だと思うんですが、それを幕末の吉田松陰という人は、人間関係を作らうとして、穩健にいうことが一番ダメなんだとおっしゃっていました。自分はバツと言つておりますが、まさにその逆が今、要求されているんじゃないだろうかと思います。いかがございましょうか。

[麻生] 李肇星という中国の外交官がおられます。日本と中国の外交官が会わなくなつて丸1年くらい経つてますが、今年5月にドーハで日中の外務大臣会合を行つた。今回また、マレーシアのクアラルンプールでやつて来ましたが、私が申し上げたのは、「日中友好なんというのは手段であつて、目的じやない。目的は日中が共に繁栄することで、本来の目的は日中の共益なんじゃないか。そのための手段が友好なのであって、もう1972年から数えて34年間、「友好友好」と言って、結果的に友好になつた

か」というと必ずしもそうではないじやないか。しかし、共に利益が出るようなら、必然に仲良くなる」と。私は、相方とも利益があつて、「やっぱり仲が良いほうが多いね」と思えるようにするのが外交だと思つて。私自身が、経済の方から政治の世界に入ったこともありまして、会社同士のつき合いでも、片方だけが儲かると言つつき合いは長く続かないと思つています。日中友好って、友好がいいに決まつてますが、友好と言つてお互い損をするのはあまり意味がないと思います。

[石村] 友好という、一種のイデオロギー化した言葉に代わって、共益という新しいコンセプトを示していただいたかなという感じがいたしました。

[矢田] 私は、外務大臣とお会いするの

は2回目なんです。2000年から2001年だと思いますが、九州大学の副学長で、移転と改革を杉岡総長とやつてある国立大学法人化の議論の最終的な取り

時に、飯塚の方にいわゆる大学の法人化の話をしに行きました。当時、自民党で國立大学法人化の議論の最終的な取り

まとめを表に出す取りまとめ役が大臣

だった。その時に、現場としていろいろと説明に上がつたことを覚えていますが、今回は地方分権についてお伺いしたいと思

います。九州の場合は、非常に強く道州

が出来ました。私は、つい最近まで教育委員会において、教育の現場を多めに実際担当いたしました。これについては、いろいろな意見もあるかと思いますが、歴史の教科書について、これまで我が国の歴史を、なぜこれほどまでに自虐的に扱わなければならぬのかという強い印象を持ったのですが、こ

【石村】心にすとんと落ちるようなお話をございました。実は、お話を最初の方に出てきました。私は、お話を聞かせていましたが、まさに今、日本を覆っている風潮で、何となく自信がない、何となく周りの評価が低いんじゃないかと感じていては、いろいろな意見もあるかと思いますが、歴史の教科書について、これまで我が国の歴史を、なぜこれほどまでに自虐的に扱わなければならぬのか

れは政治家の皆さんの中にも、なにかこう、どこかの国へつらうような感じがありまして、麻生外務大臣という印象がいたしましたが、そのあたりの外交姿勢について少しお話をいただきたいのですが。

[麻生] 教育というのが今、話題になりましたけれども、日本に成文憲法というの

が出来ましたのは明治23年でした。当時、明治天皇から憲法を作るための勅令が出て、伊藤博文がそれを受けてヨーロッパを歴訪しましたが、伊藤は日本に成文憲法は出来ませんと上奏して

いるわけです。理由は、日本にはキリスト教的なパックグラントが無いからだとい

うわけですが、それに対して由利公正と

宗教学に代わるものとして皇室があるで

はないか」と言つて教育勅語が、明治23年10月に出来上がつております。内容

はこの年配の方でないとほとんど存じない

ですが、天皇陛下も「庶幾ふ(こ)いねが

いきます。したがつて、そこには日本の伝統や文化、歴史について全く触れておらず、そ

ういう意味では、改めてきちんと持つていて

ならないと日本の教育現場をおかしくし

てしまう。例えば、国旗国歌法という法

なんです。読まれた方ももあるかと思いま

すが、何も悪いことが書いてあるわけじ

やございません。たゞ、この国に持つてい

ます。したがつて、そこには日本の伝統や

文化、歴史について全く触れておらず、そ

ういう意味では、改めてきちんと持つていて

いないと日本の教育現場をおかしくし

てしまう。例えば、国旗国歌法という法

なんです。読まれた方ももあるかと思いま

すが、何も悪いことが書いてあるわけじ

やございません。たゞ、この国に持つてい

ます。したがつて、そこには日本の伝統や

文化、歴史について全く触れておらず、そ

ういう意味では、改めてきちんと持つていて

中国をはじめとするアジアにおける外交の今後の展望について、今言われた北朝鮮の問題を絡めて麻生大臣の総合的なアジア外交についておうかがいするということなんですが、これはやはり難しいと?【麻生】アジアという地域は、最初に述べましたが現在、ものすごく経済が発展しています。その中で、日本はここ10年ほど、政策の間違いもあつたいろいろな意味で低迷していたのは確かですが、ここ2年ほど企業は、これは政策ではなくて、個々の努力で債務超過という状態を脱して、ここまで持ち直してきた。これは、間違なく民間企業の努力の賜物です。企業は、

円借り続けたことだというでしよう。今、そんなことを言う人はいませんが。その間に、日本企業は自信を取り戻しつつあります。この1年間日本の景気回復はアジアにおいても最大のシグナルになつた。いろんなところで、日本の景気回復に期待している。事実、企業進出も盛んになつてきました。一方で、アジアの中で中国の経済発展が著しくなってきた。かつては、日本だけが抜きんでていたが、どうやら中国が日本の2分の1ぐらいになつてきた。GDPでですよ。しかし、急激に経済を伸ばしすぎた結果、どうなつたかといえば、30～40年前の日本と同じことが今起こっている。例えば、公害の問題であるとか、

と北朝鮮の代表がしゃべっているわけですから、そういう意味では決議文の効果がこれからどう出てくるのか。今回のクアラルンプールでの会合でも、北朝鮮の外務大臣が出てきて、他の国の大臣が見ている前で、いろいろしゃべるんですけども、その後の6者会合には出てくる気配はなさそうですし、そういう国を相手にしているわけですから、決議が通つたから北朝鮮はミサイル発射を止めるとか、モラトリームに復帰するなんてことを簡単に期待するのは間違っています。

借入金とその金利の返済を優先し、年間約27～28兆円の返済超としてきた。バブルの崩壊後、企業は一齊に借入金の返済を優先し、利益より返済、投資より返済してきた結果、借入より返済が多くなった。加えて、預貯金も増えていますから、したがって銀行は貸したい相手から返済されて、商売が成り立なくなつた。それでその間、誰がお金を借りていたかというと、国が30兆円ほど借りていた。民間企業の返済分をこれで相殺したわけです。政府のやつた努力は多分この点

簡単にはいかないんじゃないのかなと最初に申し上げます。それでも、もし上手くいかせようとすると、合併したほうが双方が儲かるというのであれば、進むんだと思いますね。私、3年前まで総務大臣をしておりました。3226くらい全国に市町村があつたんですが、辞めますときには1822。約1400減った形になりました。合併して行政効率をよくしようと、先はもたないということになつて急激に進んだわけです。この2年くらいの間に経験したことからも、やっぱり府県合併とか、そういう形で進んでいった方がいいのではないか。道州制への移行を進める上で、地域格差が大きな課題になる。横

るというのは、ものすごい抵抗があります。これだけは何らかの形で残すようなことで名前の問題が残ります。もちろん、それは日本人のいいところかもしれません。いずれにしても、合併は進めたほうが行政効率が上がるることははつきりしています。国からはオンラインでしか書類は来ないので、情報化が出来ない市町村はやつていけない。やはり、その意味でも合併していくかないとやつていけないような状況になってきてますので、現実問題として合併は進むと思いますが、時間はかなりかかる。これを促進させるためには「合併し



浜360万人、東京青ヶ島村は198人。これが日本で一番大きな行政体と、小さな行政体なんですが、これは全くケタが違っていますが、青ヶ島の場合はどこかと合併しようといつても、どこも合併しないで、どうも日本はよ。

たほうが儲かる」というシステムをつくらない限りは、なかなか笛や太鼓だけでは上手く進まない、というのがここ2年位の感想です。

地方はどうでしょうか。政令指定都市のように国と直結している都市では、話は早いんだけれども、その他の市ではなかなかそうはいかない。政令市のよう国と直結してもいいけど、ある程度のことは自分らしく、もう話題を出さない。

差がありまして、いわゆる広域圏合併みたいな形で効率化を図っていく話と、連邦制に近く国の権限を相当そちらに移譲して、独立国のような形を作る話がありますが、後者の方はほとんど展望はないんですか。

自分でやでねでいう語が出てきますね
いずれにしても、私は基本的にはドイツ
まではいかないまでも、せめてアメリカぐ
らい市に権限を渡してもいいんじゃないか
と感じています。

環境の問題、特に水の問題はえらい騒ぎです。そして、地域間格差、貧富の差、腐敗など、すべて日本でも起こったことばかりで。しかし、日本はありとあらゆる政策で、こうした問題をクリアしてきた。中国がいま抱えている問題のはほとんどを日本は解決してきた。日本から学ぶことはいっぱいあるんじゃないかというのが私達の言い分なんです。このことを共益とを考えるんだつたら、日本は実践的な先駆者としてやってきたんだから、私たちと一緒に進めていくのが、EIA

と会ったほうがいい、双方にメリットがあることをこちらも出し、相手も出すということが大事なのであって、日本は実践的なアジアの先駆者であるということを胸を張って堂々と言っていくべきだと思っています。

すとか、ドイツみたいにほとんど別の国みたいに権限を渡すっていうぐらいまでいたほうがいいのではないかと思います。なげなら、江戸300年間それでやつて来ているわけですから。そのようにと思っていましたが、今、そういう意識を明瞭に持つてある中央官僚、政治家がいるだろうかといつたら、どうでしようか。私は、県もなくして、市がもっと力を持つて、というような具合にいかないと、事は進まないだろうなと究極的には思っています。ただ、そうなると県会議員は仕事がなくなるが、それを認めるだろうか。なかなか認めないと、思いますね。国会議員の数も減らせつていうことで、かなり減できましたけれども

国連の安保理を動かしていただいたといふことに対する、毅然とした態度で
うことで、見事な差配だったと思うんで
すが、しかし国の防衛としてはまだ出来
上がっていないのではないのでしょうか。

【麻生】 基本的に決議文が全会一致で採
択されたというは、北朝鮮に対して国
際社会の断固たるメッセージとして、この
決議文にしたがつてもらいますよという
ことです。しかし、お愚付きをもらつたと
いうだけのことだ、これは單なる手段。こ
れを実効あらしめるためには、北朝鮮が
これからどう対応していくのか見極める
必要があります。少なくとも決議文が
採択された45分後には決議に従わない



花束・記念品贈呈



倉立20周年記念式典

1



の会長を仰せつかっています石原でござります。本当に忙しい中、このようにたくさんの方においでいただきありがとうございます。そしてまた、麻生太郎外務大臣におかれましては、大変すばらしいご講演をしていただきまして、大変ありがとうございました。4月28日に沖縄で最初のシンポジウムを行いましたけれども、そこで日本の方々をテーマにいろいろ講演会がありました。稲嶺恵沖縄県知事とかあるいは

山先生においでいただき講演をしていただきました。シンポジウムでは、小田村四郎元拓殖大の総長、それからバネラーとして、黄文雄さん、それから呉善花さん、台湾と韓国の方ですね。コーディネーターに遠藤浩一さんにお願いしましたが、その中で今日の麻生外務大臣の話と同じ内容の話をされいました。日本は、ものすごい力をもつたすばらしい国なんだ。固有の歴史、文化を持ち、GDPでは世界第2位、世界に冠たる科学技術を持っている。そういうものにもっと自信と誇りを持つて、外国人接するときには「言うべき」とは言うんだ、もっと主張すべきなんだというふうでした。特に黄先生は、日本が抱えている近隣諸国との問題、たとえば靖国問題とか、あるいは尖閣諸島問題とか、教科書問題とかいろいろあるけれども、そういったものを解決するためには、日本は強くあらねばな

う強さというのは、もちろん軍事力のことではなくて、先程、麻生大臣からもお話をありましたけれども、外交とか政治とか文化の力ですね。そういうもののトータルの力を指しているのだと思います。もちろん経済の力も大きいでしょう。お話をうかがって、本当に日本のことをよく研究されているという感じがしたわけです。奥養花さんは韓国出身の学者で博士で学生に教えているわけですけれども、日本で本の伝統文化についての講座を開くと、ものすごくたくさんの学生が集まってくるとおっしゃっていました。最初200人位だと思っていたら、500人近い学生が集まつたのでクラスを2つに分けたそうです。日本の歴史文化について、やはり教わっていないという感想を持っておいででしたが、学生は目を輝かして私の講義を聞きにくるとおっしゃっていました。私たち日本人が、外國に対して自信と確信を持つて日本のこ

伝統に対する知識も重要なんだろうと思
います。ですが、今の学校教育できちんと
教えられているのか、というとおそらくそ
うではないんだろうと思います。この辺が
教育上の大きな問題点だらうと思います。
沖縄に参りまして、沖縄というのは日
本が現在抱えております外交とか、教育
とか、あるいは安全保障の問題とか、領土
領域の問題とか、そういうた極めて大きな
問題が集約されているような感じがいた
しました。そういうた点でも、非常に勉強
になつたなあと感じております。その後、
摩文仁の戦没者墓園に、沖縄の護国神社
の宮司さんにおいてて、みんなでお
参りしましたけれども、参加の皆様方そ
れぞれが大変良かったという気持ちでいっ
ぱいでした。

今日は麻生外務大臣のお話をうかがい
まして、まさに私たちが沖縄を感じまし
たことそのものを麻生先生がお話されて、

九州経済フォーラム会長 石原進（九州旅客鉄道（株）代表取締役社長）

僭越ではございますが、ご指名ですので一言謝辞を述べさせていただきます。麻生太郎外務大臣、本日は大変ありがとうございます。私は、麻生大臣と同じ筑豊の出身でございます。麻生大臣は飯塚、私は直方と川上川下の関係ですが、麻生さんは子供のころから雲の上の存在の方でした。日本の近代化が始まったのは官営八幡製鉄で、大きな投資は官営八幡製鉄に、筑豊は民間の三井、住友、三菱が投資しましたが、地元からは麻生さんや貝島さんなどが生まれました。日本の財閥は、いわば筑豊から生まれたわけでございます。しかも、麻生大臣は戦後処理をなさいました吉田茂首相のお孫さんにも当たるまさにサラブレット。お父さんも30歳の時に九州電力の会長を務められており、日本の近代化とともに歩んでこられたわけです。しかし、エネルギー革命でどん底の苦境も経験されております。しかし、そうした逆境を克服して今日あるわけですが、そこに麻生大臣の力強さ、したたかさが感じられます。一方で、先ほどのお話をでもわかるように、一般大衆のよく普通の生き様、暮らしぶりに大変关心をもついらっしゃいます。皆さんも御承知のように無類の漫画好きでお部屋には漫画が山積みされており、日本のエリート、世界のエリートであるという立場にありながら、一般大衆の底辺もまた理解されていらっしゃる。まさに、次の時代の宰相にふさわしい方だと思いますが、みなさんがいかがでしようか。日本青年会議所の会頭に九州から初めて就任されたときも、当時は人事権は東京が持っております、東京から見れば九州はただの島に過ぎない、したがつて誰も麻生大臣が会頭になれるとは思えなかつたわけですが、麻生大臣は強じんな精神力と体力、それから笑われたときのなんとも可愛らしい笑顔で、見事に就任された。最近は、女性の支持者も増えてきているそうです。是非、みなさんのご支援をいたたいて、国民のために世界平和のために、日本が世界と手を取りあって、信頼関係の中で新しい世界を切り開いていくよう、活躍してください。ただくためにも是非、総理になつていただき、よう祈念いたしまして、謝辞に代えさせていただきます。ありがとうございました。

謝辭

僭越ではございますが、ご指名ですでのご言謝辞を述べさせていただきます。麻生太郎外務大臣、本日は大変ありがとうございます。麻生大臣は飯塚、私は直方と川上川下の関係ですが、麻生さんは子供のころから雲の上の存在の方でした。日本の近代化が始まったのは官営八幡製鉄と筑豊で、大きな投資は官営八幡製鉄に、筑豊では民間の三井、住友、三菱が投資しましたが、地元からは麻生さんや貝島さんなどが生まれました。日本は財閥はいわば筑豊から生まれたわけでございます。しかも、麻生大臣は戦後処理をなさいました吉田茂首相のお孫さんに当たるまさにサラブレット。お父さんも30歳の時に九州電力の会長を務められており、日本の近代化とともに夢んでられたわけです。しかし、エネルギー革命でどん底の苦境も経験されております。しかし、そうした逆境を克服して今日あるわけですが、そこに麻生大臣の力強さ、したたかさが感じられます。一方で、先ほどのお話でもわかるかがつて、本当に日本のことをよく研究されているという感じがしたわけだと思います。もちろん経済の力も大きいでしょう。お話をうきながらおっしゃっていました。(笑) いふ強さというのは、もちろん軍事力のことではなくて、先程、麻生大臣からもお話をありましたけれども、外交とか政治とか文化の力ですね。そういうもののトータルの力を指しているのだと思います。もちろん経済の力も大きいでしょう。お話をうきながらおっしゃっていました。最初200人位だと思っていたら、500人近い学生が集まつたのでクラスを2つに分けたそうです。日本の歴史文化について、やはり教わっていないという感想を持っておいででしたが、学生は目を輝かして私の講義を聞きにくるとおっしゃっていました。私たち日本人が、外國に対して自信と確信を持つて日本のこ

倩越ではございますが、ご指名ですでのご言謝辞を述べさせていただきます。麻生太郎外務大臣、本日は大変ありがとうございます。麻生大臣は飯塚、私は直方と川上川下の関係ですが、麻生さんは子供のころから雲の上の存在の方でした。日本の近代化が始まったのは官営八幡製鉄と筑豊で、大きな投資は官営八幡製鉄に、筑豊では民間の三井、住友、三菱が投資しましたが、地元からは麻生さんや貝島さんなどが生まれました。日本は財閥はいわば筑豊から生まれたわけでございます。しかも、麻生大臣は戦後処理をなさいました吉田茂首相のお孫さんに当たるまさにサラブレット。お父さんも30歳の時に九州電力の会長を務められており、日本の近代化とともに夢んでられたわけです。しかし、エネルギー革命でどん底の苦境も経験されております。しかし、そうした逆境を克服して今日あるわけですが、そこに麻生大臣の力強さ、したたかさが感じられます。一方で、先ほどのお話でもわかるかがつて、本当に日本のことをよく研究されているという感じがしたわけだと思います。もちろん経済の力も大きいでしょう。お話をうきながらおっしゃっていました。(笑) いふ強さというのは、もちろん軍事力のことではなくて、先程、麻生大臣からもお話をありましたけれども、外交とか政治とか文化の力ですね。そういうもののトータルの力を指しているのだと思います。もちろん経済の力も大きいでしょう。お話をうきながらおっしゃっていました。最初200人位だと思っていたら、500人近い学生が集まつたのでクラスを2つに分けたそうです。日本の歴史文化について、やはり教わっていないという感想を持っておいででしたが、学生は目を輝かして私の講義を聞きにくるとおっしゃっていました。私たち日本人が、外國に対して自信と確信を持つて日本のこ

ようと一般大衆のよく普通の生き様、暮らしぶりに大変关心をもつていらっしゃいます。皆さんも御承知のように無類の漫画好きでお部屋には漫画が山積みされており、日本のエリート、世界のエリートであるという立場にふさわしい方だと思いますが、みなさんがいかがでしょうか。日本青年会議所の会頭に九州から初めて就任せられたときも、当時は人事権は東京が持っております、東京から見れば九州はただの島に過ぎない、したがつて誰も麻生大臣が会頭になれるとは思えなかつたわけですが、麻生大臣は強じんな精神力と体力、それから笑われたときのなんとも可愛らしい笑顔で、見事に就任せられた。

最近は、女性の支持者も増えてきているそうです。是非、みんなの支援をいただきたい世界と手を取りあって、信頼関係の中で新しい世界を切り開いていくよう、活躍していって、国民のために世界平和のために、日本が世界と手を取りあって、信頼関係の中で新しい世界を切り開いていくよう、活躍していって、ただくためにも是非、總理になつていただきよう祈念いたしまして、謝辞に代えさせていただきます。ありがとうございました。

非常に気持ちがスケーフといたしました。

今うれしい気持ちでござります。

されば、日本はもつともといふ國になつてゐるのではないかという気がしたわけでござります。

麻生外務大臣が日本の最高指導者になら

りますので、がんばっていただきたいと思

います。麻生大臣の健闘をお祈りしてお

ります。これから九州経済フォーラムの記念

式典に入ります。最初に麻生渡福岡県知

事にお話をいただいて、その後で表彰式、それ

から記念懇親会ということになるわけでござ

りますが、是非、最後までいらっしゃってご親交

を深めていただければと思います。九州経

済フォーラムは、九州についておりますが、

これは福岡だけではございません。残念な

がら他の県の方の参加は少ないですが、

できる限り増やしていく所存です。各

県で、福岡から出でて懇親会を行うと

いうことをやつておりますし、この前沖縄で

やりましたけれども、今度は長崎でも行い

ます。これで九州を一巡したことになります。

私も、これからも力を合わせて、九

州の発展のためにがんばっていきたいと思

っていますので、引き続き支援をお願い申

し上げまして、私の開会のご挨拶とさせて

いただきます。

本日は誠にありがとうございました。

来賓挨拶

九州経済産業局長 川口 修氏



九州経済産業局の川口でございます。本日は、九州経済フォーラム創立20周年ということで、誠におめでとうございます。

麻生大臣をお迎えし、かくも盛大に記念式典を行えますのも石原会長、それから2代目の故大迫忍会長、初代の長谷川裕会長はじめ関係者の並々ならぬご努力の結果だと思います。深く敬意を表する次第でございます。

さて、20年前の九州経済が日本全体の中でどれくらいのウエートを占めていたのかなと先程見てみましたが、鉱工業生産では全国の5・8%のシェアを占めておりました。今現在は、6・7%でございます。全国シェアを1%伸すということは実は大変

なことです。この勢いがますます加速している感がございます。一般、新経済成長戦略というのをまとめたわけです。けれども、そこにおきましてはやはりインベーションを中心とした国際競争力の強化と、地域資源を活用した地域の活性化ということで、技術と人材力の2つの要素が最重要であると再認識しているわけだと思います。その成長戦略の中では、今後10年の経済成長率を、全国では実質ペースで2・2%に設定していますが、私ども九州経済産業局がまとめました九州新経済成長戦略では、実質2・5%と全国ペースより高い数値を目標として掲げています。全国より高い成長を示していくところが肝でございます。それだけの可能性が九州にはあると確信しているわけだと思います。そのためには、自動車、半導体などをリーディング産業と位置付け、リーディングインダストリーの中で地場産業との結節力を高めていくというのがこれまでの重大な課題でございました。

同時に環境リサイクル、バイオ、新エネルギーといった種々の新産業を育成していくことも重要な課題でございます。産官学の

本日、麻生太郎外務大臣にはお忙しい中おいでいただき、またお話をいただきまして、本当にありがとうございます。

北朝鮮が7本もミサイルを発射しました。その後の日本の外交活動は、おそらく外交というのは状況適応型で、外でいろいろな変化が起きると、それに対して日本としても非常に大きな変化が起きる所でございました。今回ばかりは断固として行動を起こして、主張して、まさに日本が主導して状況を変えたといえると思います。これは、日本の外交において非常に大きな変化であると思われます。今日も、麻生外務大臣からお話をあります。私が20周年を迎えると、起きたことがあります。それから、九州経済フォーラムが20周年を迎えられまして、誠におめでとうございます。麻生外務大臣は、その最も重要な点をお持ちですから、今日は決起大会のように大いにがんばっていただきたいと思います。それから、九州経済フォーラムが20周年を迎えると、誠におめでとうございます。いろいろ経緯をお聞かせください。

本日は誠にありがとうございました。

来賓挨拶



来賓挨拶

福岡県知事 麻生 渡 氏

滅ぶわけでございます。ここにありますように、外交が生まれ出す、日本の将来のため

に外交を間違えない、根底のところを間違えないということが大事なわけでございます。

この点は、総理大臣になる最も重要な

点でございます。麻生外務大臣は、その最

も重要な点をお持ちですから、今日は決

起大会のように大いにがんばっていただき

たいと思います。それから、九州経済フォーラムが20周年を迎えると、誠におめでとうございます。いろいろ経緯をお聞かせください。

本日は誠にありがとうございました。

来賓挨拶

の基盤といいますと、例えば観光でありますとか、自動車産業の誘致でありますとか、共通の課題に取り組んでいますが、そのためには県境を越えた協力が必要である

力して出来ることを探り、実行していくこ

とにあります。この点で、この九州経

済フォーラムは、非常に重要な仕事をされ

てこられました。今後も是非、この目標に

向かって、大いに活動していただきたい。

そして九州の共通の課題と榮栄を図っていく

方との意思疎通をよくしようということ

で出発したとのことです。当初は、どちらかといえばタテの関係を重視した

ものでした。しかし20年経ちまして、最

近のこの経済フォーラムは、むしろヨコのつな

がりを重視しておられるようです。九州は

「つんだ」と福岡県の県境をはるかに越

えて、九州全体との意思疎通をしていくこ

と。そしてまた九州としての共通の基盤を

作つて、こういった地域の産業興しが引き

続き重要な役割を果すことを

あります。これは、この20年間の変化を端

的に物語っていると思います。九州に共通

の基盤といいますと、例えば観光でありますとか、自動車産業の誘致でありますとか、共通の課題に取り組んでいますが、そのためには県境を越えた協力が必要である

力して出来ることを探り、実行していくこと

にあります。この点で、この九州経

済フォーラムは、非常に重要な仕事をされ

てこられました。今後も是非、この目標に

向かって、大いに活動していただきたい。

そして九州の共通の課題と榮栄を図っていく

方との意思疎通をよくしようということ

で出発したとのことです。当初は、どちらかといえばタテの関係を重視した

ものでした。しかし20年経ちまして、最

近のこの経済フォーラムは、むしろヨコのつな

がりを重視しておられるようです。九州は

「つんだ」と福岡県の県境をはるかに越

えて、九州全体との意思疎通をしていくこ

と。そしてまた九州としての共通の基盤を

作つて、こういった地域の産業興しが引き

続き重要な役割を果すことを

あります。これは、この20年間の変化を端

的に物語っていると思います。九州に共通

の基盤といいますと、例えば観光でありますとか、自動車産業の誘致でありますとか、共通の課題に取り組んでいますが、そのためには県境を越えた協力が必要である

力して出来ることを探り、実行していくこと

にあります。この点で、この九州経

済フォーラムは、非常に重要な仕事をされ

てこられました。今後も是非、この目標に

向かって、大いに活動していただきたい。

そして九州の共通の課題と榮栄を図っていく

方との意思疎通をよくしようということ

で出発したとのことです。当初は、どちらかといえばタテの関係を重視した

ものでした。しかし20年経ちまして、最

近のこの経済フォーラムは、むしろヨコのつな

がりを重視しておられるようです。九州は

「つんだ」と福岡県の県境をはるかに越

えて、九州全体との意思疎通をしていくこ

と。そしてまた九州としての共通の基盤を

作つて、こういった地域の産業興しが引き

続き重要な役割を果すことを

あります。これは、この20年間の変化を端

的に物語っていると思います。九州に共通

の基盤といいますと、例えば観光でありますとか、自動車産業の誘致でありますとか、共通の課題に取り組んでいますが、そのためには県境を越えた協力が必要である

力して出来ることを探り、実行していくこと

にあります。この点で、この九州経

済フォーラムは、非常に重要な仕事をされ

てこられました。今後も是非、この目標に

向かって、大いに活動していただきたい。

そして九州の共通の課題と榮栄を図っていく

方との意思疎通をよくしようということ

で出発したとのことです。当初は、どちらかといえばタテの関係を重視した

ものでした。しかし20年経ちまして、最

近のこの経済フォーラムは、むしろヨコのつな

がりを重視しておられるようです。九州は

「つんだ」と福岡県の県境をはるかに越

えて、九州全体との意思疎通をしていくこ

と。そしてまた九州としての共通の基盤を

作つて、こういった地域の産業興しが引き

続き重要な役割を果すことを

あります。これは、この20年間の変化を端

的に物語っていると思います。九州に共通

の基盤といいますと、例えば観光でありますとか、自動車産業の誘致でありますとか、共通の課題に取り組んでいますが、そのためには県境を越えた協力が必要である

力して出来ることを探り、実行していくこと

にあります。この点で、この九州経

済フォーラムは、非常に重要な仕事をされ

てこられました。今後も是非、この目標に

表彰者一覧

氏名	機関・団体・企業名(当時)	役職	対象事業
長谷川 裕一	株式会社 はせがわ	代表取締役社長	九州経済フォーラム 初代会長
井上 良弘	井上喜株式会社	顧問	5周年記念事業 実行委員会 「九州未来会議2020 ~そのとき我々は~」
青柳 泰秀	アオヤギ株式会社	会長	10周年記念事業 実行委員会 「九州未来会議2020 ~日本が危ない・九州が危ない~」
石原 進	九州旅客鉄道株式会社	代表取締役社長	15周年記念事業 実行委員会 「九州の再生 ~福東の安定と新しい世界秩序~」
矢田 勝文	北九州市立大学	学長	九州経済フォーラム 運営功労者
入江 正武	福岡工業大学	非常勤講師	九州経済フォーラム 運営功労者
石村 健悟	株式会社 石村萬盛堂	代表取締役社長	九州経済フォーラム 運営功労者
大村 幸生	九州産業大学	元 学長	九州経済フォーラム 運営功労者
保 太生	城山観光(株)	元 代表取締役社長	九州経済フォーラム 運営功労者



九州経済フォーラム理事 遠藤恭介(西部ガスエネルギー(株)代表取締役社長)

閉会挨拶

ただいま受賞されました9名の方々は、九州経済フォーラム設立当初から、二貫してこのフォーラムを支えていただいた、いわば功労者でございます。改めまして心より感謝申し上げますとともに、お慶びを申し上げたいと思います。九州経済フォーラムは、九州は一つという基本理念のもと行動する会議体として、ここ数年飛躍的に成長、進化を遂げてきました。この20周年を契機としていよいよ飛び立つ、飛翔する時期に来ていると私は思います。志半ばで急逝された大迫忍前会長のもと、各县の知事さん、市長さん、財界のリーダーが一体となって、これからも大いに前進していくことを願っています。夢とロマンを持ち、高い志、溢れる情熱、そして強い

創立20周年記念品



手づくり漆器 「明日香」

「明日香」は漆器づくりの命であります下地研磨を入れて、うるしで仕上げた本格漆器。今回特別に世界遺産・京都西本願寺の御影堂と同じ純金箔を左右側面に使用。用途は「お盆」や「花台」として、

*本品は、九州経済フォーラム初代会長 長谷川裕一氏の(孫)はせがわの開運会社、(孫)はせがわ美術工芸にて特別に製作を依頼。



ただいま身に余る功労賞をいただきまして、心から厚く御礼申し上げます。
受賞者の皆様を代表いたしまして、日本をリードする方々、官僚の方々、そして大学の頭脳集団といった地元の方々と、九州出身の中央官僚の方々、そして経済界や

日本をリードする方々と連携を深め、県境を越えて将来のため手を取り合ってい

信頼の中から九州の未来を作っていくことを考えて、九州経済フォーラムはスタートしました。ま

お互いを理解し合って、お話を理解し合って、

信頼の中から九州の未来を作っていくことを考えて、九州絏済フォーラムはスタートしました。ま

お互いを理解し合って、お話を理解し合って、

創立20周年記念交流会

開会挨拶

九州経済フォーラム副会長 小椋 敏勝

(NTT西日本九州事業本部長兼福岡支店長)



ただいまご紹介にあずかりました九州経済フォーラム副会長の小椋でございます。実は私、九州に着任しましたのは6月22日でございまして、まだ1ヵ月ちょっとなんですが、石原会長から直々に副会長になるようにとのお話をありまして、本日の理事会で副会長に承認されました。その初仕事がこのご挨拶ということです。

た。その初仕事がこのご挨拶ということです。その初仕事がこのご挨拶ということです。

私は、こちらに来る前に、東京では政治の方のお仕事をしておりました関係で、先程も麻生太郎外務大臣から「お前、来て1ヵ月ちょっとのうちにもう副会長か」とお声をかけていただいたくらいで、極めて惜越ではございますが、お役目ということでござります。

九州経済フォーラム20周年ということですが、昭和61年の創立時から、5年ごとに記念事業を行つてきました。先程資料を見ますと、それぞれテーマが設定されておりまして、最初の設立時のテーマが「創ろう九州新時代　聞こうアジアの新世紀全てを九州島の未来のために」。5周年の時が「九州未来会議 2020年5周年我々は」。10周年、平成7年の時は「九州未来会議 2020年 日本が危ない・九州が危ない」というテーマで議論されています。15周年、平成12年の時

皆さん、こんばんは。宮崎商工会議所会頭の小林でございます。大変たくさんのお歴々がいらっしゃる中で、挨拶をといふことで大変恐縮しておりますが、ご指名ということなので僭越ながら一言、お祝いの言葉を述べさせていただきます。

本日は、九州経済フォーラム20周年という記念すべき日に、麻生太郎外務大臣、麻生渡福岡県知事、川口修九州経済産業局長はじめ、たくさんのご来賓の皆様にご出席いただき、盛会に進みました。

交流会にもたくさんの方々がご出席でございます。お話をありましたように、九州・沖縄が、心を一つにして、さらに経済を発展させるという意の元に創立された九州経済フォーラムが20周年の節目を迎えたが、今後はますます時代の流れとしてアジアを見据えたり、日本全体を見つめたりして、この九州経済フォーラムが更に発展しますように祈念を申し上げ、併せて今日のこの大会にあたり、歴代の会長はじめ、ご参加の全ての経営者の皆さんのご尽力により今大会が成功に終わりましたことにお祝いを



宮崎県商工会議所連合会会頭 小林 貞雄 氏

来賓挨拶

乾杯

福岡商工会議所会頭 田尻 英幹 氏



申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。今後、ますますの九州経済フォーラムのご発展を心から祈念いたしまして謝辞とさせていただきたいと思います。本当にありがとうございます。

只今、ご紹介頂きました田尻でございます。九州経済フォーラム様、創立20周年誠におめでとうございます。

本年度開催の記念事業におかれましては、九州各県・沖縄の地域連携の強化、ふれあいによる共同体意識の醸成、我が国を取り巻く諸問題への論議、人材の交流等を趣旨とされています。さる4月には記念事業の一つとして、沖縄県において沖縄経済界との交流事業を開催され、交流会のほかに韓国、中国、台湾の学識者を招き、シンポジウムも行わされました。約200名以上の方々が参加され、非常に盛会であったとお聞きしております。本日も福岡での記念式典には多くの皆様がご参加されておりますが、九州経済フォーラムが、今後九州経済界の大きなエネルギーとなる期待が膨らんでまいります。

九州経済フォーラムの今後の更なるご発展と、本日ご参加の皆様のご多幸を祈念し、乾杯致します。乾杯!!

は「九州の再生・極東の安定と新しい世界秩序」でした。それぞ掲げられたテーマを追っていくだけで、その時の様子がよくわかるように思います。ちなみに昭和61年はサッカーワールドカップの時でした、先ほどの功労者の表彰を見ていて思い出しましたが、当時はメキシコにおりまして、したが、同年の大会はメキシコ開催だったのですが、同年の大会はメキシコ開催だったので、当時はメキシコにおりまして、和61年はサッカーワールドカップの時でした。それから、毎年、W杯の熱気に負けないくらい九州の街も熱気に包まれていればと思います。

本日は、この後、いろいろなイベントがあります。皆様それを堪能していただきたいと思います。ありがとうございます。また、九州経済フォーラムが、九州全体の活力の源になり、発展の源になることをお誓い申上げまして、ご挨拶に代えさせていただきました。

の調子でますます発展して、今度W杯と5周年があつかるのは20年後で実にフォーラム結成40周年の時なんですが、その時はどこでW杯をやっているのか知りませんが、W杯の熱気に負けないくらい九州の街も熱気に包まれていればと思います。

九州経済フォーラムが、九州全体の活力の源になり、発展の源になることをお誓い申上げまして、ご挨拶に代えさせていただきました。

平成18年7月31日(月)

於 西鉄グランドホテル

創立20周年記念交流会

九州の祭
アートバル

オリンピック招致
応援チアリーディング



高千穂の夜神楽



豊後高田の草地踊り



琉球祭り太鼓



山鹿灯篭祭り



長崎県



長崎



九州経済フォーラム 相談役 入江 正武（福岡工業大学 非常勤講師）

閉会挨拶

どうも、皆さんこんばんは。先程は表彰までしていただき、大変ありがとうございました。表彰状をもらつたから閉会の挨拶をいふことなので、一言ご挨拶申し上げます。

20年前、九州経済フォーラムを開いたときのことをお話ししますと、当時福岡の経済界は、私は熊本なので関係なかつたのですが、七社会がすごく力を持っていて、地元の中小企業はあまり目立つていなかつた。そこで、30・40代のオーナー、また

は後継ぎの人を集めて、将来について勉強しようということになり、青年会議所を辞めて暇そうに遊んでいた長谷川さんらと始めました。ただ、人を集めるためにやはり大企業の力がほしい、しかも大企業の方もいわゆるアテ職ではなくて個人で入ってほしいと要望しまして、いろいろな方にお世話になりました。現在の会長の石原会長もその当時は社長ではございませんでしたが、改めて思ひますのは、やはり大企業の人脈はすごいですね。九州電力の橋田常務とか、下下の高江洲さんなどには、大変な貢献をしていただきまして、今日まで盛り上げていただいている。若い方もここにはいらっしゃいますので、一言お話をさせていただくんんですけど、民主主義は、多数決だと思う人は手を上げて下さい。

Kyusyu economic forum Memories of 20 years

20年の想い出

九州経済フォーラム

思い出のエピソード

.....P75

九州経済フォーラム歴史年表

.....P76~P84

交流懇談会開催記録

.....P85

思い違いがあるといけないんですが、民主主義というのは決めるときは多数決なんですが、最初というのはやはり一人なんですよ。通常一人が何かしようというと、2人位賛成して、3人位があいつが言うなら反対しますね。ですから、その場で採決すると負けます。といって、黙つてやると独断になる。だけど民主主義は、中立の人を時間をかけて納得させるところに良さがある。ところが、最初の一人になるエネルギーが、最近の若者には少なくなっています。ここに集まっているらしくるのは、中小企業の社長さんだからそういうことはないでしようけど、何かやると決めたら、そういうエネルギーがほしいというのが九州経済フォーラムの目的でもあります。また、九州の出身で将来偉くなかった時に地元の役に立つてくれそうな中央の役人もメンバーに選びました。役所の方もそうですが、30~40代の経営者では、この人達とはなかなか会う機会がないようです。ですが、九州経済フォーラムの早朝会に来るといつも会えるぞということで、いろんな意味でそれが役に立った人もたくさんいるはずです。そういう会合を意識したんですね。

さて今日、ここに集まっている方の満足度はどうかということは相当大事なことでして、九州経済フォーラム20周年をさかい

に、もう一度、若い人達が集まってきた、今日の会合は楽しかった、ためになつたよといふ会をこれからも創つていただきたいと思いまます。国の将来のこともいろいろありますけれども、それは九州各県の財界の方がたくさんいらっしゃいますから。実は私は、来られたのを契機に辞めようかと思っていますが、もともとは福工大の電子工学科の先生です。といつても誰も知らないと思いますが、北九州市に三井ハイテックという会社がございまして、私が入ったころは1,130人位の小さな金型屋でしたけど、その三井ハイテックの1番から3番までの特許を発明したのは、実は私です。当時は、産学連携といいますと、何か金を稼ぎに来ているという目で見られたものです。大学の先生は、役に立つことは勉強しないといわれたのですが、今ではみんな産学連携といって、私の後を追つかけていますので、私は鼻高々でござります。そういう意味では、長谷川さん、それから産業界の皆さんにこのような場に引っ張り出していただき、大学と家と会社と行く中で、自分自身の人生を広げていただけて今日を迎えることが出来ました。國らずも挨拶が回ってきましたので、二回ご挨拶申し上げました。本日は、ありがとうございました。

博多祝い歌

九州経済フォーラム 理事 水嶋 修三

(株)JTB九州 代表取締役社長

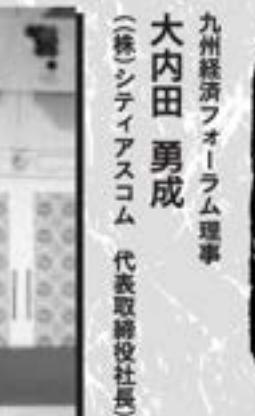
九州経済フォーラム 理事 橋村 俊久

(株)松尾建設(株) 顧問

九州経済フォーラム 理事 大内田 勇成

(株)シティアスコム 代表取締役社長

博多手一本



九州経済フォーラム 理事 水嶋 修三

(株)JTB九州 代表取締役社長

九州経済フォーラム 理事 橋村 俊久

(株)松尾建設(株) 顧問

九州経済フォーラム 理事 大内田 勇成

(株)シティアスコム 代表取締役社長



九州経済フォーラム 創立20周年記念交流会

九州経済フォーラム 理事 右田 喜章

(株)ホークスタウン取締役副社長

九州経済フォーラム 理事 橋村 俊久

(株)松尾建設(株) 顧問

九州経済フォーラム 理事 大内田 勇成

(株)シティアスコム 代表取締役社長

思い出のエピソード

株式会社 西日本シティ銀行 頭取 久保田 勇夫 氏

【定例会 第一回・第十五回講師】

福岡工業大学 非常勤講師 入江

正武氏

九月五日から二十九周年おめでとうございます。第一回及び第十五回の講演をしたというところで寄稿の御依頼を受け、光栄に存じます。振り返ってみると、私はこの時期、東京において一つのことを熱心にやつ

日本の教育歴史の原字を継めるために二十年間で四三〇兆円の公共事業を実施する」と米国に約束せざるをえないこととなりました。今、振りかえってみても、敵味方入り乱れての激しい仁義無き戦いでありました。

じたように思います。一つは、わが国の経済力が世界有数のものとなり、金融面では世界第一位の大國となるのではないかと言われていたこの時代に、国際金融交渉の第一線にいたという」とあります。当時は、こうゆう

第三は、一九九五年、国際金融局次長の時代、日本側の責任者として「日米金融協議」をまとめたことでした。ここでは、相応の成果を挙げたと思っております。

交渉のトップである大蔵省の財務官や局長クラスの幹部といえども海外留学の経験のある者は少なく、英語力も十分なものばかりとは言えないという状況にありました。その中で、実質的な負担は、われわれのような、海外に留学し、語学力もそれなりに持ちあわせ、歐米人に対しても格別のコンプレックスを持たない当時の課長クラスに重くのしかかりました。私はこの時代、この関係では三つの大きな仕事にかかわりました。

第一は、八六年五月の東京サミットの担当課長(国際機構課長)をつとめたことです。このサミットでは、前年の円の切上げに合意したブラザ合意を受け、日、米、西独、仏、英、伊、加からなるG-7を創設し、経済指標を用いた経済政策協調を行なうことを合意しました。第二は、九〇年五月に合意された「日米構造協議」の大蔵省のとりまとめの課長(大臣官房調査企画課長)をつとめました。この協議では、

の二つに聞いてお話をしたことになります。しかも、いずれも、交渉終結後、一ヵ月又は二ヵ月後という早い時期にお話の機会をいただいたことになります。九州経済フォーラムの関係者の皆様の諸問題に対する真剣な取り組みがわかるような気がします。もう一つは、この時期、地方の活性化、なかなか福岡のそれの必要性を痛感し、色々な方面でそのお手伝いをすることを始めたということになります。かくして、これらの調査は、当時の私の生きざまを象徴するような事件であつたように思うのです。

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses. He is wearing a light-colored shirt and a patterned tie. He is looking slightly to his left. The background is blurred, suggesting an indoor setting.



九州経済フォーラム歴史年表

N.Y. JUDICIAL DECISIONS

昭和61年6月	第1回定例会「最近の円相場と日本経済」大蔵省国際機構課長 久保田 勇夫氏【福岡 博多城山ホテル】
昭和63年3月	第8回定例会「世界経済の動向と日本」通商産業省 大臣官房総務課長 麻生 渡氏
平成元年5月	九州電力(株)の川合辰雄会長が九州経済フォーラム顧問に就任
平成元年6月	「5周年記念事業海外視察」「イタリア・オーストリア・西ドイツ」共催／博多21の会
平成元年7月	「5周年記念シンポジウム」「福岡 西日本銀行本店大ホール」共催／博多21の会
平成2年11月	創立5周年事業「九州未来会議2020そのとき我々は」 (1990年)「大分 九重観光ホテル」
	
産業構造と都市機能のメンバー	
	
地球環境と人間」分科会	
	
九州未来会議」参加メンバー	

昭和九年歲次木年表

平成2年6月	札宮文仁親王様、紀子様ご成婚
平成2年12月	日本人初の宇宙飛行士秋山豊真が宇宙へ
平成3年1月	海岸戦争勃発
平成3年5月	霧島普賢岳大噴火
平成3年11月	宮澤内閣発足
平成3年12月	ソビエト連邦解体
平成3年5月	第58代天皇即位
平成4年2月	千代の富士が引退
平成4年7月	アルベルトヴィルオリンピック開催
平成4年7月	オリンピック開催
平成3年12月	北海道「への会」との交流会 講師 大藏省船橋 晴雄氏
平成3年3月	九州ニュービジネス協議会「九州NBC・ニュービジネス・フォーラム92」共催
平成4年2月	12月定例会を開催
平成3年3月	北海道「への会」との交流会 講師 大藏省船橋 晴雄氏

Kyushu economic forum history

平成4年11月	「設立5周年記念フォーラム」共催／九州ニュービジネス協議会
平成5年2月	「デザインフォーラム9-3」共催／九州ニュービジネス協議会
平成5年5月	「10周年記念講演会」【福岡 ホテル日航福岡】共催／博多2-1の会
平成6年2月	「感性ビジネスフォーラム9-4」【福岡国際ホール】共催／九州ニュービジネス協議会
平成7年	阪神大震災義援金活動として、西日本新聞民生事業団を通じて26万円を被災地に送る
平成7年11月	創立10周年事業「九州未来会議2020日本が危ない・九州が危ない」 (1995年)【佐賀 和多屋別荘】
平成8年2月	中国雲南省を襲った震度M7級の地震見舞金を送る【博多2-1の会連名】
平成9年3月	「環境ビジネスフォーラム9-7」【福岡 福岡国際ホール】共催／九州ニュービジネス協議会
平成9年9月	マレーシア・シンガポールIT視察団の派遣(株)アジアビジネスセンターと共同開催)
平成10年2月	「新たなるチャレンジフォーラム9-8」【福岡 ホテルユートーカ博多】共催／九州ニュービジネス協議会
平成10年4月	鹿児島大口市が福岡県中経協内に事務所を開設
平成11年4月	熊本県七城町が福岡県中経協内に事務所を開設
平成11年7月	熊本県が天神アクロス福岡内に事務所を開設
平成11年10月	10月早朝会「女性副知事サミット」 福岡県 副知事 稲田慶子氏
平成12年3月	中国雲南省を襲った震度M7級の地震見舞金を送る【博多2-1の会連名】
平成12年7月	第1回 福岡・熊本交流懇談会(福岡産業振興協議会主催事業)【福岡 グランド・ハイアット・福岡】 (福岡産業振興協議会主催事業【熊本 天草国際ホテル】
平成12年11月	第2回 福岡・熊本交流懇談会「天草空港開港記念事業」 (福岡産業振興協議会主催事業【熊本 天草国際ホテル】
平成13年12月	第29回定例会「日本経済の成長力とユービジネス」通商産業省大臣官房総務審議官 北畠 隆生氏 実行委員長 石原道氏 分科会にて

第29回定例会「日本経済の成長力と『ヨーロッパ』」通常開業省 大臣官房総務省総務官

Kyushu economic forum history

平成13年6月

九州経済フォーラムの事務運営を(社)福岡県中小企業経営者協会へ委託

平成13年2月

えひめ丸事件
地下鉄日比谷線脱線事故
ジャバノ(じゅう)が
ユニバーサル・スタジオ

平成13年8月

第1回 福岡・大分交流懇談会(福岡産業振興協議会主催事業)【大分 日田市大山町文化センター】

平成13年、第5回福岡・地元連携を考える研究会の成果として、大分県大山町が福岡に拠点を設立したのをきっかけに福岡・大分交流懇談会が開催された。式典の後、三つの分科会に分かれて、地域産業自立への挑戦をテーマに活発に論議。三隈川河畔の職場にて交流を深めた。その後、福岡・大分交流懇談会は3回開催。

《8月17日(金)》

■第1部

講演会「日常から異日常へ」

(株)福岡ダイエーカークス

代表取締役社長 高塚 勝

城野・大分交流懇談会実行委員会

実行委員長 三吉 善八郎

福岡市長 山崎 広太郎(代議 小川経済振興局長)

■第2部(歓迎行事)

挾添/大山町議会議長 横原 本市

答札/社)福岡県中小企業経営者協会 会長 小早川 明徳

郷土芸能の披露/南部社中飛龍舞楽、鳥宿太鼓保存会

■第3部(交流フーラム)バネルディスクッション)

○第一分科会「新たな生活空間、都市と農山村の役割」

バネラ/西日本鉄道(株) 専務取締役 長尾 菲夫

(株)福岡銀行 常務取締役 濱田 一典

工房「KAWAZU」主宰 河津 正

おおやま生活領事館理事 安田 誠也

コーティネーター/三菱総研 社会公共システム部長 川村 雅人

主催者挾添/西日本電信電話(株) 代表取締役社長 上野 至太

■第4部(三隈川・屋形船上) 主催者挾添/西日本銀行 専務取締役 右田 喜章

西日本新聞社 代表取締役社長 多田 昭重

(株)トライウッド 専務取締役社長 上山 和豊

「梅の木工房」 代表 矢羽田 匡弘

○第三分科会「地域文化と教育の展開、美しく風格ある地域の創造」

バネラ/学校法人 中村学園 理事長 中村 雄一

(株)ふくや 代表取締役社長 川原 正幸

森と水のふるさとづくり協議会 副会長 巨山 邦生

日田市豆田町「鶴屋」旅館店主 石丸 邦夫

コーティネーター/(株)エム環境デザインシステム

打込み/万歳三唱 代表取締役社長 村田 義郎

乾杯/西日本銀行 専務取締役 右田 喜章

来賓挾添/西日本企画文化部長 安東 忠

大分県大山町長 三吉 善八郎

歓迎の挾添/西日本ガス(株) 常務取締役 速藤 英介

■第5部 (8月18日(土)) /バネリスト代表 石丸 邦夫

エクスカーション



平成13年12月
臨時総会を開催し、九州経済フォーラム2代目会長に
大迫 忍氏(ゼンリン(株))が就任

平成14年1月

1月早朝会 ゼンリン(株)最高顧問 大迫 忍氏「最近の動向について」【ホテル日航福岡】

平成14年10月

第2回 福岡・大分交流懇談会【大分 東洋ホテル】
開会・主催者挾添/九州経済フォーラム 会長 大迫 忍



平松 知史

■第1部 記念講演 「地方からの変革～地域力と人間力～」大分県知事 平松 守修

■第2部 トークディスカッション

テーマ「情報と広域連携」

バネラ/西日本電信電話(株) 代表取締役社長 上野 至太

(株)九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長 石原 達

最高顧問 大迫 忍

梅林建設(株) 代表取締役社長 梅林 秀伍

(株)由布院玉の湯 代表取締役社長 清口 真平

コードイネーター/大分合同新聞社 取締役編集局長 田辺 正勝

■第3部 交流懇談会
歓迎挨拶 /大分経済同友会 代表幹事 吉田 四郎

乾杯 /西日本電信電話(株) 代表取締役社長 上野 至太

閉会挨拶 /福岡産業振興協議会 会長 小早川 明徳

○参加者: 30名

「カルロス・ゴーン氏を迎えての交流会」

○日時 平成15年7月31日(木)19:00

○場所 リーガロイヤル小倉

○主催 北九州商工会議所、福岡交流懇談会、九州経済フォーラム、大分商工会議所、福岡産業振興協議会、九州経済フォーラム

○参加者: 250名

平成15年7月

第3回 福岡・大分交流懇談会【北九州 リーガロイヤルホテル】

【北九州】大分 主要経済人との交流懇談会

○日時 平成15年7月31日(木)17:30

○場所 リーガロイヤル小倉

○主催 北九州商工会議所、福岡交流懇談会、九州経済フォーラム、大分商工会議所、福岡産業振興協議会、九州経済フォーラム

○参加者: 30名

平成15年7月

第1回 福岡・鹿児島交流懇談会【鹿児島 城山観光ホテル】

平成16年8月

テーマ「地域力を高め連携してアジアへ競争から共創で九州一体の発展を」

主催 福岡産業振興協議会、九州経済フォーラム、

福岡交流懇談会、鹿児島商工会議所、鹿児島経済同友会

プログラム

歓迎挨拶/九州経済フォーラム 会長 大迫 忍

福岡側57名、大分側53名

開会挨拶/鹿児島商工会議所 会頭 大西洋逸



平成18年4月

第1回 福岡・沖縄交流懇談会[沖縄ザ・ナハテラス]

平成18年1月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

証券取引法違反容疑で逮捕

トリノ冬季オリンピック開幕
「ワング」が開始。

平成18年2月

北海道常呂郡佐呂間町で
安倍内閣発足

平成18年3月

FIFAワールドカップ

平成18年4月

駐車違反の取締り

平成18年5月

王貞治監督率いる日本が優勝

平成18年6月

地波デジタル放送

平成18年7月

「ワング」が開始。

平成18年8月

FIFAワールドカップ

平成18年9月

ドライブ大会が開幕

平成18年10月

北海道常呂郡佐呂間町で
安曇災害が発生

平成18年11月

FIFAワールドカップ

平成18年12月

ドライブ大会が開幕

平成19年1月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年2月

東京原英夫選舉当選

平成19年3月

防衛庁が防衛省に移行

平成19年4月

不二家消費期限事件

平成19年5月

第17回宮崎県知事に

平成19年6月

東京原英夫選舉当選

平成19年7月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年8月

東京原英夫選舉当選

平成19年9月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年10月

東京原英夫選舉当選

平成19年11月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年12月

東京原英夫選舉当選

平成20年1月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年2月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年3月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年4月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年5月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年6月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年7月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年8月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年9月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年10月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年11月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成20年12月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年1月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年2月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年3月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年4月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年5月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年6月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年7月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年8月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年9月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年10月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年11月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成21年12月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年1月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年2月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年3月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年4月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年5月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年6月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年7月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年8月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年9月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年10月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年11月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成22年12月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年3月

歴代会長および歴代記念事業関係者による九州経済フォーラム
「20年の振り返りと今後の課題」について座談会を開催

福岡と宮崎合同で開催した早朝会

平成19年1月

第2回 福岡・宮崎交流懇談会[福岡 グランド・ハイアット・福岡]

■第1部 懇談会

開会挨拶／九州經濟フォーラム 会長 石原進氏

歓迎挨拶／長崎県知事 金子 延一郎氏

記念講演／(財)ながさき地域政策研究所 理事長 鹿田 安大氏

テーマ「観光の街・長崎の課題」

御礼の言葉／長崎商工会議所 会頭 横松 俊徳氏

■第2部 懇談会

開会挨拶／九州經濟フォーラム 副会長 小椋 敏樹氏

乾杯／長崎商工会議所 副会頭 上田 恵三氏

乾杯／九州經濟フォーラム 理事 渡田 一典氏

閉会挨拶／九州經濟フォーラム 副会長 橋田 純一氏

博多手一本／福岡商工会議所 副会頭 野田 武太郎氏

- 第1部 懇談会
 - 開会挨拶／九州經濟フォーラム 会長 石原進氏
 - 歓迎挨拶／長崎県知事 金子 延一郎氏
 - 記念講演／(財)ながさき地域政策研究所 理事長 鹿田 安大氏
 - テーマ「観光の街・長崎の課題」
 - 御礼の言葉／長崎商工会議所 会頭 横松 俊徳氏

- 第2部 懇談会
 - 開会挨拶／九州經濟フォーラム 副会長 小椋 敏樹氏
 - 乾杯／長崎商工会議所 副会頭 上田 恵三氏
 - 乾杯／九州經濟フォーラム 理事 渡田 一典氏
 - 閉会挨拶／九州經濟フォーラム 副会長 橋田 純一氏
 - 博多手一本／福岡商工会議所 副会頭 野田 武太郎氏

第1回 福岡・長崎交流懇談会[長崎 ルークプラザホテル]

当日は「正午より『長崎さるく博』のコースに沿って、長崎県美術館や長崎歴史博物館など、多くの施設を観光した。



琉球芸能「唄舞～い」

平成18年9月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成18年10月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成18年11月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成18年12月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年1月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年2月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年3月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年4月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年5月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年6月

堀江貴文社長と取締役3人
(ライブドア事件)

平成19年7月

交流懇談会開催記録



※:福岡産業振興協議会主催事業

九州経済フォーラム データベース

Kyusyu economic forum
Data base

九州経済フォーラム歴代会長

.....P87

九州経済フォーラム平成18年度 役員

.....P88

九州経済フォーラム歴代役員一覧

.....P89,P90

九州経済フォーラム定例会

.....P91,P92

九州経済フォーラム早朝会

.....P92～P101

九州経済フォーラム車座談議

.....P101,P102

九州経済フォーラム定期総会

.....P102

九州経済フォーラム歴代会長

初代会長 昭和61年6月～平成13年12月

大迫忍

二代目会長 平成13年12月～平成17年6月

石原進

三代目会長 平成17年8月1



九州経済フォーラム平成18年度 役員

平成18年度 定期総会時点

事務秘書	小早川 明徳	石原 進	九州旅客鉄道(株)
副会長	橋田 紘一	九州電力(株)	常務取締役
会長	井上 登	西日本電信電話(株)	九州事業本部長兼福岡支店長
副会長	岩尾 康一	(社)福岡県中小企業経営者協会	会長
理事	植木 とみ子	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州	代表取締役社長
理事	牛島 真澄	岩尾磁器工業(株)	代表取締役社長
理事	梅林 秀伍	福岡市	教育長
理事	榎本 重孝	マックスバリュ九州(株)	代表取締役副社長
理事	遠藤 敏介	梅林建設(株)	代表取締役社長
理事	甲斐 隆博	(株)九州リースサービス	代表取締役社長
理事	大内田 勇成	(株)ガスエネルギー(株)	代表取締役社長
理事	坂口 光一	(株)シティアスコム	代表取締役社長
理事	鈴木 茂	(株)肥後銀行	代表取締役社長
理事	末吉 紀雄	九州大学ユーザー・サイエンス機構	専務取締役
理事	五川 孝道	(株)福岡銀行	教授
理事	徳田 勇治	コカ・コーラウェストホールディングス(株)	取締役副頭取
理事	富井 史郎	北九州市	取締役副社長
理事	長尾 亞夫	トヨタ自動車九州(株)	助役
理事	仲上 健一	福岡日産自動車(株)	代表取締役、CEO
理事	中島 勝美	西日本鉄道(株)	取締役副社長
理事	立命館アジア太平洋大学	立命館アジア太平洋大学	取締役生産管理部長
理事	(株)日本航空インター・ナショナル	執行役員九州地区地区担当	代表取締役社長
理事	・福岡支店長	副社長	副社長
理事		代表取締役社長	执行役員九州地区地区担当

氏名
会社

理事	西村 醍道	取締役副社長
理事	橋村 優久	執行役員 福岡支店長
理事	二又 大榮	代表取締役社長
理事	丸山 芳範	取締役副社長
理事	右田 嘉翠	代表取締役社長
理事	水嶋 修三	代表取締役社長
理事	矢頭 美世子	学長
相談役	長谷川 格一	非常勤講師
相談役	入江 正武	代表取締役社長
監事	石村 優悟	代表取締役社長
監事	堤 敬志	常務取締役
監事	石井 敏	常務取締役
顧問	大黒 伊勢夫	九州支店長
顧問	川口 修	局長
顧問	小原 恒平	局長
顧問	三村 亨	局長
顧問	山下 朗裕	支局長
顧問	甲斐 晴教	支局長
参与	金城 生光	セントラル長
参与	菅 純一郎	所長
参与	永富 栄仁	所長
参与	田原 幸一	所長
参与	西野 智行	所長
参与	西山 曹朗	所長
参与	佐賀県 福岡事務所	所長
参与	長崎県福岡事務所	所長
所長	鹿児島県 福岡事務所	所長

九州経済フォーラム歴代役員一覧

※役職等は、退任当時ならびに平成18年7月時点を表記しています。

氏名	会社名	役員	就任
■代表世話人・会長			
長谷川 勉一	(株)はせがわ	代表取締役社長	
大迫 忍	(株)ゼンリン	最高顧問	
石原 進	九州旅客鉄道(株)	代表取締役社長	
■顧問			
川合 段雄	九州電力(株)	代表取締役会長	'86.1.100
■幹事長・副会長			
山村 優悟	(株)山村萬盛堂	代表取締役社長	
井上 良弘	井上喜(株)	代表取締役社長	
川原 健	(株)ふくや	代表取締役社長	
大久保 太郎	アンドードライ(株)	代表取締役社長	
小原 健史	(株)和多屋別荘	代表取締役社長	
古莊 和文	(株)シロヤバリガン	代表取締役社長	
宮崎 元基	西日本電信電話(株)	代表取締役社長	
橋田 基一	九州電力(株)	代表取締役社長	
葛江洲 文雄	西日本電信電話(株)	代表取締役社長	
小早川 明徳	(社)福岡県中小企業経営者協議会	会長	
■常任幹事			
大串 康一郎	九州ユービーグループ協議会	参与	
■幹事・理事			
入江 伸明	入江興産(株)	代表取締役社長	'94.1.99
中原 幹雄	(株)ゼンリン	代表取締役社長	'86.1.93
岩尾 麗一	岩尾磁器工業(株)	非常勤講師	'86.1.93
植木 とみ子	福岡市	企画部経営計画担当課長	'85.1.93
櫻本 重厚	(株)九州リースサービス	代表取締役社長	'85.1.91
遠藤 恵介	西鉄ガスエネルギー	代表取締役社長	'85.1.91
甲斐 隆博	(株)肥後銀行	専務取締役	
末吉 紀雄	カーラウエストホールディングス(株)	取締役顧問	
玉川 孝道	西日本新聞社	取締役顧問	
長尾 薫夫	西日本鉄道(株)	取締役顧問	
中島 慶美	雪海酒造(株)	取締役顧問	
右田 嘉章	(株)ホークスタウン	取締役顧問	
矢頭 美世子	(株)やすや	取締役顧問	
濱崎 繁洋	ヨーヨーコンダクタ九州(株)	取締役顧問	
馬見塚 謙	トヨタ自動車九州(株)	取締役顧問	
高橋 寿一郎	(株)高田工業所	取締役顧問	
大内田 勇成	(株)シティアスコム	取締役顧問	
菊地 克穂	全日本空輸(株)	取締役顧問	
笠場 成郎	(株)日本航空ジャパン	取締役顧問	
仲上 健一	立命館アジア太平洋大学	常務取締役	
鈴木 茂	北九州市	助役	
樋村 勲久	松尾建設(株)	顧問	
二又 大榮	久留米運送(株)	代表取締役社長	
水崎 修三	(株)JTB九州	代表取締役社長	

氏名	会社名	役員	就任
■幹事長・副会長			
川合 段雄	九州電力(株)	代表取締役会長	'86.1.100
■幹事長・副会長			
石村 優悟	(株)山村萬盛堂	代表取締役社長	
井上 良弘	井上喜(株)	代表取締役社長	
川原 健	(株)ふくや	代表取締役社長	
大久保 太郎	アンドードライ(株)	代表取締役社長	
小原 健史	(株)和多屋別荘	代表取締役社長	
古莊 和文	(株)シロヤバリガン	代表取締役社長	
宮崎 元基	西日本電信電話(株)	代表取締役社長	
橋田 基一	九州電力(株)	代表取締役社長	
葛江洲 文雄	西日本電信電話(株)	代表取締役社長	
小早川 明徳	(社)福岡県中小企業経営者協議会	会長	
■常任幹事			
大串 康一郎	九州ユービーグループ協議会	参与	
■幹事・理事			
入江 伸明	入江興産(株)	代表取締役社長	'94.1.99
中原 幹雄	(株)ゼンリン	代表取締役社長	'86.1.93
岩尾 麗一	岩尾磁器工業(株)	非常勤講師	'86.1.93
植木 とみ子	福岡市	企画部経営計画担当課長	'85.1.93
櫻本 重厚	(株)九州リースサービス	代表取締役社長	'85.1.91
遠藤 恵介	西鉄ガスエネルギー	代表取締役社長	'85.1.91
甲斐 隆博	(株)肥後銀行	専務取締役	
末吉 紀雄	カーラウエストホールディングス(株)	取締役顧問	
玉川 孝道	西日本新聞社	取締役顧問	
長尾 薫夫	西日本鉄道(株)	取締役顧問	
中島 慶美	雪海酒造(株)	取締役顧問	
右田 嘉章	(株)ホークスタウン	取締役顧問	
矢頭 美世子	(株)やすや	取締役顧問	
濱崎 繁洋	ヨーヨーコンダクタ九州(株)	取締役顧問	
馬見塚 謙	トヨタ自動車九州(株)	取締役顧問	
高橋 寿一郎	(株)高田工業所	取締役顧問	
大内田 勇成	(株)シティアスコム	取締役顧問	
菊地 克穂	全日本空輸(株)	取締役顧問	
笠場 成郎	(株)日本航空ジャパン	取締役顧問	
仲上 健一	立命館アジア太平洋大学	常務取締役	
鈴木 茂	北九州市	助役	
樋村 勤久	松尾建設(株)	顧問	
二又 大榮	久留米運送(株)	代表取締役社長	
水崎 修三	(株)JTB九州	代表取締役社長	

氏名	会社名	役員	就任
■参考			
西村 韶道	東南機器(株)	取締役副社長	
富井 史郎	福岡日産自動車(株)	代表取締役社長	
矢田 俊文	北九州市立大学	学長	
中島 喜盛	(株)日本航空インター・ナショナル	執行役員九州地区担当・福岡支店長	
安永 太郎	トヨタ自動車九州(株)	執行役員九州地区担当・福岡支店長	
徳田 真治	トヨタ自動車九州(株)	執行役員九州地区担当・福岡支店長	
丸山 芳範	全日本空輸(株)	代表取締役社長	
大西 茂	城山觀光(株)	代表取締役社長	
戸部田 浩一	丸福商事(株)	代表取締役社長	
井上 雄介	(株)福岡シティ銀行	常勤取締役	
堀 敏志	(株)西日本シティ銀行	代表取締役	
山下 順裕	日本銀行 福岡支店	支店長	
申妻 隆教	官崎県 福岡事務所	所長	
西山 哲朗	鹿児島県 福岡事務所	所長	
川口 修	経済産業省 九州地方整備局	局長	
大黒 伊勢夫	国土交通省 九州運輸局	局長	
田原 幸一	福岡県 福岡事務所	所長	
菅純一郎	熊本県 福岡事務所	所長	
山崎 朝	九州大学ベンチャービジネススクール	学長	
坂本 和一	立命館アジア太平洋大学	代表取締役社長	
竹内 駿夫	日本空輸(株)	代表取締役社長	
井上 登	ヨーヨーコンダクタ九州(株)	代表取締役社長	
高橋 寿一郎	(株)高田工業所	代表取締役	
大内田 勇成	(株)シティアスコム	代表取締役	
菊地 克穂	全日本空輸(株)	代表取締役	
笠場 成郎	(株)日本航空ジャパン	代表取締役	
仲上 健一	立命館アジア太平洋大学	常務取締役	
鈴木 茂	北九州市	助役	
樋村 勤久	松尾建設(株)	顧問	
二又 大榮	久留米運送(株)	代表取締役社長	
水崎 修三	(株)JTB九州	代表取締役社長	

氏名	会社名	役員	就任
■参考			
西村 韶道	東南機器(株)	取締役副社長	
富井 史郎	福岡日産自動車(株)	代表取締役社長	
矢田 俊文	北九州市立大学	学長	
中島 喜盛	(株)日本航空インター・ナショナル	執行役員九州地区担当・福岡支店長	
安永 太郎	トヨタ自動車九州(株)	執行役員九州地区担当・福岡支店長	
徳田 真治	トヨタ自動車九州(株)	執行役員九州地区担当・福岡支店長	
丸山 芳範	全日本空輸(株)	代表取締役社長	
大西 茂	城山觀光(株)	代表取締役社長	
戸部田 浩一	丸福商事(株)	代表取締役社長	
井上 雄介	(株)福岡シティ銀行	常勤取締役	
堀 敏志	(株)西日本シティ銀行	代表取締役	
山下 順裕	日本銀行 福岡支店	支店長	
申妻 隆教	官崎県 福岡事務所	所長	
西山 哲朗	鹿児島県 福岡事務所	所長	
川口 修	経済産業省 九州地方整備局	局長	
大黒 伊勢夫	国土交通省 九州運輸局	局長	
田原 幸一	福岡県 福岡事務所	所長	
菅純一郎	熊本県 福岡事務所	所長	
山崎 朝	九州大学ベンチャービジネススクール	学長	
坂本 和一	立命館アジア太平洋大学	代表取締役社長	
竹内 駿夫	日本空輸(株)	代表取締役社長	
井上 登	ヨーヨーコンダクタ九州(株)	代表取締役社長	
高橋 寿一郎	(株)高田工業所	代表取締役	
大内田 勇成	(株)シティアスコム	代表取締役	
菊地 克穂	全日本空輸(株)	代表取締役	
笠場 成郎	(株)日本航空ジャパン	代表取締役	
仲上 健一	立命館アジア太平洋大学	常務取締役	
鈴木 茂	北九州市	助役	
樋村 勤久	松尾建設(株)	顧問	
二又 大榮	久留米運送(株)	代表取締役社長	
水崎 修三	(株)JTB九州	代表取締役社長	

九州経済フォーラム定例会

スピー・カー(会社名)	スピー・カー(御役職)	スピー・カー(御氏名)
大蔵省	国際機構課長	久保田 勇夫
通商産業省	自動車課長	中川 勝弘
大蔵省	官房参事官	山本 幸三
国土庁	官房次官	黒田 東彦
大蔵省	主計局幹部	吉原 時哉
京都大学	講師	井上 輪
通商産業省	監修官房幹務課長	矢野 勉
大蔵省	大蔵官房幹務課長	間仁田 幸雄
北海道開発厅	専務取締役	麻生 波
大蔵省	主計局税制第一課課長	長野 駿士
(株)スペースワールド	監修官房業務課長	西方 俊平
大蔵省	予算課長	竹内 克伸
通商産業省	九州通商産業局長	山口 労
大蔵省	代表 憲法学会会長	伊藤 哲夫
通商産業省	農業政策局サービス産業室補佐	平田 竹男
大蔵省	農業政策局サービス産業室補佐	菊竹 清文
九州大学	官房調査企画課長	久保田 勇夫
前總務廳	九州通商産業局長	竹内 克伸
大蔵省	企画開拓部長	間仁田 幸雄
熊本県	企画開拓部長	松本 康
大蔵省	企画開拓部長	丹賀 泰輔
衆議院議員	企画開拓部長	太田 誠一
長官官房審議官	企画開拓部長	太田 誠一
大蔵省	企画開拓部長	山本 幸三
前總務廳	企画開拓部長	金指 正雄
大蔵省	企画開拓部長	長畠 真原
衆議院議員	企画開拓部長	林 基
日本経済新聞社	企画開拓部長	船橋 晴雄
(社)財政金融調査会	企画開拓部長	太田 誠一
衆議院議員	企画開拓部長	北畠 隆生
福岡大学	企画開拓部長	石原 雄
大蔵省 金融監督庁	企画開拓部長	四島 司
衆議院議員	企画開拓部長	
福岡大学	企画開拓部長	
大蔵省 金融監督庁	企画開拓部長	
衆議院議員	企画開拓部長	
福岡大学	企画開拓部長	
大蔵省 金融監督庁	企画開拓部長	
衆議院議員	企画開拓部長	
福岡シティ銀行	企画開拓部長	
頭取	企画開拓部長	
福岡旅客鉄道(株)	企画開拓部長	
第34回	平成18年 12月	大前研一氏と学んだドバイレポート
第31回	平成15年 12月	運輸をめぐる課題と展望、環境と観光を中心につく 九州の社会資本整備について
第32回	平成16年 12月	福岡の不動産ブランドの概要
第33回	平成17年 12月	日本の将来と行財政改革
第26回	平成9年 12月	世界の食料需給
第27回	平成10年 12月	日本経済の原点と歴史を辿る この国の「かたも」
第28回	平成10年 12月	「日本経済の成長力」と「ビジネス」—国際競争力— 革命・環境エネルギー創約!
第29回	平成12年 12月	最近思うこと
第30回	平成14年 12月	
第31回	昭和61年 4月14日	テーマに関する情報なし
第1回	昭和61年 4月14日	スピー・カー(会社名)
スピー・カー(御氏名)	スピー・カー(会社名)	スピー・カー(御氏名)
福岡工業大学	福岡工業大学	福岡工業大学
青柳工業(株)	青柳工業(株)	青柳工業(株)
コスマモンドスタントン(株)	コスマモンドスタントン(株)	コスマモンドスタントン(株)
大蔵省 福岡財務支局	大蔵省 福岡財務支局	大蔵省 福岡財務支局
NTT福岡支社	NTT福岡支社	NTT福岡支社
アーリカンセンター	アーリカンセンター	アーリカンセンター
(株)リンクガーハット	(株)リンクガーハット	(株)リンクガーハット
田中産業(株)	田中産業(株)	田中産業(株)
麻生商事(株)	麻生商事(株)	麻生商事(株)
福岡県 企画振興課	福岡県 企画振興課	福岡県 企画振興課
井上喜(株)	井上喜(株)	井上喜(株)
(株)ふくや	(株)ふくや	(株)ふくや
日本電気(株)	日本電気(株)	日本電気(株)
(株)ゼンリン	(株)ゼンリン	(株)ゼンリン
大川市	大川市	大川市
通商産業省 九州通商産業局	通商産業省 九州通商産業局	通商産業省 九州通商産業局
(株)西日本銀行	(株)西日本銀行	(株)西日本銀行
福岡市企画調整部	福岡市企画調整部	福岡市企画調整部
九州工業大学 情報工学部	九州工業大学 情報工学部	九州工業大学 情報工学部
(株)岩田屋	(株)岩田屋	(株)岩田屋
日本銀行 福岡支店	日本銀行 福岡支店	日本銀行 福岡支店
九州大学	九州大学	九州大学
ひぐち企業グループ	ひぐち企業グループ	ひぐち企業グループ
(株)加根又本店	(株)加根又本店	(株)加根又本店
福岡県商工部商工振興課	福岡県商工部商工振興課	福岡県商工部商工振興課
福岡支店	福岡支店	福岡支店
藤田 國支店長	藤田 國支店長	藤田 國支店長
山下 開発部長	山下 開発部長	山下 開発部長
菅 社長	菅 社長	菅 社長
高谷 専務	高谷 専務	高谷 専務
中牟田 営業副本部長	中牟田 営業副本部長	中牟田 営業副本部長
安田 支店長	安田 支店長	安田 支店長
田中 健蔵 前学長	田中 健蔵 前学長	田中 健蔵 前学長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志岐 部長	志岐 部長
井上 社長	井上 社長	井上 社長
川原 専務	川原 専務	川原 専務
藤原 支社長	藤原 支社長	藤原 支社長
吉田 学部長	吉田 学部長	吉田 学部長
佐久間 局長	佐久間 局長	佐久間 局長
大迫 社長	大迫 社長	大迫 社長
中村 市長	中村 市長	中村 市長
山本 國際部副長	山本 國際部副長	山本 國際部副長
志岐 部長	志	

九州經濟アーテム早朝会

	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	スピーカー(御氏名)
第37回	平成3年 1月17日	男に代わる女性の戦力	アメリカ最近事情	モーリーに関する情報なし
第35回	10月24日	9月28日	8月21日	高感度企業への歩み
第34回	6月26日	4月18日	3月22日	世界を結ぶショーピング
第33回	6月26日	4月18日	3月22日	21世紀を支えるこれからの生活者像
第32回	6月26日	4月18日	3月22日	最新の九州通産局の動き
第31回	6月26日	4月18日	3月22日	F.M.放送の課題と展望
第30回	2月27日	1月10日	1月10日	大正村の開拓 初代村長 高峰三枝子さん
第29回	平成2年 1月10日	11月14日	10月13日	わが社の多角化戦略
第28回	平成2年 1月10日	11月14日	10月13日	人手不足の労働事情
第27回	8月22日	6月14日	5月22日	超高速船の現状と課題
第26回	8月22日	6月14日	5月22日	新しい東欧情勢
第25回	6月14日	5月22日	4月18日	高齢化社会のこれから
第24回	4月11日	3月22日	2月27日	県庁跡地を文化のシンボルにしよう
第23回	2月14日	1月10日	1月10日	肥前夢街道事業計画について
第22回	2月14日	1月10日	1月10日	インドネシア・レポート
第21回	11月8日	9月13日	8月19日	スピーク
第20回	11月8日	9月13日	8月19日	スピーク
第19回	7月12日	4月12日	4月12日	スピーク
第18回	7月12日	4月12日	4月12日	スピーク
第17回	7月12日	4月12日	4月12日	スピーク
第16回	7月12日	4月12日	4月12日	スピーク
第15回	昭和63年 1月19日	1月19日	1月19日	スピーク
第14回	昭和63年 1月19日	1月19日	1月19日	スピーク
第13回	11月10日	10月13日	10月13日	スピーク
第12回	8月11日	8月11日	8月11日	スピーク
第11回	7月14日	7月14日	7月14日	スピーク

JR九州 企画本部	石原 経営管理室長
千島屋	原田 専務
日本銀行 福岡支店	安田 支店長
(株)福岡銀行	友松 取締役支店長
日本磁力測量(株)	山本 次長
運輸省 第四港湾建設局 博多港工事事務所	五百歳 主任研究員
大蔵省 福岡財務支局	宇尾 所長
大川市	中島 支局長
大蔵省 福岡国税局	加藤 局長
(株)ふくや	川原 専務
(株)リンク一ハット	米濱 社長
青柳工業(株)	青柳 社長
九州産業大学	大村 教授
NTT福岡支社	中村 支社長
通商産業省 九州通商産業局	井上 社長
(株)石村萬盛堂	石村 社長
日本電気(株) 九州支社	藤原 支社長
フンドーダイ醸油(株)	笠原 支店長
(社)福岡県中小企業経営者協会	久保田 企画課長
大蔵省 福岡財務支局	大久保 社長
建設省 九州地方建設局	本坊 常務取締役
薩摩酒造(株)	大塚 常勤監査役
福岡空港ビル(株)	櫻本 社長
福岡地所(株)	山下 取締役
ひくち企業グループ	(経営計画推進副本部長)
運輸省 第四港湾建設局博多港工事事務所	西島 所長
(株)九州西武	西村 代表取締役専務
(株)丸菱	本田 取締役
(株)和多屋別荘	外食資材事業部長
福岡工業大学	入江 助教授
(株)佐賀主婦の店	小原 社長
通商産業省 九州通商産業局商工課	笠原 支店長
福岡県 地方課	西島 所長
日本銀行 福岡支店	井上 社長
運輸省 第四港湾建設局博多港工事事務所	牛島 副社長
日本生命保険(社)	佐伯 調査官
(株)九州二チイ	総務 企画振興係長
(株)九南	笠原 支店長
岩尾硝器工業(株)	西島 所長
(株)オリジナル・メディア・サービス	小林 取締役(九州営業局長)
エフコープ生活協同組合	横堀 取締役開発部長
(株)日本長期信用銀行 福岡支店	安田 社長
喜久丸漁業(株)	大谷 社長
建築家	岩尾 常務取締役
香蘭女子短期大学	高橋 専務理事
東光石油(株)	小山 副支店長
前駐オーストリア大使	大串 康一郎
福岡県 労働組長	井原 副社長
運輸省 九州運輸局 企画部長	井原 教授
福岡・マレーシア友好協会 常務理事	石原 社長
セコム(株) 九州第一統括部 福岡第一地域担当部長	数原 孝徳
西肥自動車(株) 常務取締役	渡邊 信
通商産業省 九州通商産業局 商工課長	福満 一男
(株)F.M.福岡 業務企画室長	大串 康一郎
長崎大学 助教授	植木 とみ子
建設省 九州地方建設局 企画課長	浦川 正保
三信産業(株) 代表取締役	光内 清
(株)はせがわ 社長	井上 公彦
(有)エンゼル商会 代表取締役	長谷川 哲一
(株)いのうえ貴金属 社長	関 孝成
(株)石村萬盛堂 社長	大野 朝男
(株)リクルート 九州支社 支社長代理	長谷川 哲一
伊東 克彦	石村 優輔

第52回	11月5日	外国人労働問題について アメリカ・中国・バチカンの旅から	福岡県 労働部長 (株)はせがわ 社長	五十嵐 明 長谷川 裕一
第53回	平成5年 1月26日	中国・大連に事業展開をはじめて 地球33番地	ひぐち企業グループ 取締役経営計画推進副本部長 日本電信電話(株) 福岡本部長	山下 雅博 上野 五太
第54回	2月18日	グループのトップ社長に就任して 「新時代への抱負」	リヨーユーバングループ 社長 運輸省 九州通商産業局長	北村 優策 雷崎 徹也
第55回	3月16日	競輪の話	(株)加根又本店 社長 (株)ユニードダイエー 社長	山下 邦勝 龜山 博光
第56回	4月13日	田舎者のお願い タクシー行政について	(株)サニー 社長 建設省 九州地方建設局	川上 義幸 西村 貞男
第57回	6月16日	不況下の我が社の対応 厳しい流通業界の社長に就任して	河川部 河川調査官 (株)九州西武 社長	川上 義幸 西村 貞男
第58回	7月15日	九州における潤いある川づくり 海の時代とマリノア	西日本リビング新聞社 報集長 通商産業省 九州通商産業局長	今里 順子 水谷 四郎
第59回	8月19日	アメリカにおける非営利団体の力と企業 なぜアジアの時代なのか	(株)和多屋別荘 社長 (株)ふくや 専務取締役	小原 健史 川原 健
第60回	9月9日	「佐賀21」の会の発足と佐賀県の将来 中国・モンゴル旅行雑感	福岡工業大学 助教授 (株)はせがわ 社長	入江 正武 長谷川 裕一
第61回	10月27日	九州と中國の経済交流について 景気について	(株)日本長期信用銀行 福岡支店 副支店長 中華人民共和国 駐福岡總領事館主席領事	竹内 正敏 片桐 靖夫
第62回	11月24日	オーストラリアからの最新輸入機会	日本銀行 福岡支店長 オーストラリア領事館 領事	張立國 クリストファー・N・リース
第63回	平成6年 1月19日	明中に明なし、闇中に明あり 天神地区における共同集配システムについて	(株)ハロー 社長 運輸省 九州運輸局長	牛島 真澄 龍野 孝雄
第64回	2月17日	福岡ドーム初年度の反省と2年目の対策 九州の新国際化時代	(株)ツインドームシティ 副社長 通商産業省 九州通商産業局国際室室長補佐	山岸 康三 藤方 富幸
第65回	3月17日	日米関係銀行の視点から みなどまち博多のウォーターフロント開発	(株)福岡シティ銀行 代表取締役専務 福岡市 港湾局 計画部長	井上 雄介 佐藤 孝夫
第66回	4月14日	当社の経営と今後の展開 県庁跡地・建設進む!アクロス福岡!	三洋信販(株) 取締役経営企画室室長 福岡県 財務部 県庁跡地対策課長	椎木 昭夫 久保 喬博
第67回	6月22日	いまだから優雅美人観察に応えるピックチャーンズだ コラソンホテルの誕生とこれから	(株)いのうえ貴金属 社長 西記自動車(株) 専務取締役	井上 健一 浦川 正保
第68回	7月21日	人の効率的な運用とシステムについて 観光の国際化とその将来	(株)ワコーコンサルタンツ 社長 (株)和多屋別荘 社長	吉原 建男 小原 健史
第69回	8月24日	世界・炎の博覧会―燃えて未来!	世界・炎の博覧会 事務局長	小森 久弘

第70回	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	スピーカー(御氏名)	
第71回	9月29日	九州NBC・東西経済文化視察を終えて 九州地理情報株式会社の試み 21世紀の福岡を支える福社計画	(株)ふくや 社長	川原 健	
第72回	10月20日	北部九州 平成6年湯水の現状と対応 シートワークホテル&リゾートの目指すもの 中国改革開放後の変化	東亜建設技術(株) 専務取締役 福岡市 民生局 福祉部長 建設省 九州地方建設局長 喜久丸漁業(株) 副社長 (株)ツインドームシティ 九州産業大学 経済学部 助教授 九州旅客鉄道(株) 取締役総務部長 (株)坂井正記商店 社長 日本銀行 福岡支店長 九州大学 経済学部 教授 福岡アメリカンセンター 副館長 (株)九州機関 社長	木下 泰二 植木 とみ子 荒牧 英城 井関 亮平 西村 貞男 佐伯 心高 長崎 紀彦 花田 早苗 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆 小川 雄平 西村 勝悟 井上 直樹 花田 寛 花田 真 矢田 俊文 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆	
第73回	11月25日	平成7年 1月26日 JAP九州のこれから	中国公用の問題点!我が社の場合! 中国人雇用の問題点!我が社の場合! シートワークホテル&リゾートの目指すもの 中国改革開放後の変化	中国進出を容易にする標準のシステム テクノマザーランド九州の実現に向けて 新福岡空港 七次空港 タイムリミット!新福岡空港の実現に向けて 電気事業変革の時代!規制緩和と自由化! 私の夢 九州経済の抱える問題と今後の展望 「やすや」が目標す通信販売 アジアと九州の国際化 雰感	阪神大震災と日本経済 九州未来会議 2030グランドデザインについて 福岡アメリカンセンターの役割 中国進出を容易にする標準のシステム テクノマザーランド九州の実現に向けて 新福岡空港 七次空港 タイムリミット!新福岡空港の実現に向けて 電気事業変革の時代!規制緩和と自由化! 私の夢 九州経済の抱える問題と今後の展望 「やすや」が目標す通信販売 アジアと九州の国際化 雰感
第74回	2月16日	屋根の上から見た日本の街			
第75回	3月6日				
第76回	4月20日				
第77回	6月14日				
第78回	6月20日				
第79回	6月22日				
第80回	7月20日				
第81回	7月25日				
第82回	8月22日				
第83回	9月25日				
第84回	10月26日				
第85回	11月23日				
第86回	1月23日				
第87回	2月15日				
第88回	3月5日				
第89回	9月26日	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	
第90回	10月17日	当社の現状と展望 シンセイタスカル心得 最近の不動産動向について 国際会議の舞台裏 規をめぐる話題	三洋信販(株) 副社長 藤原公認会計事務所 所長 島崎ハウジンググループ 代表 (株)コングレ取締役 (株)コングレ取締役 大蔵省 福岡国税局長 (有)坂本石灰工業所 取締役 西鉄旅行(株) ももち浜支店長 (株)シロヤバリガノ 社長 中華全國青年連合 三信産業(株) 社長 第一交通産業(株) 常務取締役本部長 (株)九州ニチイ 常務取締役 法務省 福岡入国管理局長 通商産業省 九州通商産業局商工部 中華全国青年連合 中國青年國際人材交流センター 駐日本主席代表 通商産業省 九州通商産業局商工部 ホテル日航ハウステンボス代表取締役副社長 (株)博多都ホテル 社長 日本開発銀行 福岡支店 企画調査課長	椎木 昭夫 椎木 伸 藤原 俊 井口 忠美 横野 真理 古出 哲彦 坂本 達宜 松田 勉 横山 遼男 古莊 和文 大野 翁男 木下 泰二 松本 利平 岩崎 三日子 金子 彰 石村 勝悟 井上 直樹 花田 早苗 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆 小川 雄平 西村 勝悟 井上 直樹 花田 早苗 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆	
第91回	11月8日	日本経済を巡る当面の諸問題 北欧の高福祉事業見聞 九州の高速道路の概要 「景」について雰感	日本最新事情と将来展望 熊本の元気 中国最新事情と将来展望 2003とえボーライブントについて 九州地域における新規産業の創出について 元気都市・大分。		
第92回	1月21日	日本経済を巡る当面の諸問題 思い切り、見切り、踏み切りの心 九州の高速道路の概要 「景」について雰感	ハウスデンボスの現況とアジアに向かうの視点 福岡のホタル事情 外から見た九州		
第93回	2月6日				
第94回	3月13日				
第95回	4月17日				
第96回	5月26日				
第97回	6月23日				
第98回	7月23日				
第99回	8月6日				
第100回	9月30日				
第101回	11月25日				
第102回	1月28日				
第103回	2月19日				
第104回	3月25日				
第105回	4月21日				
第106回	6月25日				

第70回	9月29日	九州NBC・東西経済文化視察を終えて 九州地理情報株式会社の試み 21世紀の福岡を支える福社計画	(株)ふくや 社長	川原 健	
第71回	10月20日	東亜建設技術(株) 専務取締役 福岡市 民生局 福祉部長 建設省 九州地方建設局長 喜久丸漁業(株) 副社長 (株)ツインドームシティ 九州産業大学 経済学部 助教授 九州旅客鉄道(株) 取締役総務部長 (株)坂井正記商店 社長 日本銀行 福岡支店長 九州大学 経済学部 教授 福岡アメリカンセンター 副館長 (株)九州機関 社長	東亜建設技術(株) 専務取締役 福岡市 民生局 福祉部長 建設省 九州地方建設局長 喜久丸漁業(株) 副社長 (株)ツインドームシティ 九州産業大学 経済学部 助教授 九州旅客鉄道(株) 取締役総務部長 (株)坂井正記商店 社長 日本銀行 福岡支店長 九州大学 経済学部 教授 福岡アメリカンセンター 副館長 (株)九州機関 社長	木下 泰二 植木 とみ子 荒牧 英城 井関 亮平 西村 貞男 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆	
第72回	11月25日	中国公用の問題点!我が社の場合! 中国人雇用の問題点!我が社の場合! シートワークホテル&リゾートの目指すもの 中国改革開放後の変化	阪神大震災と日本経済 九州未来会議 2030グランドデザインについて 福岡アメリカンセンターの役割 中国進出を容易にする標準のシステム テクノマザーランド九州の実現に向けて 新福岡空港 七次空港 タイムリミット!新福岡空港の実現に向けて 電気事業変革の時代!規制緩和と自由化! 私の夢 九州経済の抱える問題と今後の展望 「やすや」が目標す通信販売 アジアと九州の国際化 雰感	阪神大震災と日本経済 九州未来会議 2030グランドデザインについて 福岡アメリカンセンターの役割 中国進出を容易にする標準のシステム テクノマザーランド九州の実現に向けて 新福岡空港 七次空港 タイムリミット!新福岡空港の実現に向けて 電気事業変革の時代!規制緩和と自由化! 私の夢 九州経済の抱える問題と今後の展望 「やすや」が目標す通信販売 アジアと九州の国際化 雰感	井下 泰二 植木 とみ子 荒牧 英城 井関 亮平 西村 貞男 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆
第73回	1月26日	JAP九州のこれから			
第74回	2月16日	屋根の上から見た日本の街			
第75回	3月6日				
第76回	4月20日				
第77回	6月14日				
第78回	6月20日				
第79回	6月22日				
第80回	7月20日				
第81回	7月25日				
第82回	8月22日				
第83回	9月25日				
第84回	10月26日				
第85回	11月23日				
第86回	1月23日				
第87回	2月15日				
第88回	3月5日				
第89回	9月26日	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	
第90回	10月17日	当社の現状と展望 シンセイタスカル心得 最近の不動産動向について 国際会議の舞台裏 規をめぐる話題	三洋信販(株) 副社長 藤原公認会計事務所 所長 島崎ハウジンググループ 代表 (株)コングレ取締役 (株)コングレ取締役 大蔵省 福岡国税局長 (有)坂本石灰工業所 取締役 西鉄旅行(株) ももち浜支店長 (株)シロヤバリガノ 社長 中華全國青年連合 三信産業(株) 社長 第一交通産業(株) 常務取締役本部長 (株)九州ニチイ 常務取締役 法務省 福岡入国管理局長 通商産業省 九州通商産業局商工部 中華全國青年連合 中國青年國際人材交流センター 駐日本主席代表 通商産業省 九州通商産業局商工部 ホテル日航ハウステンボス代表取締役副社長 (株)博多都ホテル 社長 日本開発銀行 福岡支店 企画調査課長	椎木 昭夫 椎木 伸 藤原 俊 井口 忠美 横野 真理 古出 哲彦 坂本 達宜 松田 勉 横山 遼男 古莊 和文 大野 翁男 木下 泰二 松本 利平 岩崎 三日子 金子 彰 石村 勝悟 井上 直樹 花田 早苗 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆	川原 健 木下 泰二 植木 とみ子 荒牧 英城 井関 亮平 西村 貞男 片桐 靖夫 山岸 康三 文 言 石原 道 坂井 正隆
第91回	11月8日	日本経済を巡る当面の諸問題 思い切り、見切り、踏み切りの心 九州の高速道路の概要 「景」について雰感	中国最新事情と将来展望 熊本の元気 中国最新事情と将来展望 2003とえボーライブントについて 九州地域における新規産業の創出について 元気都市・大分。		
第92回	1月21日	日本経済を巡る当面の諸問題 思い切り、見切り、踏み切りの心 九州の高速道路の概要 「景」について雰感	ハウスデンボスの現況とアジアに向かうの視点 福岡のホタル事情 外から見た九州		
第93回	2月6日				
第94回	3月13日				
第95回	4月17日				
第96回	5月26日				
第97回	6月23日				
第98回	7月23日				
第99回	8月6日				
第100回	9月30日				
第101回	11月25日				
第102回	1月28日				
第103回	2月19日				
第104回	3月25日				
第105回	4月21日				
第106回	6月25日				

開催日	ナーマ	スピーカー(会社名)	スピーカー(御氏名)
第107回 7月28日	MITI九州アジア・スキーム「共生的発展のためのアジア政策」	通商産業省 九州通商産業局 國際グループ 国際課長	佐伯 心高
第108回 9月17日	福岡県の留学生施策	(財)福岡県国際交流センター 専務理事	藤本 英夫
第109回 11月11日	最近の金融経済動向	日本銀行 福岡支店長	大野 和彦
第110回 1月13日	中銀協の現況と創立5周年記念事業について	(株)松下美紀良明設計事務所代表取締役社長	松下 美紀
第111回 3月4日	都市の光と影	(社)福岡県中小企業経営者協会常務理事	中島 正勝
第112回 4月14日	最近の金融経済動向	(株)ヒノテ屋 代表取締役社長	木下 泰一
第113回 6月9日	運輸の規制緩和	日本銀行 福岡支店長	西尾 純一郎
第114回 7月26日	九州・福岡の元気の秘密	運輸省 九州運輸局長	上子 道雄
第115回 7月26日	これから信用保証について	日本開発銀行 福岡支店 企画調査課長	松本 正憲
第116回 9月16日	経営理念は何處に	福岡県信用保証会 常務理事	安永 英賀
第117回 10月20日	スポーツとしてのゴルフを考える	(有)阪本石炭工業所 常務取締役	坂本 達宣
第118回 1月13日	アメリカ由来を感じた給与体系のあり方	(財)西日本産業貿易見本市協会 専務理事	光内 清
第119回 3月9日	町長選挙を戦い終えて敗軍の者が語る反省点!	レイン(株) 代表取締役社長	今井 千恵
第120回 4月20日	本業以外に手を出すな!大英科学博物館展!	東亜建設技術(株) 代表取締役社長	木下 泰一
第121回 6月16日	中南米情勢を中心とした国際情勢	(株)料飲企画設計 代表取締役社長	小瀬 微
第122回 7月11日	「魅力にあふれる住みよい九州」を目指して	九州産業大学 元学長	大村 幸生
第123回 9月27日	JR博多駅について	九州産業大学 元学長	高尾 豊
第124回 10月18日	女性図書事業サミット	(株)佐伯建設 代表取締役社長	坂中 英徳
第125回 1月15日	我が社の「社寺建築」	米州開発銀行(IRD) 日本代表理事	末吉 紀雄
第126回 2月26日	2000年経済の展望	建設省 九州地方建設局 局長	山尾 太一
第127回 4月19日	九州における外国人の入国・在留状況	九州旅客鉄道(株) 常務取締役	矢野 善華
第128回 6月14日	コカ・コーラウエストジャパンの工場	JR博多駅 代表取締役社長	石原 進
第129回 7月11日	日本の株式マーケットを取り巻く環境	福岡県観光課(株) 代表取締役	碑田 美子
第130回 9月19日	最近のロシア事情について	福岡県観光課(株) 代表取締役	川崎 哲一
第131回 10月18日	アカオカ・ベンチャーマーケットについて	法務省 福岡入国管理局 局長	坂井 正隆
第132回 10月27日	福岡ドームの近況報告	コカ・コーラウエストジャパン(株) 取締役副社長	西尾 純一郎
第133回 3月26日	「人生と島耕」人生の難問にどう対処すべきか	日本銀行 福岡支店長	西尾 純一郎
第134回 5月9日	創業者 矢頭宣男の残した財産	日本銀行 福岡支店長	西尾 純一郎
第135回 6月13日	福岡空港の現在と未来	法務省 福岡入国管理局 局長	西尾 純一郎
第136回 10月2日	瓦屋さんが始めた「ピラネスク」	コカ・コーラウエストジャパン(株) 取締役副社長	坂井 正隆
第137回 1月9日	アカオカ・ベンチャーマーケットについて	野村證券(株) 福岡支店長	吉田 実
第138回 4月17日	これからの物流	(株)福岡ドーム 営業本部副本部長	山崎 太一
第139回 7月24日	年頭挨拶	野村證券(株) 福岡支店長	吉田 実
第140回 10月22日	IC共通バスカードシステム	(株)坂井正記商店 代表社員	吉田 実
第141回 11月21日	平成15年	筑後地区農業共済組合 副組合長理事	中村 光生
第142回 1月30日	第3世代携帯電話について	(株)やすや 代表取締役社長	吉田 光世子
第143回 3月5日	九大のビジネススクール構想	通輸省第四港湾建設局 博多港空港工事事務所長	坂井 正隆
第144回 3月23日	産業クラスター計画	(株)坂井正記商店 代表社員	吉田 光世子
第145回 4月28日	日・シンガポール新時代経済連携協定の内容と意義	丸福商事(株) 取締役社長	坂井 正隆
第146回 6月10日	最近の動向について	(株)ランティック 代表取締役社長	高谷 孝
第147回 1月30日	私の地域開発にかける夢	(株)はせがわ 代表取締役社長	長谷川 勉一
第148回 2月1日	若者の人材育成の鍵 インターンシップ	(株)井浦商会 代表取締役社長	井浦 正之
第149回 10月22日	九州文化・観光戦略研究会について	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州 取締役モバイルマルチメディア部長	戸部田 浩一
第150回 11月21日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	高谷 孝
第151回 1月30日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	ハウステンボス(株) 福岡支社長	佐藤 文俊
第152回 3月5日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	野村證券(株) 福岡支店長	宮崎 良介
第153回 3月23日	21世紀の九州地域戦略	(株)福岡ドーム 営業本部 副本部長	中谷 正紀
第154回 4月28日	地域密着型ベンチャーファンドについて	九州大学 経済学部 教授	吉原 康夫
第155回 6月13日	市村自然塾について	経済産業省 九州経済産業局 局長	吉原 康夫
第156回 10月2日	大学の国際競争力について	(株)福岡ドーム 営業本部 副本部長	山崎 良
第157回 1月9日	国際交流の歴史と長崎くんち	経済産業省 通商政策局 地域協力課長	松山 謙久
第158回 4月17日	最近の動向について	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ九州 取締役モバイルマルチメディア部長	石原 道
第159回 7月24日	私の地域開発にかける夢	日本銀行 福岡支店長	佐藤 文俊
第160回 10月22日	若者の人材育成の鍵 インターンシップ	ハウステンボス(株) 福岡支社長	宮崎 良介
第161回 11月21日	世界のロイヤル チェスを目指して	野村證券(株) 福岡支店長	中谷 正紀
第162回 1月30日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	(株)福岡ドーム 営業本部 副本部長	吉原 康夫
第163回 3月5日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第164回 3月23日	地域密着型ベンチャーファンドについて	ハウステンボス(株) 福岡支社長	吉原 康夫
第165回 4月28日	地域密着型ベンチャーファンドについて	野村證券(株) 福岡支店長	吉原 康夫
第166回 6月10日	奇跡の薬発見機「PEP」の威力	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第167回 1月30日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第168回 2月1日	水からの伝言!自分を愛するということ	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第169回 10月22日	知事という仕事!現場で感じる地方自治!	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第170回 11月21日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第171回 1月30日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第172回 3月5日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第173回 3月23日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第174回 4月28日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第175回 6月10日	奇跡の薬発見機「PEP」の威力	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第176回 1月30日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第177回 2月1日	水からの伝言!自分を愛するということ	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第178回 10月22日	知事という仕事!現場で感じる地方自治!	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第179回 11月21日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第180回 1月30日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第181回 3月5日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第182回 3月23日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第183回 4月28日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第184回 6月10日	奇跡の薬発見機「PEP」の威力	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第185回 1月30日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第186回 2月1日	水からの伝言!自分を愛するということ	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第187回 10月22日	知事という仕事!現場で感じる地方自治!	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第188回 11月21日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第189回 1月30日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第190回 3月5日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第191回 3月23日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第192回 4月28日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第193回 6月10日	奇跡の薬発見機「PEP」の威力	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第194回 1月30日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第195回 2月1日	水からの伝言!自分を愛するということ	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第196回 10月22日	知事という仕事!現場で感じる地方自治!	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第197回 11月21日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第198回 1月30日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第199回 3月5日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第200回 3月23日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第201回 4月28日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第202回 6月10日	奇跡の薬発見機「PEP」の威力	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第203回 1月30日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第204回 2月1日	水からの伝言!自分を愛するということ	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第205回 10月22日	知事という仕事!現場で感じる地方自治!	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第206回 11月21日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第207回 1月30日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第208回 3月5日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第209回 3月23日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第210回 4月28日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第211回 6月10日	奇跡の薬発見機「PEP」の威力	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第212回 1月30日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第213回 2月1日	水からの伝言!自分を愛するということ	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第214回 10月22日	知事という仕事!現場で感じる地方自治!	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第215回 11月21日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第216回 1月30日	21世紀の九州地域戦略	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第217回 3月5日	地域密着型ベンチャーファンドについて	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第218回 3月23日	世界のロイヤル チェスを目指して	日本銀行 福岡支店長	吉原 康夫
第219回 4月28日	九州文化・観光戦略研究会を推進する上の基本的考え方について	日本銀行 福岡支店長	吉

	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	スピーカー(御氏名)
第1回	平成8年 7月1日	福岡都市圏と21世紀 福岡市のまちづくりと新しい福岡市基本計画	西日本新聞社 編集局次長兼地域報道部長	前大分県知事
第2回	8月21日	福岡市がまちづくり新規福岡市基本計画 アジアビジネス最新動向	福岡市 職務局長	立命館アジア太平洋大学 学長
第3回	10月31日	アジアビジネス最新動向 後の中が変わる、世界が変わる	(株)アジアビジネスセンター 代表取締役社長	ニューヨーク市立大学 教授
第4回	2月27日	平成9年 2月27日 日本3番目の外国語FM「LOVE-FM」	通商産業省 九州通商産業局 岐政課長	西日本鉄道(株) 代表取締役
第5回	8月21日	多チャンネル化時代を迎えて、現在の地上放送の生き残り戦略 FM	(株)九州国際エフエム 代表取締役専務	(株)福岡銀行 副頭取
第6回	10月2日	多チャンネル化時代を迎えて、現在の地上放送の生き残り戦略 FM	(株)テレビ西日本 鮎田義和	日本電気(株) 執行役員常務
第7回	2月2日	平成10年 2月2日 パソコンビジネスの将来展望	(株)システムソフト 代表取締役社長	西鉄バス 大阪支店長
第8回	8月25日	福岡の21世紀 アメリカの対日経済政策について	福岡県知事	九州大学 大学院 経済学府 教授
第9回	10月29日	最近の金融システムにかかる諸問題 ハイパー・オーストリア構想	(株)西日本銀行会長(九州商工会議所連合会会長)	亞細亞大学 法学部 教授
第10回	平成11年 2月23日	最近の金融システムにかかる諸問題 ハイパー・オーストリア構想	(株)九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長	北九州市立大学 学長
第11回	8月23日	21世紀のアジアと九州 九州の発展戦略と「21九州」	西日本新聞社 編集局次長兼地域報道部長	アトリエ浮来 一級建築士
第12回	11月10日	九州からアジアへ、私達の翼 筑崎宮あれこれ	スカイネット・アジア航空(株) 代表取締役社長	北九州市立大学 学長
第13回	2月9日	平成12年 2月9日 国際化のエビロード	福岡市 職務局長	矢田俊文
第14回	8月29日	平成14年 8月8日 産官学連携によるアジア九州ビジネススクール構想	九州工業大学 情報工学部 教授	大石明
第15回	10月24日	平成15年 10月24日 九州の新時代と「21九州」	九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長	鶴見芳浩
第16回	5月25日	平成2年 5月25日 福岡新本社ビルと創業10年の経営戦略	九州電力(株) 常務取締役	長尾重夫
第17回	5月29日	平成15年 5月29日 福岡の新時代と「21九州」	九州国際エフエム 代表取締役専務	井田敏
第18回	3月18日	平成3年 3月18日 ハイパー・オーストリア構想	(株)テレビ西日本 鮎田義和	東中野修道
第19回	9月17日	平成16年 9月17日 九州の現状と、今後の発展戦略について	(株)システムソフト 代表取締役社長	森川義彦
第20回	8月26日	平成17年 8月26日 博多の文化について	福岡県知事	中村明雄
	8月1日	九州の個性と未来	(株)西日本銀行会長(九州商工会議所連合会会長)	末吉紀雄
			(株)九州山口経済連合会 副会長	佐藤優
			(九州・山口経済連合会 副会長)	佐藤優
			石井幸孝	平松守彦
			長谷川法世	モントセラセム
			石井歎	大石明
			佐藤隆治	鶴見芳浩
			川越宏樹	長尾重夫
			丸山康幸	井田敏
			高野恵三	東中野修道
			鶴見芳浩	森川義彦
			田村靖邦	中村明雄
			山川烈	末吉紀雄
			石原進	佐藤隆治
			橋田聰一	長尾重夫
			高野恵三	鶴見芳浩
			大内和臣	川越宏樹
			石井幸孝	丸山康幸
			藤井輝彰	井田敏
			中島勝巳	高野恵三
			上野伸正	鶴見芳浩
			松下美紀	長尾重夫
			吉田清治	末吉紀雄
			吉田清治	佐藤優
			矢野俊文	平松守彦
			賀来龍三郎	モントセラセム
			横田俊之	大石明
			上野黄	鶴見芳浩
			住田勲	長尾重夫
			矢野俊文	モントセラセム
			石原進	井田敏
			嘉六	高野恵三

九州経済フォーラム定期総会

	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	スピーカー(御氏名)
第1回	平成8年 7月1日	福岡都市圏と21世紀 福岡市のまちづくり新規福岡市基本計画	西日本新聞社 編集局次長兼地域報道部長	前大分県知事
第2回	8月21日	福岡市がまちづくり新規福岡市基本計画 アジアビジネス最新動向	福岡市 職務局長	立命館アジア太平洋大学 学長
第3回	10月31日	アジアビジネス最新動向 後の中が変わる、世界が変わる	(株)アジアビジネスセンター 代表取締役社長	ニューヨーク市立大学 教授
第4回	2月27日	平成9年 2月27日 日本3番目の外国語FM「LOVE-FM」	通商産業省 九州通商産業局 岐政課長	西日本鉄道(株) 代表取締役
第5回	8月21日	多チャンネル化時代を迎えて、現在の地上放送の生き残り戦略 FM	(株)九州国際エフエム 代表取締役専務	(株)福岡銀行 副頭取
第6回	10月2日	多チャンネル化時代を迎えて、現在の地上放送の生き残り戦略 FM	(株)テレビ西日本 鮎田義和	日本電気(株) 執行役員常務
第7回	2月2日	平成10年 2月2日 パソコンビジネスの将来展望	(株)システムソフト 代表取締役社長	西鉄バス 大阪支店長
第8回	8月25日	福岡の21世紀 アメリカの対日経済政策について	福岡県知事	九州大学 大学院 経済学府 教授
第9回	10月29日	最近の金融システムにかかる諸問題 ハイパー・オーストリア構想	(株)西日本銀行会長(九州商工会議所連合会会長)	亞細亞大学 法学部 教授
第10回	平成11年 2月23日	最近の金融システムにかかる諸問題 ハイパー・オーストリア構想	(株)九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長	北九州市立大学 学長
第11回	8月23日	21世紀のアジアと九州 九州の発展戦略と「21九州」	西日本新聞社 編集局次長兼地域報道部長	アトリエ浮来 一級建築士
第12回	11月10日	九州からアジアへ、私達の翼 筑崎宮あれこれ	スカイネット・アジア航空(株) 代表取締役社長	北九州市立大学 学長
第13回	2月9日	平成12年 2月9日 国際化のエビロード	福岡市 職務局長	矢田俊文
第14回	8月29日	平成14年 8月8日 産官学連携によるアジア九州ビジネススクール構想	九州工業大学 情報工学部 教授	大石明
第15回	5月25日	平成15年 5月25日 九州の新時代と「21九州」	九州旅客鉄道(株) 代表取締役社長	鶴見芳浩
第16回	5月29日	平成2年 5月29日 福岡新本社ビルと創業10年の経営戦略	九州電力(株) 常務取締役	長尾重夫
第17回	5月22日	平成15年 5月22日 福岡の新時代と「21九州」	九州国際エフエム 代表取締役専務	モントセラセム
第18回	5月20日	平成16年 5月20日 九州の未来展望	(株)テレビ西日本 鮎田義和	西日本鉄道(株) 代表取締役
第19回	5月19日	平成17年 5月19日 欧米の国際競争と九州開拓	(株)システムソフト 代表取締役社長	日本電気(株) 執行役員常務
第20回		21世紀の国際競争 広域国際交流圈と地域連携	(株)西日本新聞社 編集局次長兼地域報道部長	西日本新聞社 編集局次長兼地域報道部長

九州経済フォーラム車座談議

	開催日	テーマ	スピーカー(会社名)	スピーカー(御氏名)
第147回	10月8日	APU講義のねらい 日本の今日と明日	前大分県知事	平松守彦
第148回	平成17年 1月26日	日本経済のゆくえ 「日本から離れているから」と見える眞実	立命館アジア太平洋大学 学長	モントセラセム
第149回	3月2日	福岡の都心「天神」の現状と問題点について ユビキタス社会の到来	西日本鉄道(株) 代表取締役	大石明
第150回	3月31日	歴史の事実を知り、眞実を考えるパート2 建築・耐震強度偽装事件を考える	西日本銀行 副頭取	鶴見芳浩
第151回	6月29日	私が北九州市助役になつたわけ 日本の財政を考える	日本電気(株) 執行役員常務	長尾重夫
第152回	9月30日	北九州市立大学の留学生について 産業医学の振興と優れた産業医及び産業保健技術者の養成を目的として	北九州市立大学 学長	矢田俊文
第153回	11月17日	産業医学の振興と優れた産業医及び産業保健技術者の養成を目的として 九州ビジネススクールについて	西日本大学 大学院 経済学府 教授	大石明
第154回	11月17日	歴史の事実を知り、眞実を考えるパート2 建築・耐震強度偽装事件を考える	西鉄バス 大阪支店長	鶴見芳浩
第155回	10月18日	日本の財政を考える	アトリエ浮来 一級建築士	長尾重夫
第156回	11月17日	「コカ・コーラウエストホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO	コカ・コーラウエストホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO	末吉紀雄
第157回	1月31日	人生の舞台としての都市 「道州制を語る前に」 変化を起こす街づくり アニアクス・シーガイアリゾート、新しい年の挑戦	日本政策投資銀行 九州支店長	大石明
第158回	3月29日	アニアクス・シーガイアリゾート、新しい年の挑戦 インテリジェンスとは何か	拓殖大学 日本文化研究所 所長	鶴見芳浩
			学校法人 宮崎總合学院 理事長	長尾重夫
			フェニックスリゾート(株) 代表取締役社長	末吉紀雄
			外務省 元主任分析官	佐藤優

あとがき

九州経済フォーラム事務総長 小早川 明徳

記念事業を沖縄で 日本人の正義と 信義を取り戻したい

創立20周年の記念事業として、私達は沖縄に出向いて、沖縄の方々と一緒に「日本の国柄を考える」という、一番問われているわが国の本質的課題を考える場を設け、真正面から論議する大胆な試みを企画した。

大東亜戦争、とりわけ民族興亡の瀬戸際の戦いを強いられた沖縄県民にとって終戦間近にせまつた沖縄戦は、凄惨極まりない修羅場と化し言語に絶する壮絶な戦いを余儀なくされた地獄絵しながらの惨状であった。その犠牲の大きさは筆舌に尽くし難く、戦後62年余を経た今日、今尚、戦争の爪痕も深く、県民の心にその影を落としている。

今回、私たちが沖縄において記念事業を開こうと考えた意図は次の3点に要約される。まず、第一に、わが国の将来像を考えるにあたり、先の大戦で祖国防衛のため戦われたすべての方々への心からなる感謝の誠を捧げると共に、お亡くなり

になられた多くの英靈に対し満腔の敬意を表した上で、心新たに國家再建の行動を起こしたいと思うこと。次に、真の独立国家として、改めてわが国の新しい国家像を描こうとするとき、現在の沖縄がアメリカの占領統治下の影響を色濃く残すが故に、戦後、日本の弱体化を自論だ米国による「占領政策」の今尚残る物心両面にわたる呪縛の数々、その具体的な事実関係を明らかにしたいとの思いからである。

最後に、戦後長い間、わが国外において政治的に心ならずも利用されてきた沖縄で、偽装された世論づくり、内地から動員されプロ化した集会等を目的に、うつうつとして晴れることのなかつた良識ある島民の方々に、眞に人間(ひと)としての尊厳、民族としての同胞感、日本人としての正義と信義を取り戻して頂きたいとの希望(ねが)からであった。

まさに、明治初期の廃藩置県以来、創造性・自立性を喪失した旧来の中央集権的行政システムと、肥大化した地方自治行政の見直し、少子高齢化、女性の社会進出等の社会課題の変化や情報通信等の技術文明の発達による社会システム

の変化等への対応も正念場を迎えるなか、それらに先んじてやるべきこととして、先達によつて築かれた歴史の奥に息づくわが国の国柄を、いま一度明らかにする使命があるのではないかとの強烈な「おもい」が我々を沖縄に駆り立てていった大きなエネルギーであった。

フォーラムの組織再編

創設時のコンセプトが 「今尚、新しい」

さて、フォーラムの運営体制について、当確か平成12年の初秋の頃であったと記憶している。その後しばらくして、長谷川会長は主だった会員の方々にお集まり頂けられた。

年齢も近いある日、長谷川会長から「フォーラムの運営について、どうすべきか考え方をまとめておいて欲しい。」との要請があつた。常々、長谷川会長の国家観や哲学、あるいは、志の高さや見識の広さ、そして、何をおいてもその爆発的な行動

し、共催して開催することにした。加えて、同じ産業振興協議会で九州各県自治体に呼びかけて開催していた「福岡・博多への拠点開設・運営研究会」をベースに、日常的に交流を深めていた九州各県事務所との支援連携窓口を、産業振興協議会より経済フォーラムに移行し、併せて各事務所長の位置づけを組織上で明確にし、

創設時のコンセプトを磨きあげ、更に二代目会長大迫忍氏、三代目会長石原進氏と、その後5年の歳月を重ねるなか確実に原型に忠実に組織づくりは前進、九州各県との交流も活発に展開されている。

このように、創立から15年の節目で、このままではあふれ出る躍動する使命感、透徹された組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、

が網羅され、資料を拝読すればする程、その仕掛けのスケールの大きさに度肝を抜かれる思いであった。

私は毎月、ある時は理事会で、ある時

は早朝会で、創設時からの紐解く資料からあふれ出る躍動する使命感、透徹された組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、大胆にネットワークされた組織戦略、

力に敬服していた私は、九州経済フォーラム設立時の「若手経済人旗揚げ」という、西日本新聞に掲載されたあの朝の勇気ある行動の記事を思い出し、その役割の重要さをひしひしと感じていた。

翌、平成13年立春と言えども、まだ余寒厳しいある日「理事会の了解を得たので、具体的に作業に入りたい」と指示を受け、定例総会をメドに仕上げることとなつた。

設立時からの資料を紐解きながら更ながら「さすが」と思わずなるほど驚かされたのは、設立から15年の歳月を経たにもかかわらず、コンセプトが今また良識ある島民の方々に、眞に人間(ひと)としての尊厳、民族としての同胞感、日本人としての正義と信義を取り戻して頂きたいとの希望(ねが)からであった。

さすがに、明治初期の廃藩置県以来、創造性・自立性を喪失した旧来の中央集権的行政システムと、肥大化した地方自治行政の見直し、少子高齢化、女性の社会進出等の社会課題の変化や情報通信等の技術文明の発達による社会システム

の変化等への対応も正念場を迎えるなか、それらに先んじてやるべきこととして、先達によつて築かれた歴史の奥に息づくわが国の国柄を、いま一度明らかにする使命があるのではないかとの強烈な「おもい」が我々を沖縄に駆り立てていった大きなエネルギーであった。

さすがに、明治初期の廃藩置県以来、創造性・自立性を喪失した旧来の中央集権的行政システムと、肥大化した地方自治行政の見直し、少子高

Kyushu Economic Forum

Commemoration magazine

九州経済フォーラム20周年記念誌

拓こう九州新時代 創ろう九州新世紀

九州経済フォーラム創立二十周年記念誌

二〇〇八年六月発行

発行／九州経済フォーラム

〒八三一〇〇二

福岡市博多区博多駅前二丁目九一二八

TEL〇九一一四五一八五九三

発行人／事務総長 小早川 明徳

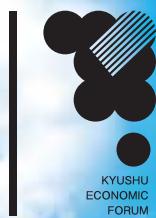
デザイナー／株式会社 デザインQ 寺師 秀史

印刷／株式会社 博多印刷

編集／九州経済フォーラム事務局

内田 雄一郎・西根 秀平・浦脇 康祐・行弘 賢治・佐久間 俊輔

無断転載を禁じます。
乱丁・落丁本はお取り替え致します。



九州経済フォーラム

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前2丁目9番28号

商工会議所ビル1F 福岡県中経協内

TEL:092-451-8593 FAX:092-451-9379